

工-4114

260

2198
178
100



大日本地誌 卷四

理學士山崎直方
理學士佐藤傳藏 共編

東京博文館藏版

明治
38 12 23
丙辰

緒言

吾大日本地誌は屢に刊行せる三卷に於て、先づ日本本島の東半を説き、今や進んで近畿地方に入れり。蓋し近畿の地たる其面積或は本邦中部地方に比して一步を譲るも、其地形必ずしも單調なりとせず、本邦南彎の山系は南部に連亘して熊野の峻嶺をなし、同名の蒼海直に其岸を洗ひ、瀬戸内の陥落帯は中部に侵入して、其間或は琵琶の太湖を湛え、或は金剛比叡の名山を殘し、其他別に山水の美を以て稱せらるゝもの少なしとせず。殊に其人文上の發達は遠く上古より著はれて、歴代の帝都を置かれ、且つ其本邦中樞の地に位せるを以て、各種の産業夙に昌へ、就中商工の業は今日に至りて愈其勃興せるを認む。されば其地理學上の要素に富める點に於ては、敢て關東中部の地方に遜らずして、其編纂の爲め費せる時日と勞力は、前者に比して更に劣らざるものありき。爰に歲將に除せんとするに際して、漸く其校訂を了り、謹て江湖の一椀を請はんと欲す。唯、編者淺學、其記する所多岐に涉り、偏に正鵠を失はんを懼る。若し高教を吝まざるの士あらんには、幸曷ぞ之に如かん。

本書の編纂につきては吾人の立案と監修の下に於て地文に關する條は吾人兩者の執筆せるもの、外、理學士大日方順三氏を勞する所最多く、人文に關しては沿革の章は主として文學士小田倉啓氏を煩し、其他は田山録彌氏に負ふ所最も多く、武田櫻桃四郎前田、遠藤重男、伊藤良造の諸氏亦各種の方面に於て本書の編纂を補けられ、又挿圖に關する太田健吉郎氏の勞は吾人の最も多とする所なり。此他直接間接に本書の材料を供給せられ、又質疑に應ぜられたるの士に乏しからず。爰に此等の諸君に向て滿腔の謝意を表せんと欲す。

明治三十八年十二月

編者 識

大日本地誌卷四(近畿)目次

總論

第一編 地文

第一章 地形

概説

山城國

總説 ▲山嶽 ▲西北部 ▲東部 ▲東南部 ▲西南部 ▲京都附近の平原 ▲水系
▲加茂川 ▲桂川 ▲宇治川 ▲木津川 ▲巨椋池

大和國

總説 ▲葛城山脈 ▲笠置山脈 ▲三畝山脈 ▲吉野川以西紀伊山脈に屬するもの ▲吉野川上流北山川以東の山脈 ▲大峯山脈 ▲大峯山脈の側派 ▲平原 ▲水系 ▲吉野川 ▲大和川 ▲十津川 ▲北山川 ▲宇陀川

河内國

和泉國 總説 ▲和泉山脈 ▲葛城山脈 ▲平原 ▲水系 ▲大和川 ▲石川 ▲湖沼 四七
 攝津國 總説 ▲和泉山脈 ▲平原 ▲水系 ▲大和川 ▲石津川 ▲大津川 ▲湖沼 ▲海岸 五一
 播磨國 總説 ▲老の阪山脈 ▲老の阪山脈の側派 ▲六甲山脈 ▲帝釋山脈 ▲平原 ▲水系 ▲澁川 ▲猪名川 ▲武庫川 ▲湖沼 ▲海岸 六二
 丹波國 總説 ▲大嵯川以南の山嶽 ▲由良川竹田川以西の山嶽 ▲上林川和知川以北の山嶽 ▲中部及東部の山嶽 ▲平原 ▲篠山盆地 ▲龜岡盆地 ▲水系 ▲山内川 ▲和知川 ▲土師川 ▲大俣川 ▲大嵯川 ▲佐治川 七六
 丹後國 八九

但馬國 總説 ▲飯盛山脈 ▲大江山脈 ▲經ヶ崎半島 ▲平原 ▲水系 ▲イサツ川 ▲山内川 ▲倉崎川 ▲大川 ▲新野川 ▲淺茂川 ▲本社川 ▲湖沼 ▲海岸 ▲島嶼 九八
 志摩國 總説 ▲朝來川由山内川以東の山嶽 ▲朝來川矢田川間の山嶽 ▲矢田川瀨阪川間の山嶽 ▲瀨阪川以西の山嶽 ▲平野 ▲水系 ▲朝來川 ▲矢田川 ▲瀨阪川 ▲竹野川 ▲海 一〇九
 伊賀國 總説 ▲山嶽 ▲水系 ▲海岸 ▲島嶼 一一二
 伊勢國 總説 ▲國の西境にある笠置山脈 ▲國の東境にある鈴鹿山脈 ▲南部の山嶽 ▲北部の山嶽 ▲西南部の山嶽 ▲平原 ▲水系 ▲伊賀川 ▲柘置川 ▲服部川 ▲上野川 ▲長田川 ▲名張川 一二九
 總説 ▲養名山脈 ▲紀伊山系に屬する山嶽 ▲平原 ▲水系 ▲揖斐川 ▲町屋川 ▲朝日川 ▲鈴鹿川 ▲雲出川 ▲柳田川 ▲宮川 ▲湖沼 ▲海岸 一三〇

近江國

總説 ▲笠置山脈 ▲鈴鹿山脈 ▲伊吹山脈 ▲比叡山脈 ▲平野 ▲水系 ▲野洲川 ▲日野川 ▲愛知川 ▲姉川 ▲安曇川 ▲勢多川 ▲湖沼 ▲琵琶湖 ▲余吾湖 紀伊國

總説 ▲山嶽 ▲和泉山脈 ▲龍門山脈 ▲梨子木山脈 ▲生石の峰山脈 ▲高野山 ▲鹿ヶ瀬山脈 ▲果無山脈 ▲果無山脈の側派 ▲那智山脈 ▲那智山脈の側脈 ▲音山脈 ▲熊野川以東の山嶽 ▲平原 ▲水系 ▲紀伊川 ▲紀伊川の支流 ▲有田川 ▲日高川 ▲富田川 ▲日置川 ▲古座川 ▲太田川 ▲熊野川 ▲十津川 ▲北山川 ▲湖沼 ▲海岸 ▲島嶼

淡路國

總説 ▲山嶽南部 ▲北部 ▲水系 ▲海岸

第二章 海洋並に海岸線

一 伊勢海並に遠江灘海岸の一部 一六八
二 熊野灘 一七四
三 紀州灘 一八一

四 紀伊水道 一八四

五 大阪灣 一八九

六 播磨灘 一九四

七 日本海岸 一九六

八 海流及潮 一九九

第三章 地質

一 汎論 二〇二

二 始原大統 二〇七

片麻岩系 ▲晶質剝岩系

三 古生大統 二一四

四 中生大統 二二三

時代未詳の中生層 ▲侏羅層 ▲白堊層

五 新生大統 二三六

第三系 ▲第四系

六 噴出岩……………二五六
(イ)深成岩(ロ)火山岩

七 温泉……………二八三

第四章 氣象……………二九五
氣溫▲氣壓▲降水量▲霜雪▲風向及風力▲濕度

第二編 人文……………三一四

第一章 沿革……………三一四

一 先史時代……………三一四
石器時代▲傳說時代

二 太古より大化改新以前まで……………三三二
歴史時代▲雄國時代▲佛教傳來時代

三 大化以後—奈良朝以前……………三四四

四 奈良朝……………三五二

五 平安朝時代……………三五九

六 鎌倉幕府時代……………三七八

七 南北朝時代……………三七八

八 室町時代……………三八七

九 群雄割據時代……………三九四

十 織豊二氏時代……………四〇〇

十一 江戸幕府時代……………四一〇

十二 皇政維新……………四三三

第二章 政治宗教……………四四二

一 行政……………四四二

二 司法……………四五二

三 軍事……………四五五
陸軍▲海軍

四 教育……………四六〇

初等教育 ▲ 中等教育 ▲ 實業教育 ▲ 高等教育 ▲ 圖書館及博物館 ▲ 圖書新聞雜誌

五 宗教 四七四

神社及祭神 ▲ 祭典 ▲ 佛教 ▲ 耶穌教 ▲ 迷信及俗信仰

六 交通 四八八

道路 ▲ 鐵道 ▲ 郵便電信電話 ▲ 水運

第四章 產業

一 農業 五二一

耕地 ▲ 土壤 ▲ 米 ▲ 麥 ▲ 食用農產物 ▲ 特用農產物 ▲ 蠶業 ▲ 牧畜

二 林業 五六一

三 水產 五八二

漁獲物 ▲ 漁具 ▲ 水產製造物 ▲ 水產養殖 ▲ 遠洋漁業 ▲ 製鹽

四 工業 六〇三

製糸紡績 ▲ 織物 ▲ 陶磁器 ▲ 七寶 ▲ 漆器 ▲ 玻璃 ▲ 礦造品 ▲ 化學工業品 ▲ 製作工 品

五 鑛業 六七二

(イ)金屬鑛類 (ロ)非金屬鑛類

六 商業 七二二

(イ)商業機關 (ロ)商業都會 (ハ)會社事業 (ニ)金融機關

第參編 地方誌

京都府 七四四

京都市 ▲ 京都市沿革 ▲ 伏見町 ▲ 宇治町 ▲ 木津町 ▲ 向日町 ▲ 八幡町 ▲ 淀町 ▲ 龜岡町 ▲ 園部町 ▲ 福知山町 ▲ 河守町 ▲ 宮津町 ▲ 舞鶴町 ▲ 峰山町 ▲ 久美濱町 其他

大阪府 八四〇

大阪市 ▲ 大阪市沿革 ▲ 高槻町 ▲ 茨木町 ▲ 池田町 ▲ 枚方町 ▲ 守口町 ▲ 堺市 ▲ 岸和田町 ▲ 平野町 ▲ 八尾町 ▲ 富田林町 其他

兵庫縣 九四六

尼ヶ崎町 ▲ 西の宮町 ▲ 御影町 ▲ 神戸市 ▲ 沿革 ▲ 明石町 ▲ 三木町 ▲ 姫路市 ▲ 飾磨町 ▲ 網干町 ▲ 龍野町 ▲ 赤穂町 ▲ 有馬町 ▲ 三田町 ▲ 篠山町 ▲ 柏

原町▲北條町▲山崎町▲生野町▲豊岡町▲出石町▲村岡町▲湖本町▲由良港▲岩屋町其他

奈良縣.....一〇五九

奈良市▲奈良市沿革▲郡山町▲法隆寺▲龍田町▲高田町▲御所町▲丹波市町▲三輪町▲初瀬町▲榛原町▲吉野山▲上市町▲下市町▲五條町其他

三重縣.....一三七

▲桑名町▲四日市市▲白子町▲津市▲松阪町▲宇治山田町▲鳥羽町▲濱島町▲龜山町▲關町▲久居町▲尾鷲町▲長島町▲引木町▲木の木町▲上野町▲名張町其他

滋賀縣.....一一八六

琵琶湖▲米原▲彦根町▲高宮村▲愛知川驛▲八日市町▲日野町▲土山町▲水口町▲安土村▲八幡町▲草津▲石山村▲膳所町▲大津市▲大津町▲今津村▲海津村▲長濱町▲木の木村其他

和歌山縣.....一二一〇

和歌山市▲加太港▲粉河町▲妙寺驛▲高野山▲榎本町▲龍神▲和歌の浦▲紀三井寺▲黒江町▲日方町▲箕島町▲湯淺町▲御坊町▲南郡町▲田邊町▲岡參見村▲二色港▲串本町▲大島▲橋杭岩▲古庄町▲那智瀑▲新宮町▲本宮町其他

地圖

第一版	近畿地方地形概圖	四八頁
第二版	琵琶湖附近之圖	一四四
第三版	近畿地方地質概圖	二〇八
第四版	京都沿革圖	三六八
第五版	奈良沿革圖	四一六
第六版	近畿中樞之圖	四九七
第七版	京都市街圖	七五二
第八版	大阪市街圖	八六五
第九版	神戸市街圖	九六〇

其他本文中に挿入せる圖畫は攝津劔山○大江山遠望○伊吹山遠望○大岡山遠望○地質居住位圖○國造配置○戰國時代英雄割據○桓武天皇像○豐臣秀吉像○徳川時代諸侯配置○奈良市堺市姫路市和歌山市四日市市津市宇治山田町西の宮町其他市街圖十數葉

寫眞銅版

(一)	河内國金剛山。	河内柏原新大和橋より二上山ヲ望む。
(二)	丹波國保津川。	近江國勢多川洗堰工事。保津川の下流。
(三)	丹波國保津川急瀨。	山城國宇治川。
(四)	山城國京都北野神苑より北山ヲ望む。	攝津國甲山。
(五)	山城國木津川。	紀伊國北山川。
(六)	紀伊國八町。	同上神戸布引瀨。
(七)	紀伊國那智山一の瀨。	山城國巨椋池。
(八)	攝津國箕面山箕面瀨。	播磨國舞子より淡路島ヲ望む。
(九)	近江國琵琶湖。	攝津國淀川(大阪附近)
(十)	和泉國雄蛇ヶ池。	攝津國神戸湊川舊觀。
(十一)	山城國淀川橋本渡。	伊勢國二見浦。
(十二)	大阪木津河口。	紀伊國串本瀨。
(十三)	伊勢國四日市港。	同上。
(十四)	志摩國海岸特色。	紀伊國和歌の浦。
(十五)	紀伊國串本附近橋杭岩。	
(十六)	紀伊國瀬戸山海岸。	
(十七)	大阪港。	神戸港。
(十八)	播磨國舞子海岸。	同上明石海岸。
(十九)	播磨國明石港。	同 赤穂御崎。
(二十)	丹後國久美濱港。	同 小濱村。
(二十一)	丹後國天の橋立。	全神志村より經ヶ岬ヲ望む。
(二十二)	丹後國室津港。	同岩神澤岩窟。
(二十三)	紀伊國漆村自然橋。	但馬國玄武洞。
(二十四)	紀伊國圓月島。	同安寧陵 同 畝傍山
(二十五)	丹波國孫 大和 神武陵	同河内國王仁墳。
(二十六)	大和國崇神陵。	同法隆寺中門。
(二十七)	奈良法隆寺藏玉虫厨子。	
(二十八)	同本尊。	
(二十九)	大和國法隆寺金堂。	
(三十)	大和國同本法起寺三重塔。同法輪寺三重塔。	
(三十一)	大和國奈良藥師寺本尊三尊。	
(三十二)	大和國奈良藥師寺東院堂	同東塔。
(三十三)	大和國奈良三月堂。	同唐招提寺金堂。
(三十四)	大和國當麻寺東塔。	同奈良新藥師寺本堂。

- (三十四) 奈良新藥師寺藏十二神將。奈良大佛像。
- (三十五) 大和國奈良正倉院。大和國室生寺塔。
- (三十六) 奈良興福寺北園堂。山城宇治平等院。
- (三十七) 攝津神戶楠公墳。河内觀心寺楠公首塚。
- (三十八) 同建水神社。同後醍醐天皇陵。
- (三十九) 同加納生皇居。京都阿彌陀養豐公墳。
- (四十) 京都二條城。播磨姫路城。
- (四十一) 京都清閑寺。京都東寺塔。
- (四十二) 京都御所正門。京都和氣清盛墳。
- (四十三) 京都加茂焚祭。同上加茂神社。
- (四十四) 京都府廳。大阪府廳。
- (四十五) 兵衛縣廳。兵衛縣廳。
- (四十六) 兵衛縣廳。兵衛縣廳。
- (四十七) 兵衛縣廳。兵衛縣廳。
- (四十八) 兵衛縣廳。兵衛縣廳。
- (四十九) 兵衛縣廳。兵衛縣廳。
- (五十) 兵衛縣廳。兵衛縣廳。

- (五十一) 大阪醫學專門學校。京都第三高等學校。
- (五十二) 兵庫縣第一師範學校。京都府立第一中學校。
- (五十三) 大阪第六中學校。伊賀上野中學校。
- (五十四) 大阪堂島女學校。京都農學校。
- (五十五) 大阪中島圖書館。奈良博物館。
- (五十六) 伊勢神宮內宮。全上外宮。
- (五十七) 大和三輪神社。近江日吉神社。
- (五十八) 京都平安神社。大阪生國魂神社。
- (五十九) 京都北野神社。同四本願寺本堂。
- (六十) 同東本願寺本堂。山城國比叡山中堂。
- (六十一) 伊勢一身山高田寺修寺。紀伊國粉河寺本堂。
- (六十二) 大阪梅田停車場。神戶停車場。
- (六十三) 京都二條橋。大阪郵便電信局。
- (六十四) 大阪河口波止場。神戸メリケン波止場。
- (六十五) 紀伊國大島港。同堺野崎燈臺。
- (六十六) 淡路江崎燈臺。攝津住吉燈臺。
- (六十七) 同神戶和田燈臺。大和國吉野川の筏。

- (六十八) 山城國桂川の木材。山城國の林相。
- (六十九) 大阪櫻島造船所。大阪三軒家紡績會社。
- (七十) 大阪合同紡績會社製糸場。攝津澁町釀酒場。
- (七十一) 川島兵衛作綴織武具出子の園。錦光山宗兵衛作栗田陶器。
- (七十二) 西村越左衛門作刺織。但馬生野織山。
- (七十三) 大阪日本銀行支店。大阪第三十四銀行。
- (七十四) 大阪中の島銀行集會所。神戸三菱支店。
- (七十五) 同三井支店。大阪商品陳列所。
- (七十六) 大阪堂島米穀取引所。同梅の尾。
- (七十七) 京都銀閣寺。京都東福寺通天橋。
- (七十八) 山城國鞍馬山僧正谷。京都大原女。
- (七十九) 京都清水寺。京都三十三間堂。
- (八十) 大阪市全堂。大阪天滿橋。
- (八十一) 攝津住吉公園。大阪高麗橋。
- (八十二) 大阪市戒橋。大阪新舊淀川の分岐點。
- (八十三) 大阪府と京都府との境界。攝津播磨國境。

- (八十四) 神戸市全堂。全上海岸通。
- (八十五) 播磨舞子。兵庫清盛塔。
- (八十六) 神戸布引貯水池。神戸新湊川。
- (八十七) 全阪助山公園。淡路洲本町。
- (八十八) 神戶居留地公園。同大佛殿。
- (八十九) 奈良南園堂。全興福寺。
- (九十) 大和國十津川綱渡し。奈良春日神鹿。
- (九十一) 大和國龍田川。大和國當麻寺。
- (九十二) 伊勢宇治山田町宇治橋。伊勢根葉川鐵橋。
- (九十三) 紀伊國高野山。紀伊國和歌の浦。

卷四 目次終

大日本地誌 卷四

理學士 山崎直方 編
理學士 佐藤傳藏



總論

近畿

本州島の中部より少しく西に偏し、帝國列島の中央をなして、太平洋岸より日本海岸に亘れるの地方を近畿と云ふ。即ち所謂畿内と其附近の地方を總稱せるものにして、山城大和和泉河内攝津の諸國と之に隣れる伊賀伊勢志摩近江丹波丹後播磨但馬紀伊淡路の諸國を含み、京都大阪兵庫奈良滋賀三重和歌山の二府五縣の治下にある所なり。

近畿地方は其地貌に従ひて三區に分つこと、後章地形の條に縷述するが如

地誌

地勢の一斑

し。其南部の紀伊半島には、本邦南嶺山系の重疊たるあり。北部には中國山脈延亘して峯巒起伏せる兩丹播但の山地を造り、兩者の間には、其構造の極めて趣味に富める陥落地帯を存して、平野盆地陸續相連り、畿内中樞の地をなせり。此等山嶽の相貌は紀伊半島の二三を除くの外は、彙に中部に於て見たるが如き雄渾峻拔の趣を缺き、又北日本に於て多く見たる圓錐形の大火山も亦既に爰に得べからず。山姿温雅なる低山性の隆起は、此地方の特色とする所、然かも春花秋月の巧に景致を添へて、其風光の勝を以て鳴るもの少なからず。人呼て日本の公園と稱する亦偶然ならず。而して此自然の美は又自から此地方の人心を馴致して、其氣質と藝術の上に及ぼせる影響極めて大なるものあり。近畿の地、實に其人文に於て大に説くべきものあるを見るなり。

日本の公園

地形的中心

近畿の地、其百三十五度の子午線が通過するの故を以て、帝國列島の地形的中心たるに止らず、人文上各種の方面に於て亦其中心に立つものなり。本邦の歴史地理を論ぜんと欲するものは、須らく近畿を以て其中心とせざるべ

沿革

からず。宗教の如き、教育の如き、商業、工業將た交通の如き、近畿は又一方の中心を以て居るものなり。今の大阪平野の一角は、皇祖東征の日其御船を寄せ給ひし地なり。大和盆地の中央は始めて帝國の首府たりし所なり。上古にありては遷都の事屢行はれしも、其地點は遂に近畿の外に出でず。當時に於ける宏壯なる山陵は大坂平野和泉河内を含む大和盆地の到る處に求むるを得べし。寧樂朝帝都の遺跡は猶今日の奈良郊外に存して、雄大なる設計の痕一々之を指摘するを得べく、附近の寺觀は猶依然として當年の建築を存し世界の珍を以て誇るものあり。平城の都が山城盆地の一隅に遷されて、平安城となりしよりは、一千餘年の久しき、帝都は此地を棄てざりしなり。明治の初年 車駕東幸の後も、皇宮は猶依然として舊觀を改めず、即位の大禮は此地に行はれ、京都の市街は永久其舊都たるの光榮を荷ふに至れり。

近畿地方は又久しく宗教の中心なりき。佛教諸宗の本山は大抵皆京都の附近に存在し、眞言の一宗は別に紀伊山脈の深林に其壯大なる道場を開き、皆猶教界に少なからざる勢力を揮へり。京都には近年新たに大學の設けらるゝ

産業

あり、阪神の地實業の専門學校次第に隆興するを見る、若し夫れ産業に就て之を見んか、大阪の平原は穀物を以て聞え、琵琶湖の北岸は養蠶を以て鳴り、紀和の山林は夙に良材を出すを以て名あり。山城の製茶灘堺の釀酒と共に古來人の稱する所、而して中國山脈の山中には、多量の金屬を藏して、鑛業盛にして、生野坑の名最もよく著はる。

商工業に至りては優に本邦の中心を以て任すべきなり。大阪の純然たる商業市たるや既に久し。今は東京と對峙して本邦の財界を左右し、近來紡績其他の大工業の發達するありて、人口百万を越ゆるの大都會となり、神戸港は又本邦第二の商港として、殊に輸出貿易の大なるを以て知らる。阪神の地が大工業を以て勃興すると共に、京都の美術工藝は近來愈其精華を發揮するに至れり。京都は近畿山水の美を鍾むる所、其感化は著しく工人の指頭に現れて、染織、陶漆皆獨特の妙技を現はし、盛名海外に藉甚たるものあり。

近畿の中央京阪の地方は、又帝國の一中心なり。人口稠密、都邑極めて多し。其自然、人文の兩中心たることは自から海陸の交通線路を吸収し、本邦

交通

縦貫の幹線たる東海山陽の二線を始め、幾多の支線を有する關西線其他の線路は皆大阪を焦點として集り、外國航路汽船を始め、内國航路殊に瀬戸内沿海の幾多の汽船が、或は神戸に或は大阪に、其出入の頻繁なる、他に其比を見ず。交通の盛なる、或は關東平野を凌ぐの勢あるを見るなり。

編者屢近畿の地を過ぎ、六甲四明の峯頭に踞し、京攝の山野を望みて、感想極めて深きものあり。爰に同人と謀りて録して本誌第四卷となす。

第一編 地文

第一章 地形

概説

位置 近畿地方は所謂畿内と其附近の地方を總稱し、本州島の中央より少しく西に偏し、南端は本州島の最南角たる紀伊の潮岬半島北緯三十三度二十六分より、北は丹後の經ヶ岬北緯三十五度四十六分に及びて、太平洋と日本海との間に擴がり、東は志摩半島の東端鎧崎(東經百三十六度五十二分)より、西は播磨の西境備前美作に接する所東經百三十四度十四分半)に及びべり。其面積は中部に及びざるも、或は半島の突出となり、内海の灣入となり、其間には平原の開展し、盆地の横はるもの等ありて、其肢節の複雑なることに至りては、彼に譲らざるの概あり。全體の面積約三万二千平方浬にして、本邦總面積の約十一分の一に當れり。

面積

位置

南勢山脈

瀬戸内陷落帶

中國山脈

紀伊半島

近畿地方は其地體の構造と現在の地形とによりて、自から三部に分たるの概あり。即ち(一)は南部に位して本邦表面の南勢をなせる一大鉞曲山脈たる紀伊山脈より成れる紀伊、志摩の兩半島にして、(二)は即ち中部に位して、所謂瀬戸内陷落帶の一部に屬し、其基盤は主として片麻岩花崗岩等より成るも、大地の陷落によりて、此等の基盤は幾個の斷片となり、其形狀に従ひて或は山脈をなし、或は島嶼をなして殘留し、其中間の陷落部は或は盆地をなし、或は之に湖水を湛へ、或は平野を造り、或は内海をなして、本地域内に於て人文最も發展せる極めて重要な地區をなせり。(三)は北部の地方を占めて、所謂中國山脈の横はる所、低き山嶽と丘陵とは重疊して、丹波丹後但馬播磨等の山地をなせり。今之れより此等の三部につきて、其の地形の梗概を觀察せん。

一 南部 紀伊半島 近畿地方の南部は遠く太平洋中に突出して一大半島をなし、其底部は恰も紀の川縦谷によりて界せられ、紀伊の外に大和の南半と伊勢の南端を含み、志摩は別に其東端に突出して、極めて複雑なる肢

第一編 地文

第一章 地形

概説

近畿地方は所謂畿内と其附近の地方を總稱し、本州島の中央より少しく西に偏し、南端は本州島の最南角たる紀伊の潮岬半島北緯三十三度二十六分より、北は丹後の經ヶ岬北緯三十五度四十六分に及びて、太平洋と日本海との間に擴がり、東は志摩半島の東端鎧崎東經百三十六度五十二分より、西は播磨の西境備前美作に接する所(東經百三十四度十四分半)に及びり。其面積は中部に及ばざるも、或は半島の突出となり、内海の灣入となり、其間には平原の開展し、盆地の横はるもの等ありて、其肢節の複雑なることに至りては、彼に譲らざるの概あり。全體の面積約三万二千平方料にして、本邦總面積の約十一分の一に當れり。

位置

面積

南勢山脈

瀬戸内陥落帶

中國山脈

紀伊半島

近畿地方は其地體の構造と現在の地形とによりて、自から三部に分たるの概あり。即ち(一)は南部に位して本邦表面の南勢をなせる一大皺曲山脈たる紀伊山脈より成れる紀伊、志摩の兩半島にして、(二)は即ち中部に位して、所謂瀬戸内陥落帶の一部に屬し、其基盤は主として片麻岩花崗岩等より成るも、大地の陥落によりて、此等の基盤は幾個の斷片となり、其形狀に従ひて或は山脈をなし、或は島嶼をなして殘留し、其中間の陥落部は或は盆地をなし、或は之に湖水を湛へ、或は平野を造り、或は内海をなして、本地域内に於て人文最も發展せる極めて重要なる地區をなせり。(三)は北部の地方を占めて、所謂中國山脈の横はる所、低き山嶽と丘陵とは重疊して、丹波・丹後・但馬・播磨等の山地をなせり。今之れより此等の三部につきて、其の地形の梗概を觀察せん。

一 南部 紀伊半島

近畿地方の南部は遠く太平洋中に突出して一大半島をなし、其底部は恰も紀の川縦谷によりて界せられ、紀伊の外に大和の南半と伊勢の南端を含み、志摩は別に其東端に突出して、極めて複雑なる肢

紀伊山脈

節を有する小半島をなせり。此大半島の全部を東西に走れる紀伊山脈は、本邦南緯を形成せる一大山脈にして、四國島の南半より延び來れるもの、一旦紀伊水道の陥落によりて斷絶し、再び半島の西岸に現れて、東々北の方向に走りて其東岸に出て、復た伊勢海の陥落によりて中絶するも、其餘脈は猶斷續して志摩半島より更に延びて伊勢海口に答志列島を作り、遂に參河の渥美半島に連り、遙かに赤石山脈に達せるは既に前篇中部の章に於て述べたるが如し。此山脈の最基底をなせる晶質剝岩系は、阿波の徳島附近に其跡を止むるも、紀伊水道の沼島に於て再び縋かに現はれ、紀伊半島に來りては其底部なる紀ノ川縦谷に沿うて、其南岸に飯盛山脈をつくり、比較的狭小なる地域を占む。此山脈より南方に赴くに從ひ、古生中生第三紀の地層は順次現はれて、流紋岩玢岩等の新古火成岩之を貫て露はれ、紀伊山脈の地質構造は不均齊式を呈せり。而して此山脈は其長さの割合には、幅廣くして、之に加ふるに紀ノ川有田川日高川等の縦谷河流の外に、十津川北山川の二大支より成れる熊野川の巨流ありて、壯大なる横谷を造り、之が爲に紀伊山脈は彼の赤石

山脈に於て見るが如く、整然たる連嶺を造らずして、半島の中部に於ては、却て地貌上幾個の高山脈が半島の構造軸に直交して、南北の方向に走るを見るべし。半島の高峯たる小大大井山上ヶ嶽明星大日等の蜿蜒として相連れる山上山脈の如きは此北山十津の兩浸蝕谷の間に挟り、又北山川の東方には國見大臺原等の山嶽を載ける山脈を造り、半島の南部に於ては又果無山大塔峯等を中心として四方に放射せる浸蝕谷によりて、數條の放射山脈に分れたり。唯半島の東部志摩半島に近くに及びては、宮川櫛田川の姉妹流は相並びて縦谷を造り、山脈亦之に伴うて山軸、層軸相一致して走るを見る。要するに紀伊山脈は其峻高の度と蜿蜒連亘の壯觀は、本邦中部の赤石飛驒の諸山脈に比し數歩を譲らざるを得ず。其高峯佛經ヶ嶽も未だ二千米に達せず、有名なる山上ヶ嶽の如きに至りては僅かに一千七百四十二米を算ふるのみ。されど半島は其幅廣く太とりたると共に、其上に蟠屈せる諸峯の重疊相摩し、山深く谷峻に、加ふるに十分の濕氣を受けて、密林鬱鬱人跡未踏の地を剩せるが如きは、又本邦稀に見る所にして、此等の山嶽が直に海に終りて、海岸は犬牙

出入肢節に富み、殊にリアス式の港灣に乏しからざるを見るなり。河川は急流多くして舟楫の便少なきも、紀ノ川熊野川の如きは此豊富なる山林より出づる木材の爲めに、自然の好交通路をなし、又熊野川の本宮以下雲取の峽流の如きは輕舟を通ずるに足るの便あり。

瀬戸内陷落帯

且つ興味ある所なり。所謂瀬戸内陷落地帯なるものは、本邦南翼の裏面を縦走せる一卑窪帯にして、瀬戸内海を造り、其一部播磨灘は近畿の西部に横はり、播磨灘の東には、淡路島を隔て、大阪灣あり。島は則ち此二者の間に挟まれる斷絶地塊にして、所謂地壘をなすものなり。島の北半は四國北部、瀬戸内諸島及び近畿の中央にあるものと全しく主として花崗岩の山骨より成り、南部は和泉砂岩の山脈より成りて、近畿の南部中部の境界をなせる和泉山脈と四國の吉野川以北に横はれる北帶山脈との連絡を有てり。

瀬戸内海の水を湛へたる陷落帯は大阪灣に盡くと雖も、地體構造上此陷落帯は猶廣大なる面積を占むるものなり。固より連続せる一帯をなさずと雖も、

猶ほ瀬戸内に於て周防灘安藝灘播磨灘等の陷落地が念珠の如く、其間に斷絶的島嶼を挟みて相連れると等しく、此陷落帯は猶遠く延びて大阪灣以東に及べるなり。即ち大阪灣は其北岸に於ては幾かに狭き海岸平原を界して、直に六甲山脈に接するも、東方には極めて低平なる大阪の平野の連るありて、葛城山脈の麓に及べり。葛城山脈の東には、又笠置山脈との間に大和山城の兩盆地のあるあり。笠置山脈の東には鈴鹿山脈の横はるありて、其間に伊賀盆地を作り、笠置山脈の一部北に延びて比叡山脈をなし、後者と鈴鹿山脈との間には、琵琶湖の大盆地を造れり。而して鈴鹿山の東側には更に大なる伊勢海と、其北方に連れる低平なる濃尾平野の横はれるあるなり。

斯くの如く近畿の中部に於ては、數個の陷落地が瀬戸内海の方向に従ひ、東西に並列し、其間に殘留せる地塊は南北の方向に延展せる山脈を造れるなり。笠置山脈の如きは、其肢節多少複雑なるも、葛城山脈の如きは單純なる細長き山脈をなして平野の間に連亘せり。此等の諸山脈は南部の紀伊山脈に比して其山容に於て其高度に於て大に劣る所あり。何れも低山性の特色を呈

葛城山脈

葛城山脈

し、高山として見るべきものなく、海拔一千米を超ゆるものとは極めて少なく、葛城山脈の主峰たる葛城山(一〇二一米金剛山(一二三七米(第一圖甲)の如き、比叡山脈の比良嶽(一二三二米鈴鹿山脈の鎌ヶ嶽(一二五四米等は其著るしきものにして、有名なる比叡山は僅かに八二三米にして、大阪平野の頭に聳ゆる生駒山の如きは、六四〇米に過ぎざるのみ。之を本部中部の山嶽に比すれば、蟻埜も猶ほ如かざるの概あるなり。されば此等の山脈を横断せる峠とて、何れも甚だしく高峻ならず、鈴鹿山脈に有名なる全名の峠の如き、高距離に三七三米にして、東海道の交通には著大の障礙を與へざりしなり。

鈴鹿山脈

盆地の中最も著大なるものは、琵琶湖を中心とせる近江の盆地なり。鈴鹿比叡兩山脈の間に挟まり、湖水の水面は海拔僅かに八十米なるのみ。其面積は初めは今より一層大なりしも、今は四邊の山嶽より流出する土砂の爲めに埋まりて次第に減縮し、其周圍に廣き平野を造りつゝあるなり。東岸に於ける愛知川野洲川、西岸に於ける安曇川の如き、何れも廣大なる三角洲を造り、其他何れの河流も湖岸に至れば沙角を造らざるなく、野洲川の如きは其沙角

近江盆地

次第に前進して、對岸の墜田を距ること僅かに一杆半、將に之と接觸せんとするの觀あり。此盆地と其比隣なる山城盆地との間は、極めて低き逢阪越の狹隘を以て相迫るに係らず、湖水の水は勢多川の峽流を造り、笠置山脈の北部を紆徐曲折して漸く山城盆地に出づ。

山城大和の兩盆地は笠置山脈の西麓と葛城山脈の東麓に於ける裂線によりて挟まれたる、元來同一の陷落地帯なるも、今は兩者の間に第三紀の低き丘陵蟠まりて之を二分せるなり。山城盆地は山城の中央より南部に延びて、肢節に富める平地を造り、大和盆地は大和北部の西半を占めて其形極めて單純なる平原を山間に展開せり。二者共に海拔約四十米に過ぎず。

山城盆地

山城盆地の中には多數の河流が網狀をなして亂走せるを見る。琵琶湖盆地より來れる勢多川は、此國に入りて宇治川となり、伊賀盆地よりは木津川來り、共に笠置山脈を横断して盆地に入り、又桂川は丹波山地より保津川の激湍をなして流れ來り、加茂川は山城北部の水を集めて又來り會し、此等の諸水相合せるもの、葛城山脈の北端に於て橋本山崎の狹隘を破り、遂に攝津平

大和盆地

野に放瀉す。此等諸水の相會する所、淀町の附近は盆地の中央をなし、土地卑濕一大水滯を造り、稱して巨棕池(第9圖乙)と云ふ。想ふに此盆地の排水猶今日の如く十分ならざりし頃に於ては、猶今日の近江盆地に於けるが如く、大湖漫々其中に漲ぎりしものありしならん。而して巨棕池は畢竟當時の遺物にして、纔かに其面影を存するものなり。此近傍の地古來屢水理を治め、殊に近來淀川改修工事の漸く工を終るに及び、流水の疏通、洪水汎濫の防禦等によりて、自然の形勢に少なからざる變化を與ふることなるべし。此山城盆地中、東山の東麓に別に支澗をなして、山科の小盆地あるは注意すべきことなり。

伊賀盆地

山城盆地の南端木津町より奈良坂の小阪路を越ゆれば、直に大和盆地の其前に展開するを見るべく、其平野と笠置山脈との境界が、劃然直截さるゝの觀あること、猶ほ葛城山脈の大阪平野に接する處と異なるなし。此盆地の水は皆集まりて大和川となり、葛城山脈を横斷して大阪平野に入るなり。又一方に於て、木津町より木津川を溯れば伊賀盆地に出づべく、笠置鈴鹿兩山脈間

水系

に杯狀の窪地をなし、其中更に分かれて、上野名張平田等の小盆地を造り、上野盆地最も大にして且つ低く、然かも近畿盆地中にありては、比較的高位置を占めて海拔平均約百四十米あり。
攝津河内の平野が會て大阪灣の一部をなせしは、曩に述べしが如く、其詳細は後章之を絮説すべし。淀川の下流が極めて複雑なる網狀をなし、廣大なる三角洲の發展せるは、最も注目すべきものなり。又伊勢海の沿岸に發展せる平原も之と同じく、會て其一部をなせしを知るべし。而して此等の平野を流るゝ河流中、最も交通の便を與ふるものは淀川にして、伊勢平原の諸川に至りて、其利極めて少なし。

三 北部 中國山脈

山城の北部より以西一帶の山地ありて、所謂中國山脈の東端をなす。其東半山城丹波丹後に亘れる地方は主として古生層の發達せる所にして、西半但馬播磨に於ては殊に新古火成岩の噴出多きを見る。此火成岩地は固より、古生層の地に於ても山嶽の排列秩序正だしきものなく、後者の如きに於ても、皺曲的隆起の踪跡尋ねべきなく、長歲月に於ける浸蝕

中國山脈

丹波山地

削磨の結果は、凡て低山性の山群を作り、所謂丹波山地をなし、磐谷水流の方向亦從て不規則にして、山隈水涯の地、時に小盆地を造り、福知山篠山柏原龜岡等の地方的中心をなせる都會、亦此處に興れり。播但地方に至りては、兩者の國界は瀬戸内海と日本海との分水嶺をなし、山嶺は不規則なる曲線を畫きて、蜿蜒其間に横はるも、整然たる高山脈の觀は遂に此處に求むべからず。此分水嶺より落ちて南北兩側に流る、幾條の河流は、其相並走せる二谷の間に隆起線を存して、其峯頭、時に分水嶺のそれより高く秀然卓立するものあり。但馬の西境にある菅野山(一六五〇米)播磨の西境にある後山(一三〇一米)の如きは其著るしきものなり。此地方に於きては山嶽簇立平地に乏しく、されば人文の發展せるは、總て此等河流の沿岸地方に止り、往々山間人煙の稍簇がれる所あれば、是れ此地方に最も多き鑛山の所在地を示すものなり。唯播磨の東南にありて、平野よく發展し、第三紀の丘陵亦極めて平夷にして、時に臺地をなし、河流の大なるものに乏しからず。殊に此地方に於て最も注目すべきは、人工を加へたる大小無數の溜池が、晴夜の星の如く散點せることなりとす。

平野

山城國

總説

山城國

山城國は五畿内の一にして、其北方に位置を占め、南より北に延びて其の長さ約六十六軒、東西の幅は北方に狭く南方に廣くして六軒乃至二十四軒に達し、面積凡そ八百〇二平方軒を有す。東及び北は近江國と界し、西は丹波及び攝津と接し、南は大和國に隣し、東南の一部は伊賀國に連なり、國の全部京都府の所管とす。

國の地勢概して四方に山を負ひ、内に向つて次第に低く、盆地をなしてこれに京都附近の一平原を擁す。即ち國の北部及び西北部丹波と界を接する地方は丹波地方に廣く延亘せる高原的山地の東縁をなすものにして、主として古生層に屬する砂岩粘板岩珪岩角岩アデノール板岩等より成り、其山城近江の界に於けるものは花崗岩によりて貫かる。又た國の東南部近江伊賀大和等と境を接する邊に於ては、古生層片麻岩及び花崗岩等より成れる一山地あり

て、其の西方山城大和攝津の境上には主に花崗岩及び第三紀層より成れる丘陵地あり。而して此等の諸山地より發する河流は、北方に於ては加茂川及び桂川となり、南方に於ては木津川となり、東に於ては宇治川によりて京都附近の平原に集中し、終に合一して淀川となり、西南流して攝津に入り大阪灣に朝す。

國の西北部丹波と境を交ふる地方に隆起せる山嶽は、一般に高峻なるもの甚だしく、高峯と雖も多くは八百乃至九百米外に過ぎず。(第四圖甲) 其稍、著るしきものを擧ぐれば國の北端近江丹波山城に跨りて三國嶽(千三百米)あり、之より山脈南方に延びて大悲山(九百餘米)となり、其の南方稍、陵夷せる所に鍋谷嶽(五百七十九米)及び芹生嶺(六百六十一米)の二隘路を通じ、芹生嶺の西方には棧敷ヶ嶽(八百二十九米)、假度嶽(七百米)の二峯を起す。棧敷ヶ嶽よりは一支部加茂川の右岸に沿うて東南々に走り、京都市の西北數軒の地に氷室山(五百二十米)衣笠山(四百二十米)の二小丘あり。又假度嶽の南方には京都市方面より北方大堰川の流域地に至る笠嶺(四百四十五米)及び松尾嶺(五百四十米)を通じ、松尾

山嶽
西北部

東部

嶽の南方には高嶽山あり。全山楓樹多く、清瀧川の清流に臨みて風景甚だ佳なり。高雄山の西方は山勢再び著るしく隆起して越畑山(九百五十三米)地藏山(九百四十九米)愛宕山(九百四十三米)等となり、其南方は一旦桂川の峽流によりて絶たると雖も、川の南に於ては再び隆まりて烏山(四百四十七米)及び嵐山(三百五十六米)の二峯岸に逼りて起ち、其の南大に低夷したる所には京都地方より丹波龜岡に至る老の坂嶺(二百〇五米)あり。これより南方には淀川の沿岸に至るまで、山城攝津の界をなして、四五百米の高距を保てる丘陵あり。

國の東方近江との境に連亘せる山嶽も亦丹波地方の高原的山地の一部分をなすものにして、主に古生層及び是れを貫きて噴出せる粗粒質の黒雲母花崗岩より成り、古生層は花崗岩の爲めに接觸變質を受け、又山嶽の麓に於ては多少第三紀層の發達せるを見る。山勢概して峻峻ならずして著るしき高峯に乏し。而して此の地方に於ける山嶽の大部は所謂比叡山脈に屬するものにして、琵琶湖の西岸に聳え、北方近江の阿彌陀山武奈ヶ嶽比良山等より來りて南徹西に走り、遂に山城大和伊賀近江の境上に蹠踞せる笠置山脈に會するも

のなり。此の山脈に屬して國の地方に於けるものには著るしきものなく、稍南方に來りて山城嶺三百八十米の南に大原山あり。是れより仰木越八瀬越雲母越等を経て京都の東北約八軒の所に比叡山あり。比叡山は琵琶湖畔に聳えて其の高さ八百二十三米、其の最高峯を四明嶽といふ。眺望甚だ宜しく、又有名なる延曆寺あり。京都四近の人士來り遊ぶもの甚だ多し。

比叡山の南方、京都の東に近く大文字山一名如意ヶ嶽五百四米長等山等の小丘あり。比叡山と大文字山との間の鞍部には白河越を通ず。而して二山の傾斜は此の谷に對して急に外側に緩なり。これ花崗岩の大岩脈此の二山の間を噴出して、此の二山を作る砂岩粘板岩に接觸變質作用を及ぼして硬固緻密ならしめ、従つて浸蝕作用は比較的花崗岩に著るしく働きたるによるなり。長等山の南方は山勢著るしく低くなりて、其の南笠置山脈に屬する逢坂山笠取山等との間に鞍状の一狹隘地を作り、近江の大津より京都伏見に至る道路、及び新橋神戸間の鐵道此の地を過ぐ。比叡山脈の西麓には高野川北より南に走り、安曇川の上流近江これと一直線をなして南北に流る。此の二川の

東南部

溪谷は蓋し琵琶湖の陥没地と同一原因にて生じたる地盤の裂線を示すものなりといふ。高野川の西方には同じく古生層より成れる山嶽南北に連なりて翠黛山神踏山焼杉山七百五十六米金比羅山五百七十五米等あり。

笠置山脈に屬するものは國の東南部を占めて群山の觀を呈し、主に古生層片麻岩黒雲母花崗岩及び第三紀層等より成り、宇治川の北方には逢坂山六百四十米笠取山六百四十餘米音羽山六百餘米等ありて、又京都の東南に近く稻荷山二百九十八米あり。宇治川の南方には郷の口村の東南に於ける御林山四百〇三米鷲峯山六百四十七米山城伊賀伊勢の境なる三國嶽五百八十米及び笠置村の南に於ける笠置山三百七十二米等あり。山勢何れも急峻ならずして丘陵性を帯べるもの多し。

笠置山脈の西方、山城大和攝津の境上に蜿蜒せる丘陵は所謂葛城山脈の北端をなすものにして、主にも花崗岩及び第三紀層より成り、山勢概ね緩慢にして低く、其稍高きものに龍王山五百三十米天王山九百〇九米國見山觀音山三百九十七米等あり。

西南部

京都附近の平

水系

加茂川

以上記述したる諸山嶽によりて圍まるゝ地方は即ち加茂・桂・宇治・木津等の諸川の灌漑する一大平原にして、東西の幅五秭乃至九秭、南北の長さ約四十秭面積凡そ二百七十餘平方秭を占め、京都市は稍その北方に偏在し、伏見は略中央に位置し、宇治は東線に、木津は南隅に在り。主として第四紀新層より成り、其の四周山麓に接する地方は第四紀古層より成る。蓋し此の平原は地盤の陥落によりて生ぜるものにして、瀬戸内地溝帯に連絡せるものなり。

國內に於ける河流の著るしきものは北方に於ける加茂川・桂川東方に於ける宇治川、南方に於ける木津川等なり。而して是れ等の諸川は京都附近の平原に集り、遂に相合して一となり、攝津に入り淀川となる。

加茂川は上流を中津川といひ、源を京都の西北七八秭の處に在る國境の山嶽棧敷ヶ嶽附近に發し、古生層の山地にある狹隘なる谷を東南東に流れ、氷室山の東北麓を擁し、京都の北數秭の地に在る一小丘加茂山の西南麓に至り、始て第四紀層の平野に出て、益々東南東に流れ、京都市の東北隅に來り、此處に於て北方より來る高野川を合す。高野川は源を國の北隅なる山間に發

桂川

し、始め東南に流れて山城嶺附近に至り、之より西南々に轉じ、比叡山脈に並行して其西麓を流れ、小出石・大原・八瀬・高野等の諸邑を過ぎて後平原に出て加茂川に合す。加茂川は高野川を容れて後南に轉じて京都市の東部を貫き、更に西南に轉じて伏見町の西方約二秭の地に至り、此所に西方丹波より來る桂川と合す。京都市近傍に於て川は幅百米内外に達し、河身は概ね砂礫より成り、水は潺湲たる細流をなして其間を流る。川の全長凡そ二十五秭とす。

桂川は丹波國にある大堰川・園部川等の相合して成れる保津川の下流にして、丹波龜岡の北方を過ぎりて東方に流れ、所謂愛宕山脈と老の坂山脈との間を穿ちて本國内に入り、烏山・嵐山等の北麓を繞り、下嵯峨に至りて平原に出づ。丹波の保津より此處に至るまで約十秭の間は巒峰近く流れに逼り、古生層の諸岩より成れる兩岸の斷崖絶壁削るが如く所謂峽谷をなす。(第二圖、第三圖の甲)而して川底亦巨岩大石の崛起せるもの多く、加ふるに川床の傾斜急なるを以て水勢頗る駛く、僅かに扁舟を通ずるに過ぎずして危險亦少からずと雖も其風景の奇拔なるを以て遊覽に趣くの人多くして其の名亦著るしとす。此れ慶

宇治川

木津川

長年間吉田了以の開鑿によりて始めて舟楫を通ずるに至りたるものにして、其の以前に至りては僅かに筏を流下し得るに過ぎざりと云ふ。川は下嵯峨より平原の中を東南に流れ、下桂村を過ぎ、加茂川と合して後西南に轉じ、淀川に於て宇治川と合す。上流大堰川(丹波)の源頭より此處に至るまで約七十二軒、其の中本國内に在るものは凡そ十八軒なり。

宇治川は近江琵琶湖の水其の南岸より溢れて成れる勢多川の下流(第二圖乙)本國内に入りたる部分を稱する者にして、古生層の山地を貫き近江國外畑附近より西南に流れて國内に入り、喜撰山の北麓に衝突し、急に折れて西北に轉じ、宇治に至りて始めて平原に出づ。これより益、西北に流れ、伏見の東南約三軒の處に於て六地藏池の水を容れ、これより西方に轉じ、伏見の南隅を過ぎ、巨椋池の北岸に在る卑窪の地を西南に流れ、淀町に於て桂川を容れ、更に西南流するを四軒、橋本附近に於て木津川と合す。川の全長凡そ三十五軒、其の中山城に在りて宇治川と稱せらるゝ部分は凡そ二十三軒なり(第四圖乙)。

木津川は伊賀國の大部を灌溉する伊賀川及び大和伊賀の地を出入して西北

巨椋池

大和國

流する名張川の二流が、國の東南隅に於て相合して成れる者にして、笠置山脈に屬せる黒雲母花崗岩及び片麻岩等の山間を西方に流れ、笠置山の北麓を繞り、笠置を過ぎ、船屋附近(第五圖甲)に於て兩岸稍開け、木津川の北方に於て、平原に出で西岸の巒丘稍遠し。此處に於て川は急に北に折れ、奈良京都間の街道に沿うて流れ、玉水村の北方に於て西北に轉じ、下津屋附近に於て水路二に岐れ、本流は西に走り橋本に至りて宇治川と合し、支流は西北に流れて淀町を過ぎて後同じく宇治川に入る。川の本國内に在るもの約四十五軒なり。

國內湖沼の大なるものは、唯、伏見町の南にある巨椋池(第九圖乙)を推すべし。巨椋池は又大池とも云ひ、稍、東西に長く長さ四軒幅二軒餘にして面積約十餘方軒を占む。池の北岸及び西岸に於ける水路によりて宇治川と相通じ、其の水量も宇治川の水量と共に消長すと云ふ。又此の池の東地に隣りて四ッ谷村沼、六地藏沼及び西北に納所沼等あり。

大和國

總説

大和國は山城の南に位し、東は伊賀伊勢及び紀伊に接し、南方は全く紀伊に擁せられ、西は紀伊及び河内と境を交へ、毫も海岸を有せず。

地形南北に長く、東西の幅はその最も大なる處に於て五十軒に過ぎざれども、南北の長さは約九十五軒に達し、面積凡そ三千百平方軒を占め、畿内五國中最大にして全部奈良縣に屬す。

地勢概して山岳に富み、國の中央より稍、北方に偏したる地方を略、東西に横貫せる一道の大溝吉野川の溪谷によりて南北の二部に分つを得べし。此の溪谷の南方は所謂紀伊山脈に屬する山嶽重疊して平地殆んどなく、所々に峻峯を起し、吉野郡地方に於て特に甚だしく、主として古生層中生層及び是れ等を貫きて噴出せる石英斑岩石英閃綠岩等より成れり。北方の地はこれに反し、所謂大和盆地をなし、中に奈良郡山高田御所等に亘れる平原を擁し、其の西方には葛城山脈大和河内の境を劃して南北に連なり、東方には笠置山脈に屬する山嶽亦略、南北に亘り、其東南隅には伊勢の西境を爲せる鈴鹿山脈の餘波亦此處に及び、南方には三畝山脈吉野川溪谷の北に起りて略、東西に連なるを

葛城山脈

見るべし。而して山嶽は概ね南部のものに比して峻峻ならず。

葛城山脈は大和河内の境をなして、南北に走り、紀伊と和泉河内との境をなせる和泉山脈と略、直交す。これ蓋し奈良盆地と大阪平原の陥落によりて生じたる地壘山脈にして、主に花崗岩及び片麻岩より成り、間、火山岩が是れ等を貫きて噴出せるを認むべく、又第三紀層が山麓に於て是れ等を被覆せるを見る。此の山脈は大和川によりて南北の二部に分たれ、南部に於けるもの稍、高峻なる山岳に富み、千米を越ゆるものを有し、山脈の東側急傾斜をなして高田御所町附近の平原に臨み、西側は比較的緩慢にして河内の南部に於ける丘陵地に連なれども、大和川以北に於けるものは、大に陵夷して海拔高距六百米内外となり、東側は却て西側よりも緩慢なる傾斜を有せり。

南部山脈中著しき高峯を金剛山(千二百〇四米)となす。(第一圖甲) 葛城山脈の南端にありて河内國に跨る。頂上の眺望甚だ廣く、近くは畿内の諸山、遠くは紀伊淡路播磨等の山嶽を望見するを得べし。彼の楠公が據りたる金剛山の城址は、山の西側にありて全く河内國に屬せり。

金剛山の南方には千早越あり。これ即ち南方吉野川畔の五條町より北方河内の富田林古市等に通ずるものにして、其の南方は次第に峻夷して吉野川畔の丘陵地となる。金剛山の北方は一旦その高峻の度を失ひたるの後御所町の西方約五料の所に葛城山千〇十一米を起す。葛城山以北は次第に低くなり、東方大和の高田より西方河内の山田に通ずる竹内嶺に於ては僅かに二百八十一米に過ぎずして、その北方には二上山(第一圖乙)五百七十五米その他の小隆起あれども、大和川に近づくに及びて著るしく低くなりて丘陵状を呈せり。

大和川以北は再び隆起して蜿蜒たる山脈を作れども、高距著るしく以南のものに劣り、其東側は緩傾斜をなして波状の丘陵地を作り、遂に奈良郡山附近の平原に臨み、其丘陵の間には多くの小池沼の存せるを見る。此の山脈中稍高きものは其の南端に信貴山四百八十米あり。其の北十三嶺四百米、暗嶺四百四十米を隔て、生駒山六百四十米あり。生駒山の北方は、緩慢なる丘陵地となれども、大和河内山城の界に於ては龍王山五百三十米を起せり。

吉野川以北に在りて國の東部を占むる山嶽は笠置山脈に屬するもの及び鈴

笠置山脈

鹿山脈の南端をなすものにして、明瞭なる山脈をなさず、雜然として重疊起伏し、寧ろ群山の觀を呈し、葛城山脈よりも稍廣大なる面積を占む。山岳の趨勢概して東方に隆く、西方奈良附近の平原に近づくに従ひては、次第に低くなり、丘陵状をなし、然かも平原との境界甚明かに其間道路概ねよく通じ山隈水涯至る所に村落の發達せるを見る。而して之れ等山岳を構成するものは葛城山脈に於けると同じく、主もに片麻岩及び花崗岩にして、大和伊賀伊勢の境上に於ては此等を貫きて噴出せる火山岩稍廣く發達し、又第三紀層は極めて小さき區域をなして露出せるを見る。今其稍著るしき高峯を擧ぐれば奈良の東方、伊賀との境に近く、天神山(四百五十八米)神野山(六百七十四米)高塚山(五百七十八米)等あり。高塚山よりは宇陀川の北岸に沿うて一小山脈東北東より西南西に連亘し宇陀郡萩原町の北方に大和富士(七百八十四米)金ヶ平山(八百四十九米)等を起す。金ヶ平山の西方には初瀬川の溪谷を隔て、初瀬村の西北若しくは西方に纏向山(六百三十九米)三輪山(五百二十二米)等あり。奈良の東に近くある若草山(三百四十一米)三笠山(四百三十八米)春日山(四百九十八米)高

三畝山脈

圓山(五百米等)も亦笠置山脈に屬するものなり。
 笠置山脈若しくは鈴鹿山脈に屬して宇陀川の南にあるものは宇陀郡の東部に於て稍、高き山岳となる。これ即ち室生山(七百〇三米)屏風山(九百七十四米)、大和伊賀伊勢の境にある三國嶽(八百米)、其の南方に在る饗嶽(八百七十七米)、香山(九百四十五米)等にして、萩原村の南方に在る山路嶽も六百四十六米亦稍、著るしきものなり。

吉野川溪谷の地に起れる三畝山脈は略、吉野川に並行して東微北より西微南に走り、以て鈴鹿山脈・笠置山脈・葛城山脈等の南端を連結し、西方和泉山脈に連なるものにして吉野川と大和川名張川との分水界をなし、紀伊山系に屬し主にも花崗岩片麻岩及び古生層より成る。能樂堂山(千〇三十四米)三畝山(千五百四十四米)高見山(千三百四十米)等は伊勢との國境に在りて最も高峻を極め、高見山の北方には牛ヶ平山(九百五十三米)穴の尾山(九百七十七米)等あり。高見山の西方は一旦峻夷し、北方松山町より南方吉野川の溪谷に通ずる關戸峠に於ては僅かに三百八十四米に過ぎずと雖も、其の西に於ては再び隆起して龍門

吉野川以南紀伊山脈に屬するもの

山(九百六十一米)の秀峯となり、其の北方には一山柵の北に支出せるありて、こゝに音羽山(九百三十二米)を起し、其の西方には多武峯(五百餘米)あり。龍門山の西方は次第に低くなり、高取山(六百四十一米)を起して後は丘陵狀をなし、奈良地方の平原と南方吉野川流域とを連絡する壺阪峠(三百五十八米)車阪峠(二百〇三米)重阪峠(百八十米)等を経て、後低き丘陵を以て和泉山脈及び葛城山脈と連なる。

吉野川以南の山地は所謂紀伊山脈に屬し、山岳丘巒重疊群起して平地殆んどなし。之れを構成するものは北部に於ては主にも古生層に屬する輝岩石墨千枚岩石英千枚岩石英岩粘板岩硬砂岩アデノール板岩輝綠凝灰岩等にして、南部に於ては中生層に屬する粘板岩砂岩及び礫岩等なれども又以上の諸岩層を貫きて噴出せる石英斑岩及び石英閃綠岩等あり。岩層の走向は東北より西南若くは東西に走り、幾多の向斜及び背斜褶曲をなし、西方は海を踰えて遙かに四國山脈と連なり、東方は伊勢國度會多氣の二郡及び志摩國の山嶽に連なり、一旦伊勢海に没するも再び三河の渥美半島に現はれ、三河遠江の境な

吉野川上流
北山川以東の
山嶽

る弓張山脈を経て、遂に赤石山脈に連絡せるものにして、構造整然實に南日本外帯をなせる重要山脈の一部分とす。

本國內に在りて此山脈に屬するものはかの赤石山脈弓張山脈等に於て見るが如き整然たる山脈の趨勢は全く之れを缺き、吉野川上流と北山川とを連ぬる一線及び丹生川(吉野川の支流)千津川を連ぬる一線によりて東西中の三部に分つを得べし。而して之れ等の溪谷は紀伊山脈を南北に横ぎりて所謂横谷をなすものなり。

吉野川上流及び北山川兩溪谷の東方にある山嶽は、本國と伊勢紀伊との境をなして略南北に走り、吉野川北山川と東方伊勢の櫛田川宮川との分水界をなすものにして、其の北端には高見嶺七百八十五米あり、これ即ち吉野川上流を溯りて伊勢櫛田川の上流に通ずるものとす。其の南方には藤嶽池木屋山白倉山及び國見山等あり。何れも千二百乃至千三百米内外の高距を有し、更に南すれば大臺原山(千六百八十五米)の秀峯となる。大臺原山の南には馬背狀の連嶺長く南に延び、備後山(千三百米)を起して後は次第に丘陵狀となり、遂

大臺山脈

に北山川の溪谷に終れり。

吉野川上流北山川二川の以西、丹生川千津川の以東にある山嶽は略南北に亘れる山脈をなして大和南部の中邊を占め、大臺山脈と稱せらる。北は吉野川溪谷に起りて南は紀伊の熊野地方に亘り、山勢巍峨として高く雲際に聳え千米を越ゆる山岳頗る多く、又稀に千八九百米に達するものありて國中最も峻嶽嶮峯に富める地方とす。主脈の北部は主にも古生層より成れども南部に於ては中生層の外に之れを貫きて噴出せる石英斑岩廣く南北に延展せり。山脈の東側は概して急峻にして直ちに吉野川上流及び北山川の溪谷に臨み、著るしき側脈及び側谷を欠けども、西側は之れに反して稍廣大なる地積を蔽ひ、側脈及び側谷好く發達せり。此の山脈の樞軸をなせるものは北は吉野山に起り、これより東南々に走りて、守屋嶽(千四百三十三米)小天井嶽(千三百米)大天井嶽(千三百五十三米)及び大峰山(或は山上ヶ嶽(千七百四十二米)に連なり、これより南微西に轉ず。大峰山の南方には龍ヶ嶽(千七百九十八米)普見嶽(彌勒ヶ嶽(千八百〇三米)國見嶽(千五百八十四米)行者還嶽(千五百五十九米)等あり。これ等

大峯山脈の側

山嶽の西方には石英閃綠岩より成れる一山塊ありて、稻村嶽千六百八十二米、朝鮮岳等を起す。行者還嶽の南方には石英斑岩より成れる小岳南に連亘し、彌山(千九百十六米)、佛經嶽(千九百十八米)、明星ヶ嶽、七面山、佛生山(千八百十米)、孔雀ヶ嶽、釋迦ヶ嶽(千八百二十七米)、大日嶽(千六百三十七米)等となり、更に愈南方に延びて、嫁越峠(千三百二十米)の南にある天狗嶽より地藏の森(千二百五十三米)、笠拾山(千四百米)、玉置山(千百〇三米)等に連なる。

以上記述したる大峯山脈の主脈より岐れて所謂側脈をなせるものは、東側に於ては大峯山より分れて大臺ヶ原山の一支脈と連なり、吉野川北山川の分水界をなすものに過ぎざれども、西側には稍好く發達せり。吉野山附近より西方に走れるものは地藏峠(五百三十米)、鳥住山(六百米)を經、吉野川の支流なる秋野川、丹生川の分水嶺をなし、銀峯山(五百餘米)に連なる。又大天井嶽より分るゝものは東北東より西南西に向ひ、長さ二十八軒に亘れる長嶺にして、西方は大和、紀伊の國境に至りて高野山より東走し來れる一山脈と相會し、吉野川と十津川との分水嶺をなし、小南峠(千〇六十三米)及び天辻峠(九百餘米)は此

支脈中に在りて南北二流域の交通を司る要衝となす。其の他彌山より西方に分岐せる支脈は天之川、小原川の分水嶺をなし、楊枝ヶ宿、七面山よりするものは、小原川及び旭川を分水して十津川畔の長殿上野地附近に至り、更に十津川以西の山脈に連絡し、釋迦ヶ嶽より西南西に向へるものは、旭川瀧川を分水して津越野附近に及び、十津川以西の三浦峠(千百〇三米)附近の山嶽に連なる。又嫁越峠附近より岐るゝものは西南へ延びて十津川の東岸に野尻山(千二百餘米)を起せり。

丹生川、十津川、二横谷の西方に在る山嶽は大峯山脈の如く明瞭なる連峯をなさずと雖も、多少東西に近き走向を有せる數多の小山脈群より成れるもの如し。其の北部に於ては著るしき秀峯なけれども、高野山(紀伊)の東方大和、紀伊の境には陳ヶ峯(千百〇七米)ありて、其北麓には十津川上流地方より高野山に至る山路を通じ、其の南方五軒の所には同じく十津川沿岸地方と高野山との連絡をなせる水ヶ峰(千百餘米)あり。水ヶ峯越の東には荒神山(千九百九十一米)の一小隆起を生ず。水ヶ峯越の南方には弓手原川、寒之川の分水嶺をなして

平原

略、東西に走れる山脈あり。これ即ち紀伊國にありて日高有田の兩郡界をなし、白馬嶽九百四十三米、城ヶ森千三百〇七米等の諸峯を有して西南西より南北東に連亘せる鹿ヶ瀬山脈の東端をなすものにして、國內に於ては伯母子嶽千三百八十米の高峯を有す。これより以南は山嶽稍高峻となり、大和の國境を南北に走るもの及びこれと直角をなして略、東西に走る數多の小山脈を形成し、國の西南隅に和田森千二百二十二米、果無山千二百八十九米等を聳起せり。

國の北部にある奈良平原は地體の陥没によりて生じたるものにして、笠置山脈葛城山脈及び三畝山脈に屬する山嶽丘陵によりて其東西南の三面を擁せられて盆地をなし、北は第三紀層より成れる極めて低き丘阜によりて木津川流域に連續し、以て山城盆地に連なる。平原の形多少南北に長く、長さ二十五軒幅凡そ十五軒面積約三百平方軒を占め、主もに第四紀新層より成れども、其周縁なる丘陵の麓に於ては、所々に第四紀古層若しくは第三紀層の發達せるを見る。大和川の上流をなす諸川は普ねく此間を灌溉し、土地豊沃にして國內に於ける生産上最も重要なる地點とす。従つて都邑の大なるもの多くは

水系

吉野川

此處に集まり、今其の主なるものを舉れば、奈良市郡山は其の北隅に、櫛の本丹波市柳本三輪櫻井等は東縁に、龍田は西縁に、高田今井等は南方に偏し、新庄御所町等は南隅に在り。又此の平原中に在りて稍隆起したる小丘の著しきものは、櫻井驛の西南三軒にある天香久山(百九十七米)、今井驛の南二軒にある畝傍山(二百十四米)なり。

國內河流の著しきものは國の稍北方に偏したる地を東西に流る、吉野川、其の北方にありて奈良附近の平原に於ける諸水を集め西流する大和川、及び南方紀伊山脈中を北より南に流走する十津川北山川等とし、又笠置山脈に屬する山地には、伊賀國名張川の支流たる宇陀川、西南より東北に向つて走れるあり。

吉野川は紀ノ川の上流を稱するものにして、其の溪谷は東方伊勢の櫛田川谷と相接して東北東より西南西に走り、紀伊半島を貫通せる一大斷層に沿うて生じたる地構上の縦谷にして、其兩岸は山嶽丘陵近く逼りて殆んど平地を見ず。其の水源は大臺ヶ原山附近にありて、之より大臺山脈北部の東麓に沿

ひ、始は横谷をなし、幾多の石灰岩層を挿める古生層の山地を迂回曲折して西北に流れ、約二十五軒にして宇南大野附近に至り、こゝに東北より来る四郷川を容る。之より川は急に其の方向を轉じ、紀伊國和歌山附近に於ける其河口に至るまで、略東北東より西南西に走る。南大野以下數軒の間川は著しく屈折して、古生層下部に屬する輝岩石墨千枚岩石英千枚岩等の山地を貫き、上市町に至る。之より川は稍一定の方向を保ち、下淵下市兩驛の間を過ぎ、此所に南方より秋野川横谷の水を容れ又北方三畝山脈に屬する花崗岩の山地より来る二三の小流を合す。下淵より以西は兩岸の巒嶽漸く低く、第四紀古層稍廣く發達せりと雖、尙ほ河岸に接して古生層細く帶伏をなして露出せるを見る。下淵の西數軒の所に於て、川は再び著るしき屈曲をなし、北方より宇智川を容れて後五條町に至る。此所に於て川は俄かに其の幅を増し、所々に砂礫洲を作り、沿岸亦大に開け、第四紀新古兩層より成れる一小平原を形せり。五條の對岸に於て川は南方古生層の山地に横谷をなして北流して来る丹生川を合し、益西南西に流れ、遂に紀伊國に入り、紀ノ川と稱せられ、

大和川

和歌山市に至り、遂に海に入る。河流の全長凡そ百十軒、其の中國内に在りて吉野川と稱せらるゝもの凡そ五十五軒あり。

大和川は奈良平原地方を灌溉するものにして、其の上流を初瀬川と云ふ。源を金ヶ平山(八百四十九米)附近に發し、始め西南に流れて初瀬村を過ぎ、これより纏向山(三輪山の南麓)を繞りて西に折れ、三輪町に至る。此處に至るまで西岸の地全く花崗岩片麻岩等より成れども谷底廣く平地に乏しからずして左右の巒嶽亦峻峻なる者なし。三輪より以下川は茫漠たる平野の間を西北に緩流し、二階堂の西方約三軒の所に於て奈良の東隣にある若草山春日山等に發して南方に流るゝ奈良川を合す。之より川は西方に轉じ、右岸よりは富雄川生駒川等を、左岸よりは飛鳥川重坂川葛城川葛下川等を容れ、遂に葛城山脈に衝突し、之れを貫きて狹隘なる谷を作り、河内に入りて後再び平原に出て攝津和泉の界をなし、堺の北方に於て大阪灣に注ぐ。全長凡そ六十軒、其の中國内にあるもの凡そ三十六軒とし、灌溉の利を與ふると頗る大なり。

十津川は紀伊山脈中に於ける著るしき一大横谷をなし、山岳重疊の間を縫

十津川

ひ著るしく曲折して南流するものにして、沿岸全く平地を欠く。其上流を天之川といふ。源を大峯山脈中大峯山附近に發し、朝鮮嶽の南麓を擁し、半圓形を書きて西方に流れ、宇川合附近に於て東北大天井嶽より來れる洞川を容れ、之より西南に轉じ、宇和田附近より又西に折る。斯て川は大和紀伊の界に近き宇坂本に至り、之れより始めて眞の横谷をなし南に向ふ。宇坂本の南一籽の所に於て西方より來る中原川を合し、更に其の南六籽にして宇清水附近に於て西方陳ヶ峯より發する紫園川、東方佛經嶽近傍よりする小原川を容る。之れより川は東南に轉じ約五籽にして古生層の地を去り中生層に入り、宇上野地に於て左岸より旭川を容れ、之れより西南々に折れ、宇川津に於て右岸より寒之川を併す。此の地より以下宇小井に至る迄約十二籽の間、川は著るしく彎曲し、其の左岸に於て瀧川を合せ、小井より以下は略南方に向ひ湯平猿飼に於て著るしき彎曲をなし、高瀧近傍に於て東より來る蘆の瀬川を合し、遂に紀伊國に入り、北山川と合して熊野川と稱せられ、新宮近傍に於て熊野沖に注ぐ。河流の全長凡そ百三十五籽、其中國內に在るもの凡そ九十

北山川

宇陀川

籽とす。其流域地は峻嶺高峯重疊して毫も平地なく、河流も亦奔湍激流をなせる所多きを以て、舟楫の便灌溉の利極めて少く、村落は僅かに本流の沿岸に發達せるのみにして、道路も亦重要な水路に沿ひて通ずるに過ぎず。

北山川も亦紀伊山中に在る大横谷の一にして、大峯山脈の東麓を南方に流走するものなり。其水源は大臺ヶ原山の西麓に在りて始めは古生層の山地を南方に流れ、宇河合附近より中生層地に入りて西南々に轉じ、著るしく曲折して右岸より前鬼川を容れ、宇上池原近傍より東南に向ひ、遂に紀伊の國に入り、再び折れて西南に流れ、其末流の一部は大和紀伊の界をなして遂に十津川に合す。全長凡そ七十六籽其の中國内にあるもの凡そ四十籽とす。この川亦十津川と同じく連山重嶂の間を流れて、其兩岸は平地なく、人煙甚だ稀疎なる地方とす。

伊賀國名張川の支流たる宇陀川は其大部本國內にありて、其の源を三畝山脈中の龍門山附近に發し、花崗岩片麻岩等より成れる山地を北方に流れ、松山町を過ぎ、宇五津附近より東北に轉じ、萩原町を経て後火山岩より成れる

地に入り、宇陀山邊兩郡の界に沿うて流れ、遂に伊賀に入り、名張に於て名張川に合す。全長凡そ三十軒、其の内本國內にあるは約二十五軒なり。名張附近に於ては稍、廣き平地を開くと雖、大和國に屬する部分に於ては、山嶺近く岸に逼り、地勢開豁ならず。

河内國

河内國
總説

河内は山城大和の西に位し、南は紀伊に接し、西は和泉及び攝津と界し、北は淀川によりて攝津と隔てられ、毫も海岸を有せず。地形南北に長く、其長さ五十五軒、東西の幅は僅かに十五軒内外にして、面積約六百八十平方軒を領し、大阪府の所管たり。

國の東境に於ては葛城山脈南北に走り、南境に於ては和泉山脈略、東西に連なりて多少著るしき高峰を起し、又これ等山脈の餘波は國の南部に於て海拔高距百數十米の丘陵地を作れども、國の北西部は即ち大阪平原の一部をなし、淀川の支流及び大和川此間を緩流し、茫漠たる平野相連なり、國の過半

和泉山脈

を占む。而して和泉山脈に屬するものは概して葛城山脈のものよりも高く、葛城山脈も南より北に至るに従ひ山勢次第に陵夷せるを以て、地勢は南部及び東南部に於て最も高く、北西部に於て最も低しとす。

和泉山脈は紀伊山脈の北にある一山脈にして、四國に於ける阿波讃岐の國境山脈が淡路の南部を過ぎ更に東に延びて和泉紀伊の界をなし、更に河内紀伊の界に及べる物にして、主に白堊紀に屬する和泉砂岩層砂岩泥板岩礫岩の累層より成り、其北側に於ては花崗岩の稍、廣く露出せるを認む。山脈の趨勢は略、西南西より東北東にして、地層の走向亦之れと一致し、南側は紀ノ川の斷層縦谷に臨みて稍、急傾斜をなせども、北側は次第に丘陵地となり傾斜從つて緩漫なるを常とす。今此山脈に屬して國內にあるものを擧ぐれば國の西南隅河内紀伊和泉の界に七越山(九百七十九米)あり。その東南は稍、低くなりて、こゝに北方石川の上流に於ける三日市(河内)より紀ノ川畔の妙寺町に通ずる藏王峠(五百四十七米)あり。藏王峠の東方は再び隆起して巖涌山(九百餘米)となり、其の東は亦陵夷して紀伊見峠(三百八十一米)となる。これ又三日市より南方紀

葛城山脈

伊の橋本町に至る要路にして、其の東方は巒峯起伏遂に葛城山脈に連なる。和泉山脈の北側には數多の小側支脈を生じ、其中七越山より北に向へるものは稍著しくして河内和泉の界をなし蜿蜒十五軒に及び、横尾山七百餘米の一峯を起せども概ね高距百五十米乃至三四百米の丘陵地を作るに過ぎずして、其の南部稍高き地方は花崗岩より成り、北部の稍低き地方は主もに花崗岩の崩壊せるものより成れる第三紀層の砂岩砂質粘土及び粘土等より成る。大和川の支流なる石川の上流は即ちこの地方を流るゝものにして、三日市の市街は此の丘陵地に在りて、富田林町は丘陵と平野と相接する地點にあるものとす。

國の東境に於て南より北に連亘する葛城山脈は又金剛山脈とも云ふ。(大和國二七頁參照)大和盆地大阪平原の陥没によりて生ぜる所謂地壘山脈にして、主として花崗岩片麻岩等より成り、又新火成岩の噴出せる所もあり。比較的劃然たる山脈をなし、其の中部に於て大和川により横斷せられ、南方は稍高峯に富みて金剛山(千二百〇四米)(第一圖甲)葛城山(千〇十一米)二上山(五百七十五

平原

水系

米)(第一圖乙)等を有し、北方にあるものは稍低く、信貴山(四百八十米)生駒山(六百四十米)龍王山天王山(四百〇三米)及び觀音山(三百九十七米)等あり。生駒山の北方は山勢一般に丘陵性を帯び、生駒山の北に在る飯森山(三百米)よりは高距五六十米の丘陵西北に斷續して淀川畔の枚方附近に及び、又觀音山よりも高距八十米許の丘陵西北に連なりて其の盡くる所は淀川に接せり。國の西北部を占むる平原は即ち所謂大阪平原の一部にして、遠く和泉攝津地方に跨り國の過半を領し、東は葛城山脈、南は和泉山脈によりて限られ、西は大阪灣に臨み、北は丹波山地、西北は六甲山脈によりて圍まる。今其の河内國に屬する部分を見るに東西の幅八乃至十軒、南北の長さ四十軒に亘り面積約三百四十平方軒を占め、極めて低き平坦なる平原にして主もに第四紀新層より成る。大和川此の間を貫きて東西に流れ、其の他大和川及び淀川に屬する數多の細流之れを灌溉し、土地肥沃にして田園市邑に富み、枚方町は其の北隅に、八尾植松平野等は中央部に、古市富田林等は東南隅に在り。國內の諸流は大和川及び淀川によりて大阪灣に注がる。

大和川

大和川は大和より來り、葛城山脈を横斷して河内に入り、國の南部に於ける諸細流を合して北流する石川を合はせ、平野の間を東西に貫通し、川邊村を過ぎ、遂に國を出て、攝津和泉の界をなし、大阪灣に注ぐ。全長凡そ六十

石川

石川は國の南境に在る和泉山脈より發する瀧の畑川・加賀田川・三門市川等の相合して成れるものにして、北に向ひて三門市・富田林等の諸邑を過ぎ、東條川を容れ、葛城山脈の西麓に沿ひ、益北流し、古市を過ぎ、字船橋近傍に於て大和川に合す。長さ凡そ二十六軒あり。

此の外國の南部の丘陵地又は葛城山脈に發源して平原の間を流れ大和川又は淀川に入る細流多しと雖も何れも特に記するに足るものなし。其中生駒山の北方に在る飯盛山の東側に發源し、西北々流して枚方町に至り淀川に入る綾野川は稍大なりとす。

國の北境をなせる淀川に就いては攝津の部に於て述べべし。國內湖沼の大なるもの無けれども、丘陵・田園の間には周圍僅に一軒に過ぎ

湖沼

ざる多くの池沼の散在せるを見る。其の稍著るしきものには、南方富田林の西方約五軒の地に在る狭山池・大鳥池・太満池及び北方飯盛山の北側に在る室池等あり。

和泉國

和泉國 總説

和泉國は河内の西に隣し、南は紀伊國に接し、西は一帶大阪灣に臨み、北は大和川によりて攝津と界す。

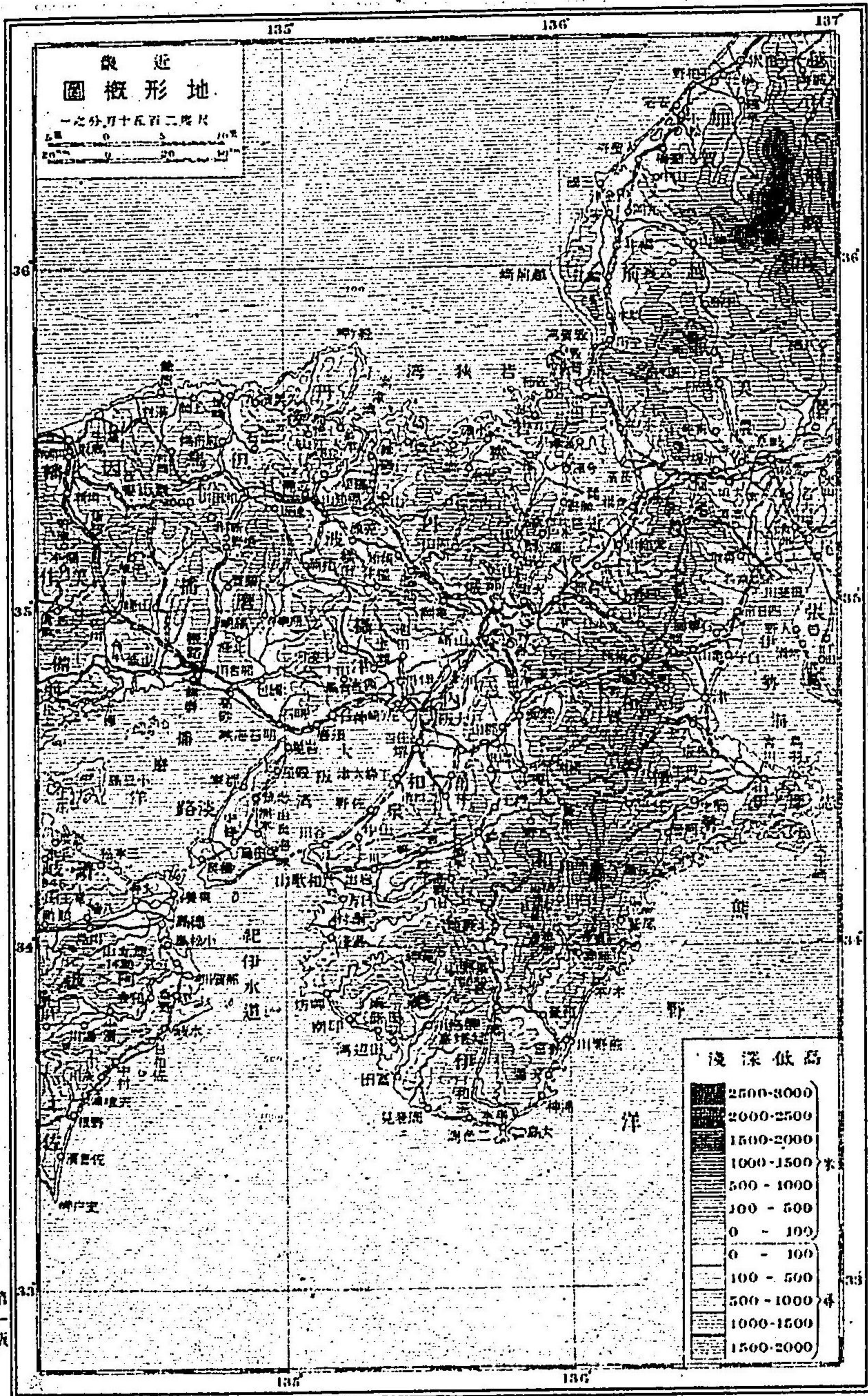
地形東北より西南に長く延びて稍半月形を成し、幅は中部に於て最も廣く、兩端に至るに従ひ次第に細くなり、長さ凡そ五十二軒、幅の最も廣き所は十六軒に達し、面積約五百七十七平方軒を占め、大阪府に屬す。

國の北半部及び西北部は即ち大阪平原の一部にして渺茫たる平野遠く亘れども、國の南境には和泉山脈西南西より東北東に連亘し、數多の山岳を崛起し、其支脈は此の山岳と平野との間に緩慢なる丘陵地を作れり。故に國の地形は南及び東南に於て最も高く、北及び西北に赴くに従ひ次第に低くなり、

和泉山脈

遂に大阪の平原となる。従つて國內の河流も亦此の地勢に應じて南若しくは東南より北若しくは西北に流るゝを常とす。

和泉山脈は河内の部四三頁參照紀伊山脈の一部をなすものにして、本國と紀伊との境を劃し、西南西より東北東に走り、所謂和泉砂岩層と稱する砂岩泥板岩礫岩の累層より成る。之れに屬する山岳は一般に西より東に赴くに從ひ次第に其の高さを増せども概ね峻峻ならずして數多の峠によりて横ぎらる。即ち此山脈の西端には孝子越百十四米あり。これ南方和歌山市より北方和泉の深日に通ずるものにして、和歌山大阪間の鐵道(南海線)亦此處を通ず。此の峠の東北には飯盛山三百八十六米の小丘ありて、之れより東方は高距三四百米の連嶺蜿蜒し、其間には百五十米内外の數多の峠あれども、犬鳴山に至りては五百五十一米となり、其の東四軒の處に在る葛城山に於ては八百五十八米に達す。葛城山の東には鍋谷峠六百六十米ありて、其の東和泉紀伊河内の界には七越山九百七十九米あり。これ即ち國內に於て最も高峻なる山岳となす。



平原

此の主山脈より岐れて國の東南部を占むる山岳は七越山の北にある横尾山に於て七百餘米の高距を有すれども、何れも概ね二三百米の丘陵状をなし、其の和泉山脈に接して稍高き部分は花崗岩より成り、大阪平原に近づきて稍低き部分は第三紀層の砂岩砂質粘土及び粘土等より成り、かくて遂に第四紀層より成れる大阪平原に低夷す。而して此の第三紀丘陵地には河内の國に於て見たるが如く、數多の小池沼の散在せるを見る。

國の北部及び西北部全體に亘れる一大平地は即ち大阪平原の一部分にして面積約二百十餘平方浬を領し、其の北部は大に廣濶なれども西南に赴くに及びては和泉山脈次第に大阪灣に接近せるを以て平原は兩者の間に楔状をなして細長く延長せるを見る。此の平原は第四紀新古兩層及び第三紀層より成り、其の第三紀層の丘陵に接せる部分は古層に屬する砂礫粘土堆積等より成りて台地状をなし、海岸に近づくに従ひ漸次に低下し、所々に段階をなせる所あり。又海濱に接せる部分は概ね第四紀新層より成る砂礫泥土等より成り、土地極めて低平なり。此の平原は又極めて小池沼に富み、石津川大津川津田川

水系

大井關川男の里川等の諸流此の間を灌ぎ、田圃極めて肥沃、其の北方海に近く堺の大都市あり、南方の海濱には岸和田貝塚佐野尾崎等の諸邑あり。

國內の河流は概ね和泉山脈に屬する山嶽に源を發し、西北若しくは西方に流れて平野の間を灌漑し大阪灣に注ぐを常とす。而して長流大河と稱すべきものなく、従つて舟楫の便少なけれども、灌漑の便を與ふること頗る大なり。

大和川

大和川は大和河内の地より來り、國の北境を東より西に流ること僅かに七杆、堺市の北を過ぎ、若松新田に至りて大阪灣に注ぐ。

石津川

石津川は國の東部に於ける第三紀層の丘陵地に發し、平野の間を西北々に流れ、堺市の南約二杆なる下石津に至りて海に盡く。長さ凡そ十二杆に過ぎず。

大津川

大津川は七越山槇尾山等の北麓に發し、西北に流れ、松尾川牛瀧川等を合せ、宇多大津に於て海に注ぐ。長さ凡そ二十杆とす。

又葛城山の北麓に發源して西北に流る、津田川及び近木川あり。一は岸和田に於て、一は貝塚の南に於て海に入る。長さ何れも十五杆に過ぎず。其の

湖沼

他大井關川は、犬鳴山附近に發して西北に流れ、岡田村の近傍を過ぎ、男の里川は南方紀伊より來り山中村を過ぎ井關峠近傍より來る井關川を合はせて後樽井町の西方を流れ、何れも僅かに十四杆に及ばず。

國內湖沼の大なるもの無けれども、丘陵地及び平野の中には周圍一杆に足らざる小池沼極めて多數に散在せるを見る。是れ等の或るものは多少の人工を加へて低き丘岡によりて圍まれたる小窪地に滯溜せしものにして、特記すべき性質を有せざれども、農業上甚だ重要なものなり。

海岸

國の海岸は大和川の河口より夷崎に至るまで、東北より西南に向ひ、其の間大津川近木川大井關川男の里川等の河口に於ては海に向つて稍突出せる砂洲を有し、又堺市の近傍に於て一小灣入によりて破らるゝと雖も、大體に於ては甚だ平滑なる砂濱にして、大阪灣に對ひ回鑿をなし、堺岸和田貝塚佐野尾崎等の諸市街はその岸邊に在り。

攝津國

攝津國

總説

攝津は五畿内の西部を占め、北は丹波國に接し、南は其の大部分大阪灣に臨めども、東南の一部分は和泉國と境し、東は山城河内、西は播磨に連なる。東西の長さ凡そ四十八軒、南北の幅最も廣き所にて三十六軒、面積約千百八十平方軒を占め、大阪府の所管たり。

國の北部に於ては丹波山地の一部分をなせる老の阪山脈、丹波國にも跨りて略、東西に連亘し、其の支脈は延いて國內に及び、又國の西南部に於ては六甲山脈西南より東北に走り、其の北には帝釋山脈東西に連なるあり。而して國の東南部には一大平地即ち大阪平原を開けるを以て、河流は概ね北方若しくは西北より南方或は東南に流るゝを常とすれども、唯、淀川のみは大阪平原を貫きて西南に流走せり。

老の阪山脈

老の阪山脈は東は山城の嵐山附近に起り、丹波攝津の境上に連亘して西に走り、以て加古川の上流に終るものにして、古生層及び是を貫きて噴出せる花崗岩及び石英斑岩等より成り、其の北側は直ちに大蜘蛛川(丹波沿岸の平地に臨みて著しき側脈を作らざれども、南方は徐ろに大阪平原に降り、芥川安威

老の阪山脈の支脈

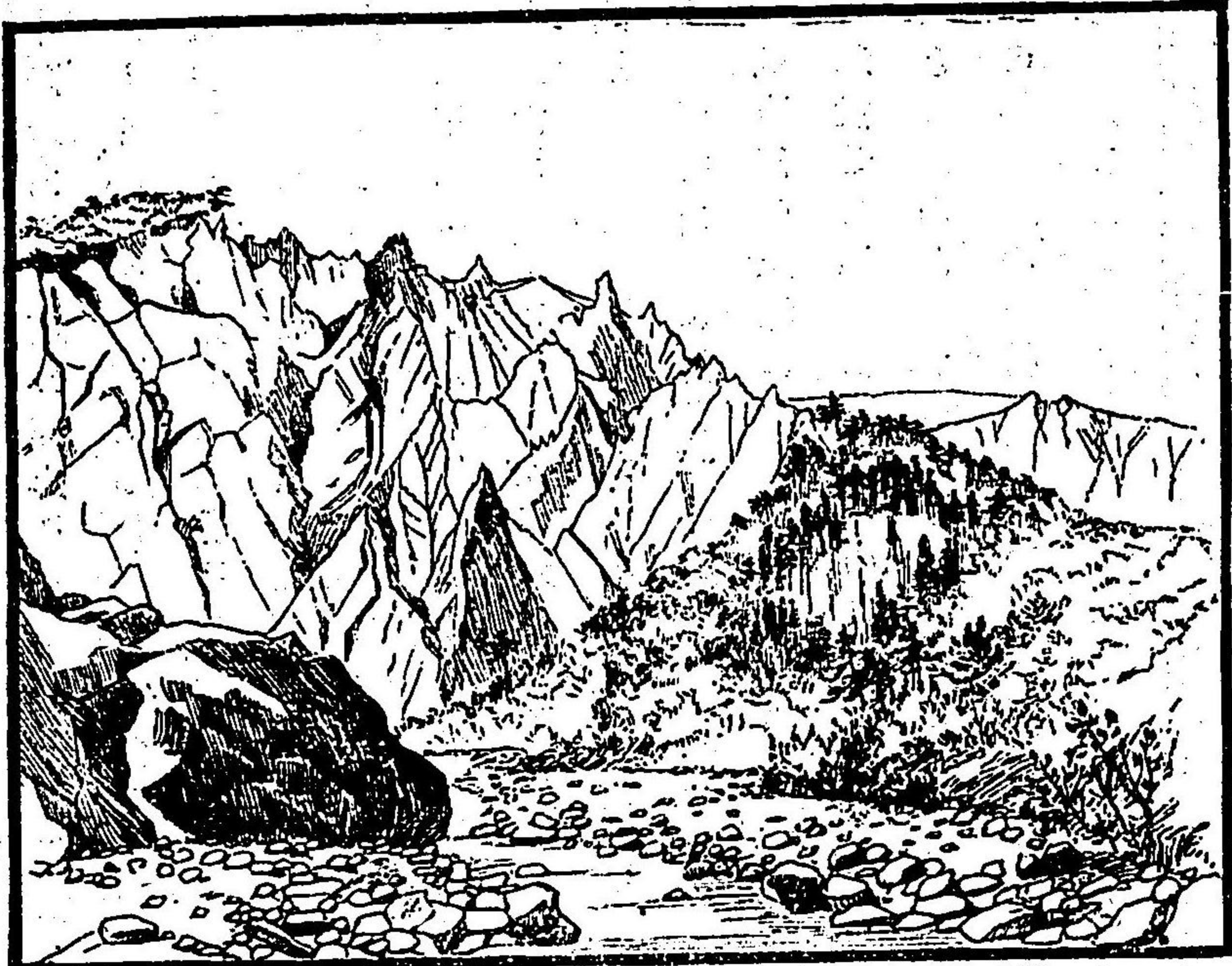
川猪名川武庫川等此の間を流れ、爲めに幾多の側脈を支出せり。而して其の主脈に屬するものは始め老の阪峠より四五百米の高距を保ちて西南に走り、山城丹波攝津の界に來り、これより尙ほ略、同高を有し多少屈曲して西方に向ひ攝津の北境を劃し、妙見山に至りて九百〇八米となり、其の北方は少しく陵夷すと雖も、能勢川邊有馬等諸郡の北部に於ては又著るしく隆起して、深山九百六十米、天狗岩七百五十三米、比叡山七百三十一米、愛宕山八百米等何れも丹攝の境上に聳起せるものなり。愛宕山以西は山勢頓に低くなりて三百米内外となり、攝津國を去り、丹播の境に至りて再び七八百米に隆まり、清水山(八百四十一米)、西光寺山(八百六十八米)等となり、遂に加古川上流の岸に盡く。以上記述したる山嶽の主軸より南に分れて起伏せるものは攝津北部の山地を作り、數多の支脈をなせり。

國の東部芥川の東に於ては、山城攝津の境をなして東南に走り、山崎に至りて淀川沿岸に盡くるもの及び南方に蜿蜒して芥川町近傍に至るもの二つありて、此等の相分るゝ所に神峯山六百餘米を起す。芥川と安威川との間に

も低き連嶺ありて、其の南端平原に終る所に阿武山(二百廿米)の小丘あり。安威川の西、猪名川の支流なる、久安川の東には龍王山(五百二十一米)泉原山(六百四十四米)箕面山(五百〇一米)等の數峯を作り、久安川と猪名川上流の多田川との間には七室山(五百六十八米)月ヶ峯(七百八十八米)城山(四百七十五米)龍王山(五百九十六米)三草山(六百四十二米)等を起せり。猪名川の西武庫川の東には主もに石英斑岩より成れる山嶽西北より東北に亘りて群起重疊し、大船山(八百二十四米)最も高く、其の他三田町の北方に富士山(四百〇二米)、其の東に羽東山(五百五十米)及び生瀬町の北方に大嶽(五百五十一米)等あり。

六甲山脈

武庫川以西に於ける山嶽は即ち六甲山脈及び帝釋山脈に屬するものなり。六甲山脈は花崗岩第三紀層石英斑岩等より成り、其の端を播磨國明石町の北に發し、東方に延びて播磨攝津の界西須磨の西北に鐵拐山(二百八十六米)を起し、之れより東北に延びて神戸市の西四五軒の所に在る高尾山(二百八十三米)鷹取山(三百三十米)等となり、神戸市の北方には鍋蓋山(四百八十六米)再度山(四百五十三米)摩耶山(六百九十四米)等を起し、遂に住吉町の北六軒の地にある



山 劍 國 津 攝

六甲山(九百二十七米)の秀峯を生じ、之れより尙ほ東北に連亘し、武庫河畔の生瀬近傍に盡く。又六甲山の北方湯山町の近傍には落葉山(五百三十三米)灰形山(六百三十米)界山(八百米)射場山(六百八十三米)等相連なりて起り、生瀬の北方武庫川の右岸には高塚山(三百〇三米)高座山(三百四十米)等の小丘あり。六甲山の東に當り、西宮町の北五軒の所に孤立せる兜山(第五圖乙)と稱する鐘状の一

帝釋山脈

小隆起あり、高さ僅かに三百〇七米に過ぎずと雖も、四近の諸山嶽が樹木に乏しく赤赭色を呈せるに反し、此は満山鬱蒼たる森林に蔽はるを以て、頗る人目を惹く。蓋しこれ花崗岩中の裂罅に沿うて噴出したる輝石富士岩より成れる塊火山にして、山頂は略圓形をなし、平坦にして直徑約百米餘、山側は南方最も急にして、三十八度の傾斜を有す。

六甲山脈の北方にある帝釋山脈は武庫川の支流たる南鹽田川及び加古川の支流たる三木川によりて六甲山脈と隔てられ、石英斑岩より成り、略東西に連亘し、其の稍聳えたるものには國境に近き丹生山(五百十四米)帝釋山(五百八十五米)等あるに過ぎず。

武庫川の上流にある三田町の西方には海拔高距二百米内外に過ぎざる丘陵の起伏せる地方あり。其の丘陵の主なる隆起線は略南北を指し、以て武庫川と加古川との分水界をなし、其の最秀點と雖ども僅かに二百八十米に達せるのみ。此の一帯の低地は蓋し地體の陥落によりて生ぜる物にして、帝釋六甲の二山脈は、これによりて老の阪山脈と分離したるものなり。

平原

國の東南部を占むる一大平野は即ち攝津河内和泉等に跨れる大阪平原に屬し、瀬戸内地溝帯の一部をなす。北及び西は老の阪山脈及び六甲山脈に盡き、東は葛城山脈(河内)により、南は和泉山脈和泉及び大阪灣によりて限られ全面積凡そ千〇五十餘平方料を有す。而して其の攝津に屬するものは、約五百餘平方料にして、東部に於ては甚だ廣濶なれども、西部に於ては六甲山脈次第に海に近づくを以て平原は其の間に細く發達せるに過ぎず。主として第四紀新層より成り、土地極めて低く且つ平坦にして、淀川は其の東部を西南に緩流し、猪名川武庫川は中部を南に貫き、芦屋川住吉川津賀川新生田川湊川等は西方海岸の平地を灌漑す。而して淀川猪名川武庫川等よりは數多の溝渠縦横に亘り、水利最も宜しく、地味亦著るしく豊沃にして田園最も好く開け我國有數の大平原をなす。従つて都市の大なるもの多く此處に存し、大阪の大都是淀川の下流に跨りて海に近く、神戸市は西方海に濱して六甲山脈の麓に位し、其の他大阪神戸間の海岸には尼ヶ崎西の宮住吉等の諸市街あり、又内地に於て淀川の右岸には吹田茨木高槻、猪名川の沿岸には伊丹池田等あり。

水系

淀川

國內の河流は殆んど全く大阪灣に注ぐを常とす。而して唯、淀川のみは西南に流走すれども、他は概ね南方若しくは東南に向へり。

淀川は加茂桂宇治木津等の諸川が山城盆地の中に於て相合して成れるものにして、橋本山崎の狹隘を破り山城國を出て、後河内攝津の界をなして西南に流れ、右岸よりは老の阪山脈に發する芥川其他の諸流を容れ、又左岸よりは葛城山脈(河内)の北部より發する數多の細流を合せ、宇一津屋附近に至りて二つに分る。(第十一圖甲)其の支流は國境を離れ、西に向ひて全く攝津國に入り、神崎川と稱せられ、吹田町の南に於て北方老の阪山脈に屬する山岳より來る一小流を合はせ、尙ほ紆回屈折して西南西に走り、神崎の東に於て猪名川を併はせ、之れより西南に向ひ、尼ヶ崎町の東隣を過ぎ末流數分して其の間に多くの三角洲を挟み遂に海に注ぐ。本流は尙ほ國境を南に流ること三軒の後西に折れて國內に入り、更に南に轉じ、宇北長柄近傍に於て又二分す。近年長柄より傳法に至るの間に於て、新淀川の水路を開き、淀川の分岐點毛馬に閘門及び洗堰を設け、以て洪水の水量を調整することを謀れり。是に於て

猪名川

複雑なる諸支流は全くこの新水路に集り、其水の溶々たる、海口に於て四百五十間の幅を有せり。毛馬より岐れたる本流(第十一圖乙)は之れより南に流れ、大阪市の東北隅に來り、これより西に折れて市の北部を貫き、再び二分して安治川及び木津川となり海に入る。(第十二圖甲)

淀川は攝津の界に入りてより其過ぐる所は即ち大阪平原に屬し、土地極めて低平にして流勢甚だ緩く、幅亦著るしく廣くなり、灌溉の利舟運の便甚だ大に又砂礫洲に富めり。而して吹田町の東方にある宇一津屋以下本流及び支流によりて圍まれたる地方は全く淀川が多年上流地方より送致し來れる土砂より成り、實に淀川の三角洲と稱すべきものなり。(海岸及地方誌參照)

猪名川は上流を大路次川といひ源を能勢郡の北部にある月ヶ峯の北方に發し、南流して月ヶ峯城山の西麓を過ぎ城山の北麓に於て北方より來る倉垣川を容れ、宇西畦野近傍に至りて川邊郡の北隅より來る一大支流多田川を合す。之れより川は東南々に轉じ、池田町の北方に於て、東北より來りて箕面山の西麓を流る、久安寺川を併はす。是より川は平原に出で南に向ひて池田町の

武庫川

西を過ぎ、伊丹の東方を走り、末流二分して何れも神崎の東方に於て淀川の支流なる神崎川と合す。長さ凡そ三十五杆あり。

武庫川は上流を鹽田川又三田川といひ、有馬郡西部の低き丘陵地に發せる諸水を集め、平野の間を東南に流れて三田町を過ぎ、其東南約三杆の所に於て右岸より南鹽田川及び船坂川等を容れ、之れより老の阪山脈及び六甲山脈に屬する諸山岳の間に入りて兩岸大に逼り、東流すること一杆にして、北方比叡山の麓を發し南に向ひ大船山羽束山阪等の麓を繞りて流下する波豆川を合す。之れより川は生瀬川と稱せられ尙ほ東流すると五杆にして大峯の西麓に衝突し、南に轉じて高塚山の東麓を流れ、生瀬に至りて始めて大阪平原に出づ。之れより川は武庫郡に入りて武庫川と稱せられ、東南に流れ、又南に折れ、宇小曾根に至りて遂に海に入る。長さ凡そ五十杆あり。

以上記述したる河流の外尙ほ六甲山脈に發して大阪灣に注ぐものに數多の小流あり。何れも其の長さ十杆に満たず、多くは急流にして平時甚だ水少けれど、雨ふる時は暴かに其の水量を増し土砂を流下し、又氾濫の害を及ぼす

湖沼

海岸

あり。而して川床次第に隆まり、爲に河流の水面は兩岸の平地よりも遙に高きに達せるもの少なからず。神戸市を過ぐる湊川(第十三圖乙)の如き其好例とす。今是れ等の中稍著るしきものを舉れば、芦屋川及び住吉川は六甲山の麓に發し、一は濱蘆屋に至りて、一は住吉の東に於て海に入る。津賀川は摩耶山の東麓に發して大石に至り、新生田川は摩耶山の北方に發し、其の西麓を繞り、再度山の東麓を過ぎ神戸市の東方に出で、湊川は鍋蓋山の北方に發し神戸市を過ぎ何れも遂に海に注ぐ。阪神間の鐵道は此等の小流の河底にトンネルを穿ちて通過せるは、旅客の注意を惹くに足るものなり。

國內湖沼の特に記すべきものなし。唯猪名川及び武庫川の間に於て昆陽の北に方り、昆陽池及び大鹿池の二小池あり。此の中昆陽池は稍大にして大鹿池の二倍餘なれども尙ほ一平方杆に達せず。

國の海岸は一般に低平にして北に向つて凹入せる彎形をなす。西の宮以西は多くは砂濱にして其の後背は狭き平地を隔てたる後六甲山脈に屬する諸山嶽を控へ、其の西部に於て神戸兵庫の二小灣入あり。湊川河口の砂嘴兩者の

概説

播磨國

間を隔て、砂洲よりなれる和田岬は西北より東南に延びて兵庫灣の南を擁す。西の宮以東は淀川猪名川及び武庫川等の三角洲より成るものなり。

播磨は本巻地誌區域の西南部に位し、山陽道の最東端にあり。東は攝津及び丹波に接し、西は美作備前に連なり、北は但馬因幡と界し、南は瀬戸内海に臨み、東西の長さ八十五軒、南北の幅は四十乃至六十軒にして面積は瀬戸内海にある附屬諸島を合して凡そ三千五百七十八平方軒に達し、全部兵庫縣の所管たり。

地勢一般に山嶽多く、殊に北部西部及び東部に於ては所謂中國山脈の諸山重疊して殆んど平地なく、唯國の東南部に於て加古川市川等の流域地に稍廣き平地あるのみ。而してこれ等の諸山嶽中國の北部に在るものは最も高峻にして、山陰山陽分水山脈の一部分をなし、西部に於けるもの之れに次ぎ、東部に於けるものは其の高距最も劣れりとす。従つて國內の河流は概ね源を北

方の中中に發し、略相並行して南流じ、遂に播磨洋に朝するを常とす。

これ等諸山嶽の中國の北部及び西部に在るものは、其の基底は古生層及び中生層に屬する諸岩より成り、其の成生の當時に於ては整然たる山脈を構成したらむも、花崗岩閃綠岩蛇紋岩等の火成岩及び流紋岩輝石富士岩粒狀富士岩玄武岩等の新古火成岩の噴出雜然として盛んに此の地方に起り、以てこれ等の山岳を蔽ひ、加ふるに著るしく削磨作用を蒙りたるを以て山脈の趨勢は今殆んど捕捉するに由なく、所謂山地たるの形相を呈するに至れり。今これ等の諸山岳を記述するに當り、楳保川以西、楳保川市川間、市川加古川間及び加古川以東の諸部に分つべし。

楳保川以西に於ける山岳中其の北境に重疊せるものは、南走する千種川楳保川、北流する八束川千代川支流廣田川朝來川支流の分水嶺をなし、多くは花崗岩流紋岩及び第三紀層等より成り、概して高峻なる物多く池田山(千四百八十米)大通山(戸倉山等あり)池田山の西方には大通嶺(千〇九十九米)、戸倉山の東方には戸倉嶺(八百六十六米)あり。之れより東方に向つて分水嶺を追跡す

楳保川以西の山嶽

れば播但、因の界に跨れる三國山(千米)及び若杉嶺(七百十八米)佐治見山(千百米)並見山(七百八十三米)空山(八百八十米)等あり。次ぎに此の分水山脈より國內に連亘せる山嶽を擧げんに千種川以西に於ては大通嶺の南方に後山(千三百〇一米)あり。其の南方には千種川沿岸の千草より美作江見河岸の小原に通ずる志引嶺(六百三十一米)を経て日名倉山(九百九十一米)船越山(七百二十二米)等あり。これより南方は尙ほ山嶽連亘して瀬戸内海の濱まで至り、僅かに赤穂町近傍に於て些少の平地を貽すのみなれども、著るしき高峯なく、西方美作備前との交通線路たる數多の山路は此の間を横ぎれり。其の主なる物は寺阪嶺(中山嶺平福、小原間)萬能嶺(二百十米)佐用土居間(行頭嶺)船阪嶺(百六十七米)東有年(三つ石間)等なり。而して萬能山の北方には妙見山(五百二十一米)三本松(四百三十三米)等及び船阪山の北には大平山(四百米)石堂山(四百三十米)あり。船阪嶺の南方は益、低く丘陵状をなし、略、三百米に過ぎざる寺山、保木戸山となり、裏山(百二十餘米)に於て遂に赤穂灣に盡く。又赤穂町の東北に於ては之れ等山地の千種川に臨める所に愛宕山(二百九十米)あり。

楫保川・市川間の山嶽

次ぎに千種川以東の山地を観察せんに、其の北部は高嶽峻峯群起して千草村の北方に野尻山(千百六十米)、楫保川に臨みて里尾山(千〇八十米)等あり。之より以南は高峻なる山嶽に乏しく、概して海拔高距四百米内外の山地にして殆んど平地なく、千種川の支流なる乃井野川及び楫保川の支流なるニシダニ川、クリス川等此の間を流れ、山崎町の北に在る長水山(五百五十六米)、稍著るしく、其他千種川の左岸に長水山(五百五十六米)稍著るしく、其の他千種川の左岸に高倉山(三百六十七米)楠山(四百米)白旗山(四百三十米)楫保川の右岸に大辟山(龍野山)二百〇二米等あり。又海岸に接しては金剛山(三百二十餘米)向山(三百五十餘米)等あり。

楫保川の東市川の西に在る山嶽も、北境にある分水山脈に於て最も高く、千疊ヶ峯(千二百五十九米)達磨峯(九百二十三米)等著るしく、千疊ヶ峯の西北に方りては田路阪(九百五十米)藤見嶺(六百八十八米)の二山路あり。更に南方に至れば曉晴山(千百二十米)三辻山(千米)洞ヶ嶽(雪彦山)六百六十二米)水尾山(龜ヶ坪山)七百十九米)七種山(六百七十一米)等あり。之れより南方の山地は北より南に流

市川加古川
間の山嶽

る、林田川、楫保川の支流、菅生川、夢前川等によりて南北に並走せる連嶺を生ず。何れも著るしき高峯に乏しく、其の北部に於ては五六百米の高距を有すれども、南方に至るに従ひ次第に低くなり、二三百米の丘陵となり、遂に海岸の平原に終る。此中稍著はれたるは楫保川畔山崎町の東方にある高倉山、菅生川夢前川間に在る明神山六百十五米、書寫山三百九十九米及び夢前川市川間に在る明子山六百米、大倉山四百十九米、城山三百六十米、棚原山二百五十米、廣峯山三百六十米等なり。

市川加古川間に於て國の北境には白岩山千〇十三米、三國山八百二十米、笹ヶ嶽七百二十米等ありて、白岩山の西に藤の棚嶺東に黒尾嶺五百八十三米、三國山の西に三國嶺七百二十二米、東に一の谷嶺笹ヶ嶽の北方に船阪嶺高阪嶺(六百五十一米)等を通ず。其の他黒尾嶺の東南にある仙ヶ峯九百六十米、越智川(市川の支流)畔福本の東方にある笠形山、近江嶺四百八十米を隔て、笹ヶ嶽の南方にある妙見山七百十五米等の如きは此の地方に於て稍著るしき高峯とす。之れより南方に赴けば山岳は次第にその高距を減じて、三四百米の丘陵とな

加古川以東の
山嶽

り、杉原川(加古川上流)の右岸に野間山四百餘米、矢筈山三百七十八米、市川の右岸に日光山五百二十餘米、其の東に愛宕山三百六十四米等あれども北條町近傍に至りては愈々低夷して海拔僅かに數十米に過ぎざる臺地となる。されど北條町の南方は地又隆起して第三紀層及び斑岩より成れる高距二三百米の丘陵を生じ、西劔坂山二百五十米、法華山二百八十餘米、周遍寺山二百米、中道山二百九十八米、飯盛山二百五十一米、雜郷山二百九十八米、高御位山三百三十七米、桶居山二百四十七米、曾根山二百餘米、小富士山二百餘米等あり。かくて遂に海岸の平原に終る。

加古川以東の山嶽に於て播磨丹波の境上に在るものは攝津丹波の間を東西に連亘せる老の阪山脈の西端をなすものにして、主もに石英斑岩より成り、西光寺山八百六十八米、清水山八百四十一米等あり。之れより以南加東美濃二郡地方は甚だ低き丘陵地方にして加古川の支流なる三草川、東條川、三木川等此の間を流れ、此南方には攝津の帝釋山脈、六甲山脈(攝津の五四五六頁参照)の餘波ありて稍隆起すと雖ども概して百乃至二百米の丘陵たるに過ぎずして著るしき秀

平原

峯なく、此の中三木町の東南に方りて、雄岡山(二百四十七米)雌岡山(二百四十八米)及び海岸に接して、攝津との界に鐵拐山(二百三十五米)あり。

既に述べたるが如く、國內甚だ山嶽丘陵に富み、平原は僅かに海岸若しくは大河の沿岸に存するに過ぎず。而して此の平原中稍大なるものは、國の東南隅に在る加古の平原、其の北に在る加東、加西の平原及び姫路附近の平原是れなり。

加古の平原は、加古郡の全部美藝明石印南諸郡の一部を占め、海岸に沿うて西方大鹽より東方明石に至る長さ約二十五軒、海岸より内地に向つての幅は五乃至十四軒に達し、面積凡そ二百六十平方軒を有す。第四紀層より成り、加古川其の西部を流れ、三木川(加古川支流)明石川は各其の北及び東部を走り、之れ等に屬する支流及び其の他の細流此の間を灌漑し、又甚だしく小池沼に富み、其數容易に數ふべからず。此の平原中にある市邑の中、明石高砂大鹽等は海に濱し、加古川町は加古川に沿ひ、三木町は三木川に沿ひて平原の北隅に位せり。

水系

加東加西の平原は加東郡の西部加西郡の東部を占むる平原にして加古の平原とは低き丘陵によりて隔てられ、東西十五軒に亘り南北亦これと等しく面積約百三十平方軒を占め、第四紀層及び第三紀新層より成る。加古川其の中部を南に流れ、其の支流三草川東條川七合川等此の間を灌漑し、又小池沼に富むと加古の平原に異ならず。其の海拔高距は加古平原よりも稍高く、百米内外にして、臺地状をなせる所あり。又卑濕なる草原に富み、北條町の東南なる飯盛原加古川右岸の青野原左岸の嬉野草加野の如きあり。而して此の平原中にある名邑は北條町の外新町社村小野等とす。

姫路附近の平原は市川夢前川楫保川等下流の流域地にして飾磨楫保二郡に跨り、海に濱して東西の長さ十二軒、海岸より内地に向つての幅は、三乃至十軒にして、面積凡百十餘平方軒を占め、姫路市は其の東北隅に、飾磨町は東南隅にありて海に濱し、龍野西條等は西方に偏して楫保川に沿ひ、網干は西南隅の海濱にあり。

國內の河流は概ね源を北方に發し、南流して播磨灘に注ぐを常とす。而し

千種川

て其の著るしきものには、之れを西方より擧ぐれば、千種川楫保川夢前川市川及び明石川等あり。

千種川は又赤穂川ともいふ。源を國の西北隅なる大通山池田山大通嶺附近に發し、花崗岩閃綠岩等より成れる山地を南方へ流れ、數多の溪流を併せ千草を過ぎて後は流紋岩及び中生層の山地に入り、西徳久附近より西南に轉じ、中島に於て乃井野川を合す。乃井野川は千草の東方にある山地に發源し、略本流に並行して南に流れ、乃井野町を過ぎてより西に轉ず。長さ凡そ二十五糎あり。本流はこれより尙ほ西南に走り、久崎に於て北方平福佐用等を流れ來る久崎川に合し、南に折れ尙ほ山岳重疊の間を繞り、上郡町附近に於て兩岸稍開け、鞍位川を容れ東有年を過ぎ、東南に轉じてより丘巒又岸に通じ、かくて川は阪越に於て急に西南に折れ、愛宕山の麓を擁し末流二分し共に赤穂の南一糎の所に於て海に入る。長さ凡そ七十糎あり。

楫保川

楫保川は其の上流三方川及び安栗川に分る。三方川は播但の界なる佐治見山・量見山・空山等に發する數多の細流を合し、西南々に流れて三方村を過ぎ、

夢前川

安積村に至る。安栗川は播但因の境なる三國山附近に發源し、花崗岩流紋岩閃綠岩等より成れる山地を南方に流る、こと二十六糎にして、安積村に出て三方川に合す。之れより川は山巒重疊の間に狭き沖積地を作りて南方に流れ、山崎町に至り、こゝに右岸よりニシタニ川を容れ、益南走して新宮東嘴崎等を過ぎ、龍野町に至りて兩岸大に開け、正條驛に於て東南に轉じ、其の東南二糎の所にて北方洞ヶ嶽雪彦山等の西麓に發し本流に並行して安志林田等を過ぎ南流する林田川又は片吹川ともいふを合し、末流三分し、網干附近に至りて遂に海に入る。其の最東の一派は長さ約一糎半の溝渠により其の東方にある一小流太田川と相通ず。川の全長凡そ七十糎。其の下流は甚だ舟楫の便に富めり。

夢前川は楫保川市川の間にあるものにして、三辻山の南麓に發し、南流して山内前庄野等の諸邑を過ぎ、城山の西麓、書寫山の東麓を流れ、下手野驛の北に於て、北方雪彦山に發源して南流する菅生川を併せ、英賀廣畑の間を貫き海に注ぐ。長さ凡そ三十五糎とす。

市川は上流を黒川といひ、源を但馬粟鹿嶽の南麓に發し、西に流れ、生野町を過ぎて後南に折れ、本國內に入り、市川と稱せらる。之れより川は西南に流れて栗村に至り、右岸より犬見川を容れ、殆んど正南に轉じ、柏尾に於て小田原川を合し、東南に向ひ一大支流名村川と相會す。名村川は生野町の南方にある藤の棚嶺附近に發する猪篠川及び仙ヶ峯の北方より來る越智川の粟賀に於て相合して成れるものにして、福本の南二軒餘の所にて市川に合す。市川はこれより兩岸稍開け、第四紀層より成れる細長き平地を南に走り、屋形を過ぎ、西田原の北に於て北方笠形山に發する岡部川を左岸より容れ、福崎を経て後は兩岸の丘陵益遠く、第四紀層の平野稍廣く發達せり。されど仁豐野附近に至り、兩岸の平地再び狭く、保城近傍より又稍廣き平野に出て、姫路市の東隣を過ぎ妻鹿に至り二分して海に入る。長さ凡そ六十六軒、其の中本國內にあるもの凡そ四十八軒にして舟楫灌溉の利甚だ大なりとす。又姫路市の東北三軒なる宇保城より起りて姫路市を過ぎ飾磨町の海濱に終る一溝渠あり、灌溉水運の便を計るものなり。

加古川

加古川は上流を丹波川といふ。老の阪山脈の北方を東より西に流る、大蜘蛛川及び播磨丹波但馬の境上に於ける山嶽地方より發源して彎形を畫き南流する佐治川(共に丹波國に屬す)の相合して成れるものにして、此の二川相合してより直ちに播磨に入り、第三紀層の丘陵地に挾まれたる狭き平地の間を東南々に流れ、字和田に於て北方三國山に發して南流する一大支流杉原川を合す。之より尙ほ東南々に走り、新町を過ぎて廣漠たる平原に出て、池沼に富める地方を緩流し、左岸よりは三草川東條川、右岸よりは有田川下里川の相合して成れる七合川を容れ、阿形近傍より東南に轉じ、忽ちにして又西南に折れ、東方より來る三木川を合す。三木川は老の阪山脈と帝釋六甲二山脈との間にありて播磨攝津の境上に起伏せる丘陵地にある諸細流を合して成れるものにして、美囊郡の全部を灌溉し、西方に流れて三木町を過ぎ、遂に加古川に合するものなり。本流はこれより加古平原の西部を西南西に流れ、國包を過ぎ加古川町に至りて二分し、本流は南に折れ、高砂町に至り、支流は洗川と稱せられ伊保崎の東を過ぎて後何れも海に注ぐ。河流の本國內にあるもの凡そ

明石川

五十軒にして、舟運の便灌溉の利頗る多く、其中流加東郡地方を流るゝ部
分は又瀧野川の稱あり。

湖沼

明石川は上流を木津川といひ、源を攝津の西南部にある六甲山脈の北麓な
る丘陵地方に發し、國內に入り彎形を畫きて西南に流れ、中村近傍より南に
轉じ、國の東南隅に於ける丘陵地方の諸流を併せ、明石町に於て明石海峡に
注ぐ。長さ凡そ二十五軒にして、其の中國内にあるものは二十餘軒なり。
國內湖沼の大なるもの絶えてなし。加古の平原加東加西の平原には面積一
平軒に満たざる小池沼甚だ多く散在し、其の數蓋し百を以て算すべく、又加
古平原の西北及び姫路市の北西にある丘陵地方にも數多の小池沼あれども、
特に記述すべきことなし。

海岸

海岸は播磨洋に向ひ一大凹灣をなし、概して出入に乏しく、楫保川河口の
東西によりて稍、其の形相を異にす。東部は極めて低平なる砂濱にして夢前川
市川加古川等の河口によりて破らるゝの外殆んど出入なけれども、西部は稀
に砂濱なきにあらざれども、多くは巒峯急に海に臨みて岸邊に平地少なく、

島嶼

又岬灣に富みて室津灣相生灣阪越灣赤穂灣金崎丸山岬御崎(第十九回)等あり。
西部の沿岸は又島嶼に富みて、室津灣の南にある君島地唐荷島中唐荷島沖唐
荷島等の外、相生灣の南には鬘島、阪越灣内には生島、千種川河口の沖には
取上島等あり。

播磨洋中に散在せる家島群島も亦播磨國に屬するものにして、四大島、家
島男鹿島坊勢島西島及び數多の小島より成る。

家島は群島の略、中央にありて、稍、西北より東南に長く、西北に一灣を擁し、
其の灣口を扼するものは即ち尾崎鼻及び天神鼻にして、眞浦宮浦の二邑は此
の灣に臨みて在り。島の最高點は百二十米以上にして、地は概ね古生層及び
花崗岩より成る。

男鹿島は家島の東方二軒の所に在り、稍、南北に長く、殆んど全く花崗岩よ
り成り、其の最高點は二百二十米に達す。

坊勢島は家島の西南に在り。南北に細長く不規則なる形をなし。其の最高
點は八十米以上にして、島は主として火山岩より成る。

西島は坊勢島の西方に在りて、不規則の形をなし、半島及び灣入に富めり。島は概ね火山岩より成り、最高點は西南隅にありて海拔二百七十六米に達す。尙ほ家島群島に對する小島には、西島の西方に院家島、南方に桂島松島長島三ツ頭島、坊勢島の西南に高島、東に黒島坊勢島家島間に久篁島男鹿島の南方に力島、東方に大島鞍掛島上島等あり。何れも花崗岩若しくは火山岩より成る。

丹波國

丹波國

總説

丹波は四方山を圍らし、毫も海岸線を有せざる國にして、東は山城但馬播磨に接し、南は攝津北は若狹丹後但馬と界す。地形稍東西に長く、其の長八十軒、南北の幅は三十六乃至五十二軒にして、面積千〇三十三平方軒を領し、京都府及び兵庫縣の所管たり。

丹波の地は之れに隣接せる山城攝津若狹丹後等の一部分を併せて、所謂中國山脈の東部を構成するものにして、大河の沿岸にある僅少の平地を除く

外は、殆んど全く高原的の山地にして、之れを丹波山地ともいふ。之れを構成するものは、概ね古生層の諸岩なれども、此の高原の南縁攝津と境を交ゆる地方に於ては、石英斑岩の噴出起りて、廣く以上の諸岩層を蔽ひ、西北丹後との境には閃綠岩、丹波丹後但馬三國の境上には花崗岩稍廣く發達し、國の西邊に於ては、花崗岩及び石英斑岩流紋岩閃綠岩等殆んど全く古生層を被覆せるを見る。又大蛛川沿岸の篠山四近及び由良川の支流なる牧川の沿岸には、中生層稍廣く分布し、其の他大河の沿岸には第四紀層の平地を擁せり。今國の山嶽に就いて記述するに方り、第一大蛛川以南の諸山嶽、第二山良川竹田川以西、第三神林川和知川山良川の上流以北、第四爾餘の諸山嶽等に分つべし。

大蛛川以南に於て國の南境に連亘せる諸山嶽は、即ち老の阪山脈と稱するものにして、東は保津川の南岸なる嵐山山城に起り、概するに東西の走向を有し、北は大蛛川の溪谷によりて限られ、西は大蛛川の下流なる加古川の岸に盡き、南は攝津の大阪平原に臨む。其の基盤は古生層より成れども、石英

大蛛川以南の山嶽

由良川竹田
川以西の山嶽

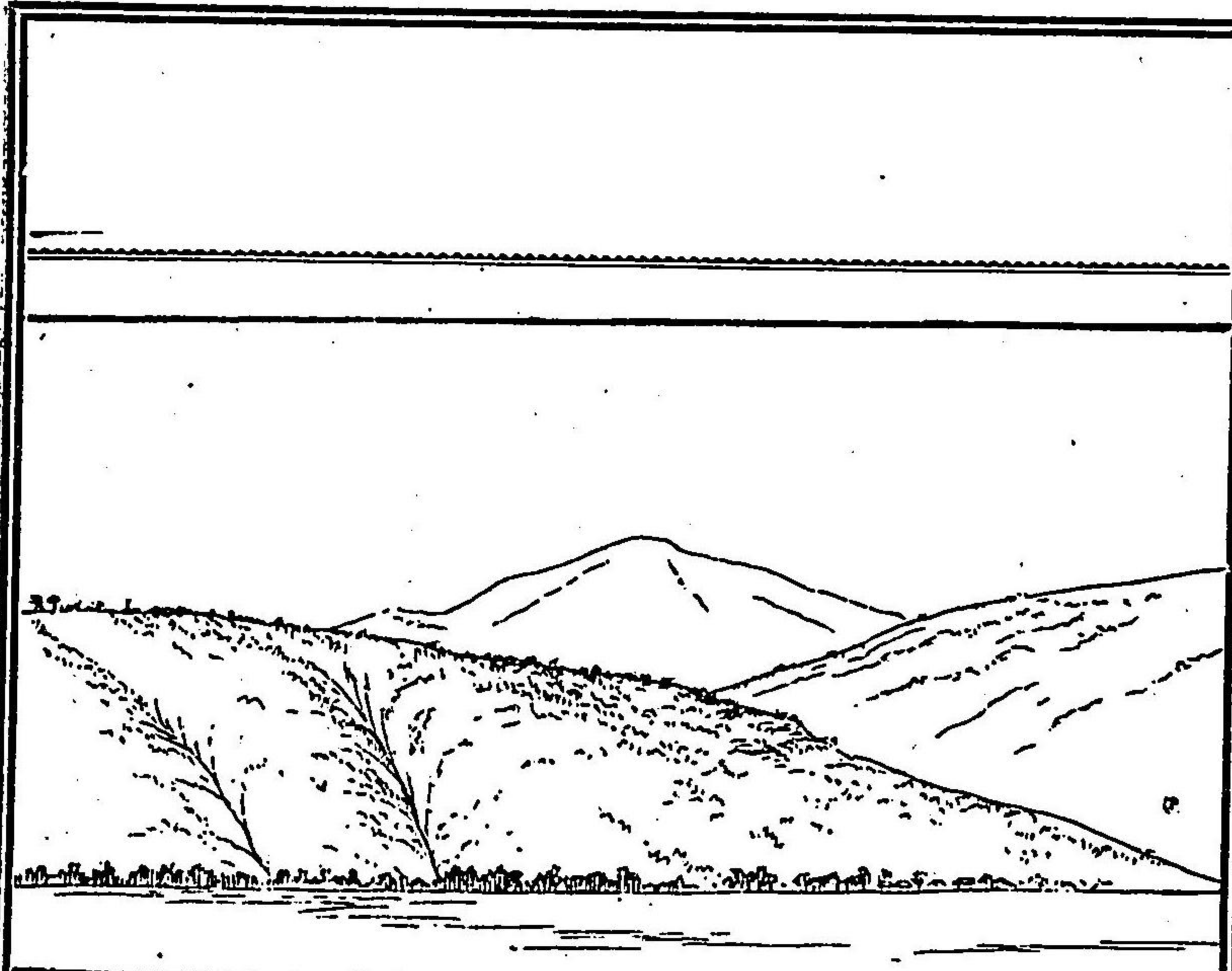
斑岩の噴出盛んに此の地方に起りて、甚だ廣く之れを被覆せり。此の山脈の東部に於ては著るしき高峯なく、園部町の南方八軒の所にある半國山七百十米稍高く、其の他は概ね五百米内外の高距を保ち、南境に於て最も高く、保津川に向つて次第に陵夷し、又龜岡より京都に至る間には老の阪峠(二百〇五米あり)。半國山の西方には深山九百六十米彌十郎ヶ嶽(八百米等を生じ、其の西には天狗岩七百五十三米朝路山五百〇五米等あり。天狗岩の西方にある愛宕山(八百米より山脈の軸は國境を離れて園内に入り、古市の西北にある高仙寺山(七百六十米及び其の西に連なれる西光寺山(八百六十八米)となり、遂に大蛛川畔にある谷川の南なる觀音山に盡く。又西光寺山の南一溪谷を隔て、清水山(八百四十一米)あり。

山良川竹田川以西に於ける山嶽中佐治川の東方にありて、南は大蛛川により、北は牧川によりて限らるゝ地方は、即ち日本海と瀬戸内海とに注ぐ河流の分水嶺をなすものにして、其の大部は古生層より成れども、北部に於ては閃綠岩稍廣く發達し、南部には石英斑岩の小噴出あり。此の中稍著るしきも

のは、南方に於ては高宮山及び其の東方に隆起せる權現山金山夏栗嶽(六百米)等あり、之れより東方には幾多の峯巒連亘して以て大蛛川土師川の分水嶺をなす(後項參照)。權現山の北方は一旦低くなりて、海拔僅かに八十米内外の平地をなし、其の北又隆起して黒井町の北に城山(三百六十米)、其の以北に小野寺山(六百十六米)神南山あり。神南山の西方は四百米内外の山地にして、佐治川及び牧田川の分水嶺をなす。

佐治川以西の山嶽は花崗岩閃綠岩及び石英斑岩流紋岩等より成り、基底の古生層は各所に小區域を限りて露出するに過ぎず。又輝石富士岩及び粒狀富士岩、第三紀層等も少しく發育せるを認む。之れに屬するもの、中、其の南部にあるものは延命寺山(四百五十米)笹ヶ嶽(七百二十米)白山(四百八十米)にして、笹ヶ嶽の北方には高阪峠(六百五十一米)船阪峠一の谷峠等を隔て、丹波播磨但馬三國の境に跨れる三國山(八百二十米)等あり。

佐治川の上流神樂川の北方に於て、丹波但馬の境上に駢立せる山嶽は、南部に於て近江山(約五百米)、三國山の北にある佐治峠(五百二十六米)の北方に雲



丹波國文殊より東に大江山を望む

須山、粟鹿峠九百二十六米等あり。粟鹿嶽の北方には遠阪峠三百七十四米を隔て、小倉山五百八十米、三國山五百〇四米等國境に連なり、其の北方には夜久野の荒野を隔て、田倉山を起し、遂に丹波國の最西北隅にある鐵鉈山六百三十八米に及ぶ。由良川、牧川の北方に在りて國の西北隅を占むる山嶽は、即ち大江山脈に屬するものにして、古生層中生層及び花崗岩閃綠岩等より成り、略東西に連亘し、其の東部には閃綠岩より成れる天ヶ峯五百九十七米、大江山八百十二米、赤石山七百二十米等を起し、其の以西は概ね花崗岩より成りて、丹波、丹後、但馬の界には三國山、

上林川和知川以北の山嶽

中部及び東部の山嶽

南には見立山八百六十四米あり。其の西方は登尾峠四百五十六米、小阪峠五百十米、小阪峠三百八十三米等を経て富岡山等に連なる。

由良川の上流なる和知川と其の支流なる上林川との北方にある山嶽は飯盛山脈と稱するものにして古生層及び閃綠岩より成り、若狭國小濱の西方にある飯盛山に起りて略西南西に走り、丹波若狭丹後の境上に丸山五百五十米、三國嶽五百五十五米を起し、三國嶽の南方には田甲山六百二十二米あり。之れより以西は丹波丹後の境に連亘し、田甲山の西に三千嶽、彌仙山等を生じ、之れより著るしき秀峯なく、内久井峠、久田美峠、尾崎峠、枯木峠等を経て鳥ヶ嶽四百四十四米、鬼ヶ城五百二十米等となり、遂に由良川の東岸に盡く。

以上記述したる諸山嶽以外のもの、即ち國の中部及び東部を占むるものは全部古生層より成れる高原的の山地にして、北方日本海を注ぐ由良川に屬する諸支流、神林川、和知川、土師川、竹田川、及び南方大阪灣に朝する淀川の上流をなす大堰川、園部川、播磨洋に入る加古川の上流なる大株川等を涵養す。其の主なる分水嶺は所謂佐々里山脈と稱せられ、丹波山城、近江の界なる三國嶽に

起り、西南に連亘して佐々里峠七百〇七米、神樂阪三百八十九米、朝の山、観音峠二百八十四米に至り、之れより西走して土師川、大蛛川間に蜿蜒せるものにして、この主脈より分岐せるものには、神樂阪朝の山附近より西走して和知川、土師川の間に連なるもの、三國嶽より西方に向へる知阪山脈、南方に走りて丹波山脈の界をなす愛宕山脈等あり。

主要なる分水嶺の観音峠以東は、四五百米の海拔高距を有せる高原地にして特立せる秀峯なく、數多の山路は此の間を横ぎり佐々里峠七百〇七米、深見峠、神樂阪三百八十九米、海老阪四百六十二米等あり。観音峠は高さ僅かに二百八十四米、此の分水嶺中最も低き地にして、保津川沿岸の龜岡園部地方より土師川に沿へる須知を経て、山良河畔の福知山に出づる要路とす。観音峠の西方は群峯重疊して、土師川及び大蛛川を分水し、大蛛川沿岸なる福住の北方には、三國ヶ嶽櫃ヶ嶽五百五十二米、毘沙門山六百〇八米、八ヶ尾山六百四十八米等を起し、篠山町の北方には、金山七百六十米、畑山八百四十米、御嶽八百八十六米、西ヶ嶽七百七十二米等を生じ、之れより山脈二つに分れ、一は西に

走りて盃ヶ嶽五百〇八米、夏栗嶽六百米、權現山等に連なり、北に折れて竹田川、佐治川間に起伏し、一は西北に走りて土師川、竹田川間に亘り、天神山六百餘米を隆起せり。

此の主山軸より岐れ神樂阪海老阪附近より西に向へるものは五百米内外の高距を保ちて東西に連亘し、以て和知川、土師川の分水嶺をなし、著るしき高峯に乏しく、連山の間數多の山路を通じ、山隈水涯所々に村落の散在せるを見る。草尾峠四百七十六米は和知川に臨める廣瀬村より土師川沿岸の檜山に通ずるものにして、湯船山三百八十六米は山脈の西端にありて綾部町の西方五軒の所に位せり。

三國嶽より西方に向へる知阪山脈も、剗然たる山脈をなすものにあらずして、又特に聳立せる高峯を有せず。されど其の隆起線は略東西に走り、丹波若狭の境上に連なりて山良川の上流と小濱灣に注ぐ南川との分水嶺をなし、遂に和知川、神林川の間に至り、其の會點に及べるものにして、三國嶽の西に八ヶ嶽六百七十八米を生じ、其の西方知阪峠四百四十二米、堀越峠、中野峠を經

て頭巾ヶ嶽に至る。其の西南には洞峠(六百二十二米)を経て長老ヶ嶽(八百米)あり。

三國嶽より南方に走りて、丹波山城の界に連亘せる愛宕山脈(山城の條二九頁参照)は、賀茂川(山城)及び大堰川の分水嶺をなし、三國嶽の南方に、大悲山(九百餘米)あり。其の南には鍋谷峠(五百七十九米)及び芹生峠(六百六十一米)を通じ、芹生峠の西には棧敷ヶ嶽(八百二十九米)假度嶽(七百米)の二秀峯あり。之れより南方には笠峠(四百四十五米)松尾峠(五百四十米)を経て越畑山(九百五十三米)愛宕山(九百四十三米)山城に屬す(地藏山(九百四十九米)千歳山(五百二十八米)及び琴比羅山(六百七十五米)等を隆起し、遂に保津川の溪谷に終れり。

国内の地勢は既に述ぶるが如く、至る所山嶽重疊して、殆んど平原と稱すべきものなく、唯、山間の小盆地若しくは大河の沿岸に些少の平地を開けるに過ぎず。其の中稍、大なるは福知山篠山龜岡附近の平原之なり。

篠山附近の平原は大株川に沿ひ東西に細長く、長さ十四軒、幅は二軒乃至三軒半に達し、面積約二十四平方軒を占む。其の四方には中生層より成れる

平原

篠山盆地

龜岡盆地

丘陵を圍らし、更に此等を圍繞するに東部北部に於ては古生層の山嶽、南部及び西部に於ては古生層及び石英斑岩の山岳等を以てし、標式的の盆地を形成せり。蓋し此の平地は、古生層より成れる山地の窪所に、中生層の沈積したる後、更に其の中の卑所に第四紀層の成層したるものにして、大株川は此の盆地を東西に貫流し、山嶽重疊の間を穿ちて播磨に入る。其の近傍は地勢及び地質より稽ふるに、蓋し篠山四近の平地は一時所謂谷湖をなしたるものなるべし。国内に於て主要なる篠山町は其の中央に位し、其の他村落の發達甚だ繁し。

龜岡附近の平原は保津川に沿ひて西北より東南に長く、第四紀層より成れる盆地にして、長さ十二軒、幅は一乃至五軒に達し、面積約三十二平方軒を有し、四方概ね古生層の山嶽を圍らし、亦往時の湖底たりし地形を存せり。

龜岡町は其の東南隅に偏在し、其の他八木篠村等の名邑あり。此の外尙ほ福知山四近には福知川及び土師川の相合するありて、其の沿岸に廣き平野を開き、廣袤また前二者と殆んど相如けり。

水系

由良川

和知川

国内の河流は佐々里山脈の一大分水嶺によりて、北方日本海に朝する山良川、南方大阪灣に入る淀川、播磨洋に注ぐ加古川の三系統に分たる。

山良川は和知川及び土師川の相合して成れるものなり。和知川は源を國の東北隅なる佐々里峠附近に發し、西南流して島村に至り、北方堀越峠中野越近傍より來る棚野川を容れ、之れより西方に流れ、數多の細流を合し、山家村に至りて一大支流神林川を合す。

上林川は丹波丹後若狹三國の境なる三國嶽近傍に發し、西南流して強木川小屋川等の諸水を合し、約二十五軒にして本流に合す。本流は尙ほ西方に流れ、兩岸稍開けて狭き沖積地を作り、綾部町を過ぎてより沿岸の平地少しく廣くなり、益西走し福知山町の東南一軒弱の所に於て土師川と合す。其の下流は福知川と稱せられ、水源よりこゝに至るまで約七十軒あり。

土師川

土師川は源を觀音峠の西方にある櫃ヶ嶽毘沙門山等の北側に發し、園部福知山の街道に沿ひて群嶽重疊の間を西北に流れ、生野驛を過ぎて後南方天神山の東南麓に發し、その南西麓を繞り、國領市島等の諸邑を過ぎて北流する。

竹田川を併せ、之れより兩岸大に開け、益西北に流れて遂に福知川に合す。長さ凡そ二十六軒あり。

和知川(福知川)及び土師川の相合してより川は山良川と稱せられ、河幅益廣く、兩岸の平地亦愈廣濶となり、川は西北々に向つて福知山町の東縁を過ぎ、宇安井近傍に於て西方丹波但馬の境なる二國山小倉山等に發して中生層及び閃綠岩等より成れる地方を西流する牧川を合す。これより川は北方に向ひ、遂に丹後國に入る。和知土師二流の相合してよりこゝに至るまで凡そ九軒とす。丹後に入りて後川は東北に折れ、舞鶴港に於て海に入る。(丹後の條九五頁參照)

大堰川

大阪灣に朝する淀川の系統に屬するものにて本國內にあるものは大堰川及び其の下流の保津川とす。大堰川は愛宕山脈中の一峯にして丹波山城の界にある大慈山近傍に發源し、著るしく屈折彎曲して西南に向ひ、宇周山附近より概して西方に走り、群峯亂立せる間を縫ひて屈曲甚だ多く、殿田に於て南方に折れ、室河原に於て西方より來る園部川を合す。之れより川は龜岡盆地

大蛛川

に出で、西岸稍開け、第四紀層の平地を東南に貫流し、龜岡町の北方約一軒半の地を過ぎ、保津川と稱せられ、東方に轉じ愛宕山脈及び老の阪山脈に屬する諸山群起せる間を穿ちて、遂に山城國に入り、桂川となり、淀川の一大支流をなす。國內を流るゝこと凡そ五十五軒、水流甚だ急にして其の下流地方僅かに扁舟を通ずるのみ(山城の條三頁參照)。

播磨洋に注ぐ加古川に屬するものには大蛛川及び佐治川あり。大蛛川は地盤の一大陥落を示せる縦谷を東より西に流るゝものにして、觀音峠の西方にある三國嶽櫃ヶ嶽毘沙門山八ヶ尾山等に發する諸水を集め、老の阪山脈の北麓を擁し、篠山盆地に出で篠山町を過ぎ、再び群山重疊の間を穿ち、谷川附近に至りて又平地に出で、丹波播磨の境に於て佐治川と合す。長さ凡そ四十軒あり。

佐治川

佐治川は上流を神樂川といふ。丹波播磨但馬の國界にある三國山及び其の北方の雲須山粟鹿嶽等に發する諸溪流を集め、始めは東流し佐治町を過ぎてより東南に轉じ、佐治川と稱せらる。かくて川は更に南に折れ、古生層より

總説

丹後國

成れる山地の間を流れて細長なる沖積平地を作り、柿芝町の東を過ぎてより、石英斑岩より成れる白山高宮山の間を西南に走り、和田町の東に出で、再び東南に轉じ遂に大蛛川と合す。長さ凡そ三十四軒あり。大蛛川及び佐治川の相合してより川は直ちに播磨に入り、丹波川と稱せられ、其の下流加古川となり播磨洋に入る。國內湖沼の記すべきものなし。唯龜岡町の北方約六軒の所にある馬路村の北に三個の小池あるのみ。何れも周圍一軒に充たず。

丹後國

丹後國は本卷地誌區域の西北隅を占め、南は丹波及び但馬に接し、東は若狹國、西は但馬國を界し、北方は日本海に臨む。國の形西北より東南に延び面積約四百七十八平方軒を有し、京都府の所管とす。國の西部に於ては經ヶ崎の一大半島東北に突出し、其の東方に於ても黑崎半島加佐半島等北方に突出せるありて甚だ水平的肢節に富み、又中國山脈に屬する諸山嶽は國內に起

伏重疊して垂直的の肢節亦乏しとせず。經ヶ崎半島と黒崎半島との間にある宮津灣及び之れに注ぐ倉崎川は自ら國を東西の二部に分つものなり。東部は其の大半所謂丹波山地に屬するものにして主もに古生層及び之れを貫きて噴出せる花崗岩閃綠岩等より成り、又其の東北隅には輝石富士岩及び流紋岩の小噴出ありて、一般に南方に高くして北に向ひ次第に低くなり、山良川其の中部を東北に貫流し、其の他の諸川多くは東北若しくは北方に流る。西部は經ヶ崎半島其の大部を占め、重もに花崗岩第三紀層及び新火山岩より成り、竹野川及び大川此の半島を南より北に流れ、其の西方には久美濱灣北に向つて開けり。

國の東半部中由良川以東に於て、丹後丹波の境上に連亘せるものは即ち飯盛山脈にして、若狭小濱の西方に起り、西南西に走り、飯盛山を経て後丹後丹波若狭の界なる三國嶽五百五十五米となり、三千嶽彌仙山等を経て遂に由良川東岸の烏ヶ嶽四百四十四米及び鬼ヶ城四百二十米に終る。加佐郡の大部分を占むる山岳丘陵は此の主脈より支出せるものにして、多くは直ちに日本

山嶽
飯盛山脈

海に逼りて斷崖をなせり。此の支脈中著るしきは三國嶽より北に向へるものにして、丹後若狭の境に沿ひ、吉阪峠百〇二米を経て輝石富士岩より成れる青葉山七百二十米となり、遂に日本海に突出せる成生崎半島に終り、又青葉山の北方數軒の地より西方へ向へる半島上には古生層及び閃綠岩より成れる山岳ありて、其の中多彌寺山(六百〇四米)を最高とす。

由良川と宮津灣・倉崎川との間にある山嶽は即ち丹後丹波但馬三國に亘れる大江山脈に屬するものにして、三國の境には三國山ありて、其の北には江笠山(七百二十五米)、東北には赤石山(七百二十米)及び大江山(八百十二米)等の諸秀峯を隆起す。大江山より東北北に向へる一脈は宮津町の西邊に延びて倉崎山(三百十三米)となり、文珠附近に於て海に盡き、又略、由良川に並行して東北東に走れるものは普甲山・辛川山・杉山及び由良嶽(六百八十三米)等を生じ、遂に栗田灣頭に終り、又杉山より北方に蜿蜒せる一脈は黒崎半島を作れり。

宮津灣・倉崎川以西に於ては經ヶ崎半島其の大部を占め、海岸を除くの外一般に山嶽に富み、其の西南部は重もに花崗岩及び第三紀層より成り、東北部

大江山脈

は花崗岩の外に第三紀層廣く發達し、又之れを貫きて輝石富士岩及び流紋岩等あり。其の西南部にあるものは、大江山脈より連なり來り、三國山江笠山より丹後但馬の國境をなして北方に走り、竹野川の水源地方に足占山(六百九十四米)及び兜山(三百六十八米)を起す。足立山よりは三支脈を出し、其の東北に向へるものは中興謝の郡界をなして三百米内外の連嶺をなし、大内峠(六百十三米)を経て天の橋立の北方に聳ゆる谷尾山(三百二十五米)及び成相山(六百六十一米)となり、北に向ふものは中郡の西境をなし、足占山の北方には菱山峠(百三十米)を隔て、權現山(四百九十四米)を起し、之れより北方は次第に低夷して甚だ低き丘陵をなし、峰山町より島溝川に通ずる廿日尾峠に於ては僅かに九十七米に過ぎず。權現山の西北には第三紀層より成れる丘陵ありて、其の高距百乃至二百米を保ち、北方海に没する所は概ね懸崖絶壁をなせり。又足占山より西方に蜿蜒せるものは丹後但馬の界をなし、圓城寺峠(四百二十六米)の西方には寶澤山(六百十八米)あり。これより西北に連亘して次第に低くなり、駒坂峠(三百六十五米)田渡峠(三百二十六米)馬路峠河梨峠(百七十二米)等の山路此

の連嶺を横斷し、河梨峠以北は第三紀層より成り、四百米内外の高距を保ちて北方に向ひ、久美濱灣の西方を擁し、其海に臨む所は多くは急傾斜をなし、斷崖をなせるを常とす。

足占山より北方に連なれる山嶽及び西方に亘れるものは、久美濱に向ひ次第に低くなりて丘陵地を生じ、其の海に没する邊多少の平地を生ぜる所あり。

久美濱灣の東岸にある甲山(百八十一米)は此の丘陵中稍著るしきものとす。

經ヶ崎半島

經ヶ崎半島は東北に向つて突出せる半島にして長さ二十五軒、幅は十乃至十八軒に達し、花崗岩第三紀層及び輝石富士岩流紋岩等より成り、四百乃至六百米の山嶽重疊群起し、平地は僅かに竹野川及び大川の沿岸に之れを見るに過ぎず。此等山嶽中宮津灣北岸の成相山より北方に連亘せるものは、前記二川の分水嶺をなすものにして、成相山の西北には高雄山(三百六十米)及び淺谷山(七百餘米)あり。其の北方には能野山(六百六十二米)小倉山(五百〇四米)を起し、極北には輝石富士岩より成れる權現山(五百二十七米)ありて、其の北麓は海中に突出して犬ヶ崎の岬角を作れり。其の他成相山の東北には仙石山(三百

平原

五十九米)大鼓山及び半島の最東端には蝙蝠嶽三百〇九米等あり。

國內甚だ山嶽に富み、平原と稱すべきものなけれども、唯、大河の沿岸若しくは河口には僅少の平地ありて、茲に數多の市邑の發達せるを見る。即ちイサツ川下流の平地には海に接して舞鶴町あり、山良川の河口には山良港あり、入幡川に跨りて宮津灣の濱には宮津町あり。其の他倉掛川沿岸には加悦四辻岩瀬等の諸名邑、竹野川の平地には蜂山河邊口大野、久美濱灣頭には久美濱町あり。是等平地の中竹野川沿岸の平地稍、大にして、西南口より東北北に長く、花崗岩の山脈によりて圍繞せらる。又倉崎川沿岸のものも花崗岩の山嶽の間に入りて西南より東北に細長なり。

水系

イサツ川

國內の河流は概ね北流して日本海に朝宗せり。今其の著るしきものを東方より擧ぐればイサツ川由山良川倉崎川大川竹野川等なり。

イサツ川は飯盛山脈に屬する三千嶽の西麓に發し、始めは西方に流れ、後北方に轉じて彌仙山の西麓を繞り、舞鶴町の東北を過ぎ、舞鶴灣に入る。長さ僅かに十五軒に過ぎず。

由良川

由良川は丹波の和知川土師川等の相合して成れるものにして國內に入りてより飯盛山脈と大江山脈との間にある狹隘なる溪谷を東北に流る。河守に於て北方大江山の東麓より來る二股川を容れ、其の他兩岸にある諸山嶽より發する細流を併せ、字丸田附近より北方に折れ、由良港に至りて舞鶴灣に入る。國內にあるもの凡そ二十五軒、舟運の便甚だ大なり。

倉崎川

倉崎川は大江山赤石山江笠山等に發する細流を合し北流するものにして、其の沿岸には稍、廣き第四紀層の平地を開き、後野加悦四辻等諸邑の東方を過ぎ、東北に折れ、弓木の東方に於て天の橋立に擁せられたる内海の潟湖に注ぐ。長さ凡そ十八軒あり。

大川

大川は經ヶ崎半島の中央部を南より北に流るゝものにして、源を淺谷山能野山近傍に發し、第三紀層より成れる地方を過ぎ、字上野に於て日本海に入る。長さ僅かに十五軒のみ。

竹野川

竹野川は高雄山淺谷山等の南麓に發し、始め西南に流れ、谷内近傍より西北に轉じ、口大野村を過ぎて、峰山町の東方に出て、こゝに西南の方足占山

淺茂川

より發する一支流を容れ、略大川に並行して東北北に流れ、日本海に朝す。長さ凡そ三十二軒、其の沿岸には第四紀層より成れる廣き平地ありて沃野多く、國內に於て最も重要な生産地方とす。

本社川

淺茂川は權現山の西北麓に發し、東北に流れ、郷村附近より北方に轉じ、淺茂川湖に入る。長さ僅かに十餘軒に過ぎざれども、其の沿岸には比較的廣き平地ありて田園よく開けたり。

湖沼

本社川は經ヶ崎半島の東北端に於て日本海に朝するものにして、其の過ぐる所は、火山岩及び第三紀層の集塊岩質凝灰岩等より成れる丘陵地方にして、沿岸平地に乏しく、岸邊多くは斷崖をなせり。長さ僅かに十軒のみ。

此の外淺谷山附近に發して宮津灣に注ぐ淺田川、昔甲山幸山川等に發源し、北流し宮津港に至りて海に注ぐ八幅川、及び久美濱灣に注ぐ二三の細流あれども、何れも甚だ小にして特に記するに足らず。

湖沼

國內湖沼の記すべきものなし。唯、竹野郡網野近傍の海岸に近き地方に、小濱湖及び淺茂川湖の二小湖あるのみ。一は網野の東方にあり、稍南北に長く

海岸

して面積一平方軒に達せず。一は其の西方にありて、小濱湖に比して遙に小なり。是等の湖水は、何れももとこれ海灣をなせしものなるも、其の灣口に沙洲の堆積せる爲め、遂に海と隔絶するに至りしものにして、所謂潟湖と稱すべきものなり。蓋し此の地方の海岸は一般にかゝる湖水に富み、因幡の湖山地多餘池湯山池等皆この種に屬し、又本國內にある久美濱灣及び宮津灣の内海に於ては一帶の砂嘴其の灣口を扼し、將さに外海と隔てられんとせり。

海岸

海岸は砂濱徒崖相半ばし、一般に甚だ出入に富み、西方には久美濱灣(第二十圖)あり。之れより東方に向つて經ヶ崎半島の海岸を繞れば、其の東端に南に向つて開ける伊根港あり。其の西南には此の半島と黒崎半島との間に西南に向つて細長く凹入せる宮津灣あり。天の橋立(第三十一圖)の砂嘴北岸の成相山麓より西南に向つて長く灣内に突出し、白沙青松頗る風景の美を極め、其の長さ約二軒餘、先端は文珠村と相對し、其の間極めて狭く、内に擁せられたる内海は潟湖となせり。宮津灣の東方黒崎半島の東岸には島蔭灣及び栗田灣を擁す。其の東方金崎半島の東には、南北に細長き舞鶴灣あり。其の東にあ

島嶼

る大波灣とは戸崎半島によりて相隔つ。其の他數多の灣入半島等あれども其の詳細は後章海岸の條に述べし。

丹後の海岸には小島嶼甚だ多く、久美濱灣の沖及び其の西方の海岸には角島出島沖の島八頭島女夫岩二島等ありて、其の東方には宇夕日の海岸に大島、淺茂川河口の近傍に福島あり。經ヶ崎半島の北及び東海岸には、小島嶼小岩礁殊に多く、其中稍大なるを竹野郡の西北海岸にある城島及び伊根灣口にある青島とす。其他戸島小戸島は舞鶴灣口に、鳥島蛇島は大波灣口に、桂島沖の桂島は加佐郡三濱の海岸に位す。又毛島は加佐郡成生崎の東方一軒餘の所にありて南北に長く、面積約三分の二平方軒にして、其最高點は百九十米に達し、冠島は成生崎の西北北十軒の所にありて其の大き略毛島と相等しく、高距百十五米を有し、沖の島は冠島の北方三軒にありて、南北に細長さ小島なり。

但馬國

但馬國

總説

山嶽
朝來川
以東の山嶽

但馬は播磨の北方に位し、東は丹波丹後と界を接し、西は因幡國に隣りし、北方は一帶日本海に臨む。地形稍東南より西北に延び朝來川の流域に沿うて南北の長さ凡そ五十六軒、東西の幅は南部に狭く北部に廣く、最大五十八軒に達し、面積約二千二百二十五平方軒を占め、兵庫縣に屬す。

但馬國は所謂中國山脈に屬する山嶽重疊して殆んど國の全部を占め、平地は僅かに大河の沿岸若しくは河口附近少許の地に過ぎず。而して此れ等の山嶽は一定の律をなして整然たる山脈を形成せるものなく、何れも雜然として群起し、溪谷亦不規則に其の間を貫き、所謂山地たるの形相を呈せり。然れども又所々に隆起帶の山脈狀をなせる所なきにあらず。概して南方に高峻なるもの多く、北方に至るに従ひ次第に少しく低くなり、河流は遂に何れも北走して日本海に入れり。今此の雜然たる山嶽を記述するに當り、朝來川圓山川以東、朝來川圓山川と矢田川との間及び矢田川以西の諸部に分つ。

朝來川・圓山川・以東の山嶽・中圓山川と磯邊川との間にあるものは、國境にあるもの最も高く、此の二川に臨む所は次第に低くなる。即ち但播の界には、

白岩山千〇十三米の高さに聳え、其の西方に藤の棚峠、東方には黒尾峠の二山路を通ず。又但馬播磨丹波の界には三國山(八百二十米)あり。其の北方には、但馬丹波の界と粟鹿嶽九百二十六米、小倉山(五百八十米)、二國山(五百〇四米)等の諸峯連亘し、其の間二三の山路ありて、以て二國の交通を保つは、已に丹波の部に於て記述せり。其の他粟鹿嶽の西南には、播磨市川の上流なる黒川の水源地に、權現山(八百三十二米)あり。又四山川の岸に沿うては白岩山(五百二十米)、鷹巢峯(八百米)、愛宕山(七百六十四米)及び金梨山(四百五十八米)等あり。以上の諸峯は概ね花崗岩蛇紋岩閃綠岩等の古期の噴出岩若くは流紋岩等より成り、何れも險峻なり。

次にイソベ川以北を見るに、但馬丹波の界には玄武岩より成れる小火山田倉山あり。又出石郡の東部即ち出石川の上流地方には、花崗岩閃綠岩蛇紋岩變朽富士岩等の噴出起り、群嶽撥起して一帯の山地をなし、特立せる秀峯を存せず。されど其中東床尾山(八百三十三米)及び但馬丹波の界なる江笠山(七百二十五米)を稍著はれたる者とす(丹波丹後の條參照)。此の山塊の西方出石川四山

川に挟まれたる地方に於ける山嶽は、重もに流紋岩變朽富士岩花崗岩若しくは第三紀層等より成り、出石養父二郡の界にある西床尾山(七百二十五米)光明山(六百米)、上山(六百八十三米)等稍高く、其の他四山川岸に神明山(三百〇九米)、淺間山(四百四十二米)、出石川岸に八幡山(二百三十一米)等あり。

出石川以北に於ては平均の高距四百米内外なる連嶺東南より西北に走りて、但馬丹波の界をなし、且つ久美濱灣(丹後に注ぐ諸川と朝來川に屬する諸流との分水嶺をなせり。此の連嶺は花崗岩其の南部を作り、第三紀層は北部を成し、所々に變朽富士岩の露出ありて著るしき秀峯なく、數條の山路によりて横斷せらるゝは已に丹後の條に於て記述せるが如し。此の連嶺に屬するものにして、豊岡町の東南にある但馬富士(二百米)は稍著るしく、其の東方には御嶽尾山及び燈明峯あり。

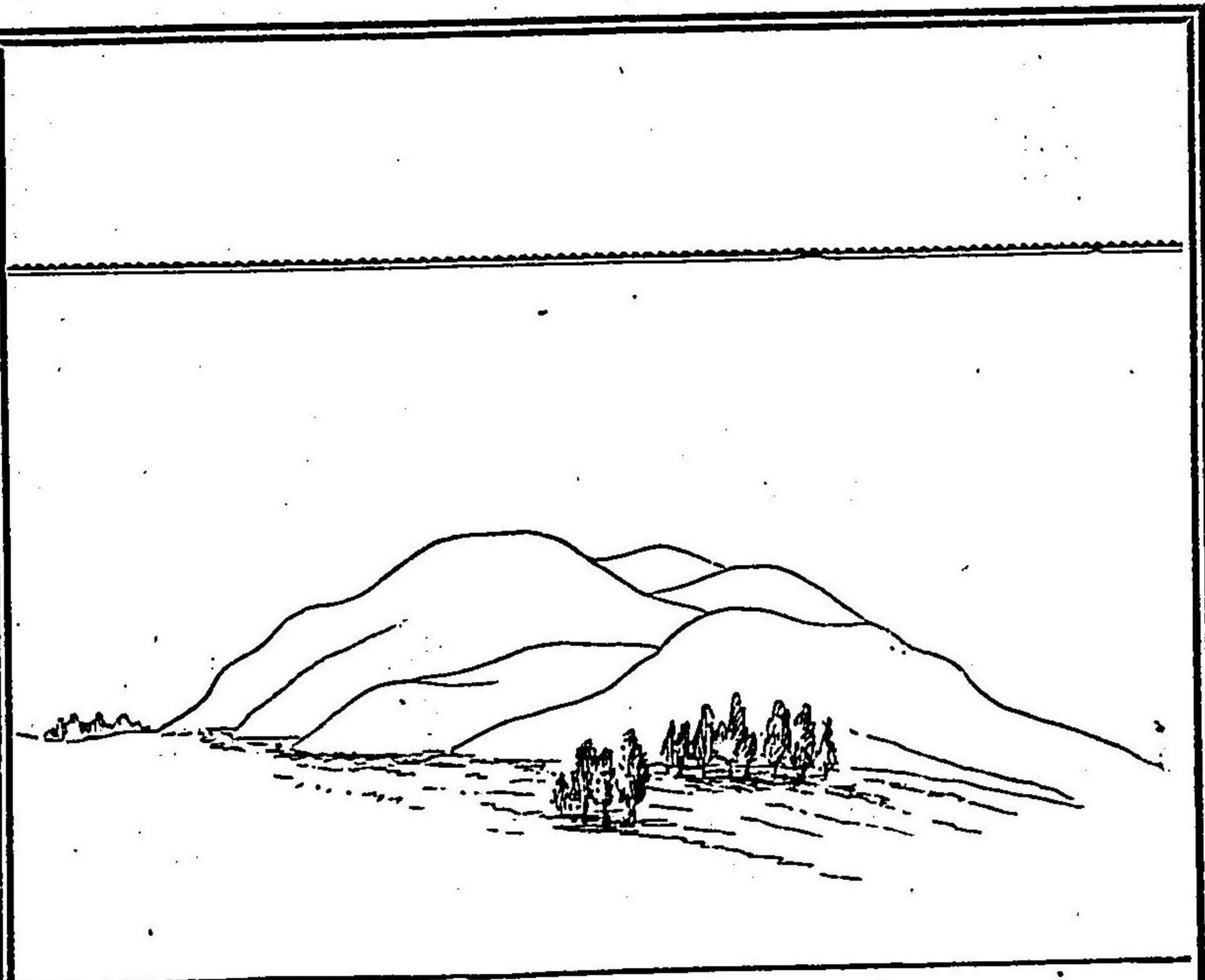
朝來川(四山川)以西、矢田川の東方に於て但馬播磨の界に連亘すものは即ち山陰山陽分水嶺の一部にして千米以上の秀峯を有し、其の高所を構成するものは、閃綠岩流紋岩等にして根底を作れる古生層中生層は溪谷に沿うて

朝來川矢田川間の山嶽

廣く露出せり。其の著るしき高峯は、但播因の界にある三國山(千米)佐治見山(量見山七百八十三米)空山(八百八十米)千疊ヶ峯(千二百五十九米)等とす。尙ほ此の主要分水嶺より分岐して廣谷川と圓山川との間に蹠踞せるものには、空山の北方に高岩峯(千〇三米)須留ヶ峯(千百〇三米)御稜山、圓山川岸に高山大路山(六百八十米)川尻山(六百八十米)等あり。

圓山川の支流なる廣谷川八木川間に於て略、西より東に走る一條の隆起帶は蛇紋岩流紋岩玄武岩等より成り、但因の界なる菅野山(千六百五十米)に起り、天瀧山(向山六百八十二米)琴引山(三百二十二米)等あり。

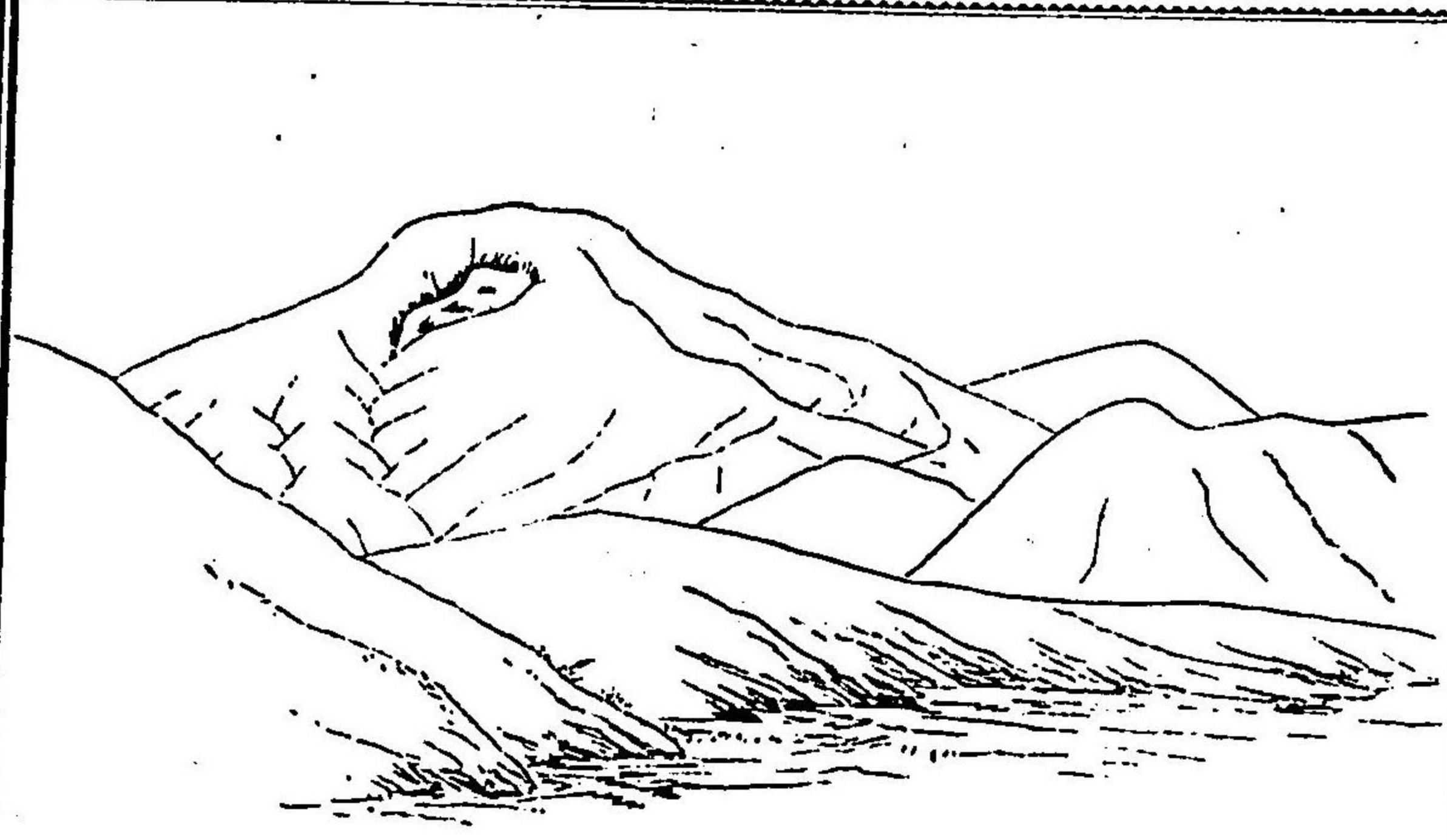
八木川の北方に於て矢田川の上流と其の支流なる小代川との間には、霞山(九百米)との間には一小噴火口址あり。又養父郡の北邊には第三紀層若しくは富士岩より成れる高無山(妙見山千二百十三米)荒神山(坂東山四百八十四米)笹尾山等あり。妙見山より北方には一脈南北に連亘して城崎美方二郡の界をなし、鉢伏山(馬脊山)蘇武瀧山(千〇五十五米)空山(方切山)白菅山(八百八十米)等を生ず。



(るよに書明説質地)圖の群山山鍋間馬但

是れ等は何れも第三紀層を貫ける流紋岩より成る。白菅山の北方には大辻山(八百八十四米)三河山(千米)等聳え、其の北方佐津川の沿岸地方には花崗岩の山地ありて、大文字山(神浦山)三百八十米其の北端にあり。又白菅山の東方には玄武岩より成れる間鍋山(五百六十餘米)及び大岡山(五百六十一米)の二小火山あり。間鍋山は圓顯形をなし、頂上に一火口あり、多少南北に長く直徑凡そ十米深さ二十米許、孔壁削れるが如く殆んど降るべからず。唯、南方の環壁缺くる所より僅かに出入するを得べし。此處は即ち熔岩の流出せし門口にして、山の尾長く南方に延び、皺が野に

矢田川・濱坂
川間の山嶽



(るよに審明説質地) 岡の山岡大馬但

連なるは蓋し之れが爲めなり。山の最高
點は火口の東壁に偏在し、此處に又一小
凹地あり、恰かも酒池の狀をなし、此處
より東北の山腹に又同形の凹地三あり、
東南より西北に連なる。何れも小噴火口
の跡なりとす。大岡山も亦略、間鍋山と相
類似せる外形を有し、頂上に近き所には
西南に向つて開口せる噴火口址あり。
此れ等火山より東北北の方には、流紋
岩より成れる諸山相連なりて朝來川・竹野
川間の分水嶺をなし、其の中に矢次山(六
百四十米)來日嶽(六百二十二米)等あり。
矢田川以西に於て矢田川・濱坂川間には
略、南北に走れる分水嶺あり。其の南部は

濱坂川以西の
山嶽

平野

重もに第三紀層及びこれを貫ける火山岩より成り、北部は花崗岩及び流紋岩
等より成る。其の南端は佛頂山(千三百米)に始まり、大明神山大照山等に連な
り、更に北して山王山(四百四十八米)燒尾山九斗山(六百六十八米)連臺山・桃江築
山等となり、連臺山の東方には弘法山あり。

濱坂川以西に於ける山嶽は第三紀層富士岩及び花崗岩等より成り、南方に
於て但、因の界に扇の山(千三百七十八米)鳥が山等の秀峯あり。扇の山の東方に
は新小屋嶺(千〇二十八米)あり、これ北方濱坂川の流域より南方加露川の支流
なる若櫻川岸の若櫻に出づる山路とす。鳥が山の北には牛が峯あり。其の北
方は大に陵夷して、此處に濱坂川沿岸の湯本より因幡の鳥取に至る蒲生峠(三
百四十七米)を通ず。此の峠の北方は再び隆起して、但因の界なる二つ山(八百
四十米)濱坂川岸の空山(五百七十七米)佛教山等となり、遂に海岸なる日和山(妙見
山)に盡く。

國內山嶽に富みて平野と稱すべきもの殆んどなし。豊岡町附近にあるもの
は、朝來川出石川の岸に沿ひ、國內に於て最大なる平野なれども、僅かに東

水系

朝來川

西の幅二乃至四軒、川に沿うて南北の長さ十軒餘に過ぎず。其の他竹野川、矢田川、濱阪川等の河口に於ける小平地は何れも特に記するに足らず。國の地勢概して南に隆く北に低きを以て、河流は概ね南北の方向を取り悉く日本海に朝せり。其の主要なるものを朝來川、矢田川、濱阪川、竹野川及び佐津川等とす。

朝來川は上流を圓山川といふ。源を生野町の北方に發し北流して圓山を過ぎ、宇山口附近に於て西方但播の界邊より來る田路川、神見畑川の二流を容れ、之れより東北北に向ひ、多數の細流を合し竹田町を過ぎ、和田山町に至りて、東南の方權現山、粟鹿嶽等より發する磯邊川を併す。之れより川は幅稍廣く、兩岸亦開けて、些少の平地を作り、西北に折れ養父市場を過ぎて後國の西境より來る廣谷川及び八木川を合す。廣谷川は但播、因三國の界なる三國山附近に發源し、山巒群起せる間を紆回曲折して東方に流れ、大屋市場、廣谷等の諸邑を過ぎ、字、飯崎に於て圓山川に合す。長さ凡そ三十軒あり。八木川は但播の界に聳立せる氷山、菅野山等の東麓に發源し、略、廣瀬川と並行して東方に走る

矢田川

と約二十八軒、關の宮、八木、八鹿等を過ぎ、下網場に於て本流に會す。圓山川は之れより益、其の水量を増し、北方に向ひ幾多の彎曲をなし、江原町を過ぎてより兩岸の平地愈廣くなり、朝來川と稱せられ、豐岡町の南方三軒の所に於て一大支流出石川を合す。出石川は出石郡本部の諸溪流を合し、西流して出石町に出て、之れより西北に轉じて平野の間を流れ、水源より凡そ三十軒にして朝來川に入る。朝來川はこれより益、北に流れ、兩岸の平野愈廣く、字上山附近に至りて左右の巒巒再び逼り、川は遂に城崎町を過ぎ津居山灣に注ぐ。其の河口は多少フィヨルド状をなせり。河流の全長凡そ六十二軒、舟楫の便灌漑の利頗る大なり。朝來川の沿岸に於て豐岡町の北方約五軒の所に玄武洞と稱する一勝地あり。柱狀節理著るしく明かなる玄武岩の洞穴にして、其の洞穴は玄武岩の此の節理を利用し、石材として盛んに採取せしより生ぜるものなり。

矢田川は上流を村岡川といふ。美方郡の南隅にある霞山、高無山、妙見山等に發する諸溪流を合し、北流して村岡町を過ぎ、宇川會に於て小代川を容れ、

濱阪川

矢田川と稱せられ、益北流し、更に東北に轉じ、三河山の西麓を過ぎ、再び北に向ひ香住灣に盡く。長さ凡そ二十五籽、其の過ぐる所は殆んど全く山岳重疊の地にして水流は迂回曲折して奔放し、兩岸絶壁險阻の地多く人烟甚だ稀疎なり。唯、其の河口附近には些少の平地を開き、香住の名邑其の東岸にあり。

竹野川

濱阪川は上流を細谷川といふ。源を但因の界なる佛頂山扇山附近に發し、北流して千谷に至り東北に轉じ、字八口市に於て東北より來る支流春木川を合し、岸田川と稱せられ、再び北に折れ濱阪町の東隣を過ぎて海に入る。下流を濱阪川と稱す。長さ凡そ二十六籽、沿岸山岳廻りて平地なく、唯、末流數籽の所兩岸少しく開けたるのみ。

竹野川は氣多郡大岡山及び水山嶺附近に發して北流する二溪流が美方郡森本に於て相合し成れるものにして、之れより益北し、森村を過ぎ、字竹野に於て海に入る。長さ凡そ二十籽、森村以下は兩岸少しく開け多少の平地を存せり。佐津川は三河山より發し、東北流して字華人を過ぎ、字訓谷に於て海

海岸

に入る一小流なり。

但馬國の沿岸は一般に山嶽急に海に没して斷崖をなせる所多く、平沙の地は僅かに河口の附近少許の地のみ。岬角灣澳の小出入亦繁けれども良港少なく、津居山港香住港濱阪港等僅かに船舶の碇泊に稍便なるあるのみ。沿岸の島嶼亦其の數甚だ多けれども、何れも叢爾たる小岩礁にして、特に記すべきものなし。其の中津居山灣内にある津居山島は、稍大にして、往時は本土と連続せしものなれども、疏水によりて離れたるものなり。此の水道を今切と稱す。

志摩國

總説

志摩は伊勢の東南端に連なれる小國にして、東南北の三方は海を繞らし、西は全く伊勢に接す。東西の幅凡そ十五籽、南北の長さは廿八籽に達し、面積凡そ三百七十平方籽を占め、伊勢國に比して、僅かに其の九分の一に過ぎず。全部三重縣の所管たり。

山嶽

志摩の地たる、其の全部紀伊山脈に屬し、山岳丘陵多くして平地甚だ少なく、海岸は著るしく出入凹凸に富み、沿岸にも島嶼甚だ多し。此の山脈の紀伊にある部分に於ては、多少整然たる山脈をなせる所なきにあらざれども、本國內に屬するものは、何れも不規則に排列して、山地たるの形相を呈せり。而して國の西邊に於ては最も高く、五百米内外の高距を有すれども、其の他の部分にては概して低き丘陵たるに過ぎず。殊に其南半部は、俗に先島と稱し、地勢低平にして漸く蟻垤の如き凸起あるに過ぎず、北半部と全く其の有様を異にす。此等の山嶽中最も高さものを伊勢との界にある朝熊山とす。高さ六百餘米、古生層及び蛇紋岩等より成り、山體の大部は伊勢に屬す。頂上に金剛證寺あり。眺望最も開豁にして、近くは志摩伊勢、遠くは尾三遠諸州の巒峯を望み、又天氣晴朗の日は遙に富士の秀峯を認むべし。朝熊山の南方は大に低くなり、三百米内外の島路山・神路山等となる。神路山の山腹には逢阪越あり、下の郷より伊勢山田に通ずる山路にして、其の南方の山腹には瀧祭窟と稱する石灰岩洞窟あり。其の他青峯山・淺間山は略國の中央部にありて、

水系

高さ二百米以上に達し、又南方御座港に臨みて、同じく淺間山と稱する一小丘あり。日和山は鳥羽町の北隅に在りて高さは僅かに五十餘米に過ぎざるも、景色甚だ佳なるを以て其の名著はる。志摩國は地域狭小なるを以て、従つて河川の特に記すべきものなく、何れも潺々たる細流に過ぎず。其の中加茂川は青峰山の麓に發源し、北流して松尾船津等の諸邑を過ぎて後海に入り、神路川は伊勢國神路山の麓に發して東南に流れ、下の郷に於て海に注ぐ。何れも長さは十料に達せず。

海岸は極めて出入に富み、此等は概ね地層の層向に沿ひて生ぜるものを常とすれども、又斜に變入せるものもなきにあらず。灣の主要なるものは、北に鳥羽港あり、東に的矢港、南に御座港あり。此の中鳥羽港は水深くして泊船の便最も宜しく、遠州洋・紀州洋を航行する船舶の寄港するもの多し。又岬角の著るしきものには、御座港の口をなす御座岬、志摩の最南端たる麥崎、東南端なる大王崎、的矢港口を扼する安乘崎・音崎及び其の北にある鐵崎等なり。(海岸の望照)

海岸

島嶼

志摩の沿岸には、島嶼甚だ多く此等は何れも本土と其の成因を等しうせるものにして、伊勢海口に散列せる諸島の如きは、渥美半島三河の丘陵と共に、紀伊山脈と赤石山脈とを連絡する鎖輪と見るべきものなり。其の著るしきものは伊勢海口にある阪手島答志島菅島犬築海島神島等なり。此の中答志島最も大にして鳥羽港の東北數軒の所に横はり、西南西より北東に長く、其の最高點は西南隅に在りて百六十餘米に達し、島に答志桃取等の諸邑あり。菅島は其の南方にありて東西に長く、答志島に比して稍小なり。阪手島は菅島の西、鳥羽港口にあり。神島は群島中の最東に在りて高さ百五十一米、三河の伊良湖岬を距る八軒餘、四近波荒く船舶を寄するに甚だ難しといふ。

伊賀國

伊賀國 總説

伊賀は近江の南に位し、東は伊勢國に、西は山城及大和に、南方は伊勢及び大和に接し、毫も海岸を有せず。地域甚だ狭く、南北の長さ三十五軒、東西の幅廣き所凡そ二十六軒、面積約七百七十餘平方軒にして、伊勢國の四分

國の四境にある笠置山脈

の一翳に過ぎず。三重縣の所管たり。

國の地勢概して四境に隆く内に向つて次第に降下せるを見る。即ち國の西境には笠置山脈に屬する諸山嶽略南北に駢列し、東境には鈴鹿山脈東北北より西南南に連亘して、數多の高嶽低巒重疊起伏し、又國の南部に於ては、火山岩の噴出ありて、二三の秀峯を生じ、北隅には著るしき山岳なく、概ね低き丘陵地たるに過ぎず。而して國の内方に向つては漸次に低夷して平地をなし、所謂伊賀盆地を作る。従つて國内の河流は概ね四方の高地より求心的に上野附近に集まり、柘植川服部川長田川等となり、遂に相合して伊賀川となり、笠置山脈を貫き西走山城國に入る。此の外又國の南部に於ける諸水を集め、笠置山脈の東縁を東南より西北に流れ、遂に伊賀川に合する名張川あり。國の西境に於ける諸山嶽は、即ち笠置山脈に屬するものにして、概ね花崗岩及び片麻岩より成れども、又所々に第三紀層にて蔽はるゝ所あり。山勢概して峻峻ならず、其の海拔高距も六百米内外に過ぎずして、最高峯と雖ども僅かに八百二十米に達せるのみ。而して伊賀川以北に於ては山嶽は東北より

國の東境にある鈴鹿山脈

西南に連なり、以南に於ては略北より南に亘れり。其の北に屬するものは近江横田川畔の飯道寺山(七百二十九米)より延び、國の西北隅に於て龍王山(五百〇八米)となり、其の南方には五位の木嶺梅嶺を隔て、笹ヶ森(八百二十一米)及び高島山(七百〇六米)の二秀峯あり。高島山の東方には一嶺長く延びて伊賀川(或は柘植川の北岸に沿ひ、佐那具の北方に至り、又西南には御齋嶺(五百七十三米)を隔て、伊賀近江山城の界に三國嶽(五百八十二米)あり。三國嶽の南方は次第に低くなりて伊賀川の溪谷となり、其の南方は稍隆起し海拔四百米内外の丘陵となり、更に南に進みて名張川の西南に至れば五百乃至六百米の連峯となり、高塚山(五百七十八米)最も高く、名張の西方には名張より大和奈良に通ずる笠間嶺(四百七十六米)あり。

國の東境に連亘して鈴鹿山脈に屬する諸山嶽も、亦片麻岩花崗岩等より成り、遠く近江伊勢の境をなせる山脈に連續するものにして、東北北より西南南に走り、笠置山脈のものに比して稍高峻あり。其の北端に於ては伊賀近江伊賀の境上に三國嶽(八百米)油日嶽(七百五十八米)等あり。これ即ち柚川(近江國

南部の山嶽

野洲川の支流柘植川伊賀國伊賀川の支流及び鈴鹿川(伊勢)の分水界をなすものにして、三國嶽の南に接しては箆山(七百二十米)あり。其の南は急に降下して鞍狀の低地を作り、此處に東方伊勢の龜山關等より伊賀上野に通ずる加太越(三百十八米)ありて、關西鐵道も亦加太越の南方一軒弱を距て、海拔約三百二十米の所に隧道を穿ちて通過せり。此の南方は再び著るしく隆起して、靈山寺山(八百九十九米)及び西教山(七百二十九米)となる。靈山寺山より山脈の主軸は一旦東南に折れ、長野嶺(四百一十一米)を経て後再び西南南に向ひ、笠取山(八百七十九米)及び布引山(八百二十一米)等を起し、之れより以南は七百米内外の連嶺にして、其間大嶺(五百二十三米)及び櫻嶺(六百五十四米)によりて横ざられ、兩者の間に鹽見嶽(七百米)及び鬚嶽(八百三十二米)あり。

國の南部にある諸山嶽は基盤をなせる片麻岩花崗岩と之れを貫きて噴出せる火山岩とより成り、尼ヶ嶽(九百九十八米)及び伊賀大和伊勢の界にある三國嶽(八百米)に於て最も高く、三國嶽の西麓にある中山嶺に於ては六百五十二米にして河内川(名張川)上流以西に於ても五六百米の高距を有するに過ぎず。河

北部の山嶽

内川の西、瀧川村長阪に、赤目四十八瀧あり。

國の北部柘植川以北にある丘陵は、第三紀層の砂岩泥板岩及び礫岩等より成り、極めて緩慢にして低く、何れも海拔二百米内外の高距を有するのみ。

西南部の山嶽

國の西南部名張川と長田川伊賀川支流との間に於ける丘陵は笠置山脈及び鈴鹿山脈に屬する山嶽の餘波にして、片麻岩花崗岩の外に第三紀層稍廣く發達し、概して東南に於て高く、(五百米内外西北に至るに従ひ次第に低くなり(三百米内外)一般に北境に於けるものよりも、高距大に勝れたるを見る。又伊賀川の上流なる柘植川服部川長田川等の間に起伏せる丘巒は鈴鹿山脈に屬する諸山嶽の次第に低夷して上野盆地に臨めるものにして、東に高く、西方に至るに従ひ次第に低下せり。

平原

上野四近の平地は以上記述したる諸山嶽によりて圍まれたる地方にして、略國の中央に位し、伊賀川及び其の支流なる柘植川服部川長田川等の岸に沿ひ發達して、不規則なる形狀をなし、面積約六十平方千米を占む。第四紀層及び第三紀層より成り、海拔の高距は百二十乃至百六十米にして、上野町は略

水系

其の中央の低き臺地にあり。その他佐那具は柘植川に沿ひ、平田は服部川の岸、西教山の西麓に、阿保は南方長田川の左岸に其の位置を占め、此の外名張町の四近には名張川及び宇陀川の西岸に沿ひ一小平地あり。第四紀層より成り、面積約十四平方千米にして、其の海拔高距は百八十米内外なり。

國內河流の主なるものは、伊賀川及び名張川にして、伊賀川は國の北部及び東部の諸水を集めて西流し、名張川は西南隅の細流を合し西北に流れ、大和に入り、遂に山城に至り、伊賀川に合するものなり。

伊賀川

伊賀川は其の上流柘植川服部川及び長田川に分る。柘植川は源を國の東北隅にある油日嶽三國嶽嶽山等の麓に發し、上柘植町を過ぎて西南に流れ、佐那具の東一杆に於て、北方の丘陵地及び國の西北隅なる龍王山五位の木嶽梅嶺等より發する諸細流を合して南流する川合川を容れ、益西南に流れ、東村附近に於て服部川に合す。服部川は國の東境にある笠取山の北方にある長野嶺附近に發し、始め西南に流れて廣瀬に至り、之れより西北西に轉じ、平田に至り、兩岸大に開け廣き平地を作る。平田を過ぎて後約四千米にして、兩岸

服部川

上野川

長田川

名張川

の丘陵少しく逼れども、忽ちにして又廣漠たる平地に出て、上野町の北方を過ぎ、遂に栢植川に合す。長さ凡そ二十餘軒とす。栢植川は服部川を容れて後上野川と稱せられ、西南に流ること一軒半にして、南方より來る長田川を合す。長田川は布引山の西麓に發源し、始め西南に流れて阿保町に至り、此處に於て南方尼ヶ嶽附近より來る一流を合し、これより急に西北々に轉じ、兩岸大に開け、上野町の西を過ぎ、上野川に合す。其の長さ凡そ二十五軒あり。以上諸流の相合して後川は伊賀川と稱せられ、西流すれば兩岸の丘陵又次第に逼り、島ヶ原を過ぎて後は、愈甚だしく、國內を流ること約七軒にして、遂に山城に入り、笠置山脈を横斷する木津川となる。

名張川は又梁瀬川ともいふ。其の上流長瀬川及び河内川の二に分る。何れも大和國宇陀郡の東部なる山中に發源し、北流して各三國嶽の東西麓を擁し、遂に本國內に入り、西北に流れ、夏見附近に於て遂に相合し、名張附近の平地に出て、西に轉じ、名張町の西南隅に於て、西南大和宇陀郡の西北部より流れ來る宇陀川を合す。之れより數多の屈曲をなして北に向ひ、遂に大和に

伊勢國

總説

伊勢國

入り、又大和伊賀の境をなし、再び西北に轉じて大和に入り、又北に折れて山城に入り、伊賀川に合し、木津川となる。河流の全長凡そ四十餘軒。其の中國内に屬するもの約十七軒にして、伊賀大和の國境を流ること約四軒なり。

伊勢は本卷地誌區域の東部に位し、東は伊勢海及び志摩國に接し、西は近江伊賀大和に連なり、南は紀伊及び熊野灘に臨み、北は美濃尾張國と界す。地形南北に細長にして、其長さ百十二軒に達し、東西の幅は北方は狭けれども、南方に至るに従ひ次第に廣く、十四乃至六十軒を有し、面積約三千四百四十平方軒を占め、三重縣に屬す。

國の北隅に於ては養老山脈西北より東南に走り、以て勢濃國境の一部分をなし、又國の西部近江伊賀伊勢と界を接する地方に於ては鈴鹿山脈東北より西南南に連亘し、又國の南部に於ては紀伊山脈に屬する諸山脈西南西より

東北東に相並行して蜿蜒せり。而して此等主山脈よりは數多の支脈分岐して國の中部に於ける諸山嶽となり、東方に赴くに從ひ次第に陵夷して低き山嶽となり、遂に平原に盡く。此の平原は伊勢海に濱して南北に細長き彎形をなし、其北端に於て遠く尾濃の平原に連續せり。地勢已に斯くの如きを以て、國內河流の方向も亦之れに應じて概ね西より東に流れ、遂に伊勢海に朝するを常とせり。

養老山脈は美濃關ヶ原の南に起り、笹ヶ嶽養老山多藝山等を経て後、勢濃の界に至るものにして、西北より東南に連亘し、主として古生層の諸岩より成り(第三卷百八十七頁参照)、山頂概ね著るしき突起なく、其の北部美濃に屬する部分には、高距八百万乃至千米の秀峯を有すれども、本國の境にあるものは大に低く、多少の高距を有するものに裏山(六百餘米)及び山脈の南端なる多度山(四百二十米)あり。養老山脈の西南側は次第に低くなりて、第三紀層より成れる丘陵地となり、遂に町屋川沿岸の低地に臨み、以て鈴鹿山脈と相隔つ。鈴鹿山脈は美濃關ヶ原、近江柏原の南方に起り、濃江二國の境にある靈仙

山嶽
養老山脈

山ト佛山等を経、近江伊賀大和と伊勢との境上に於て東北北より西南南に連亘するものにして、伊勢海と琵琶湖大阪灣との分水界をなし、其の南端は紀伊山系と相接す。此の山脈は其の北部加太越鈴鹿川の源頭にして、伊勢國關と伊賀國上栢植との間の山路以北にありては、主に古生層及び之れを貫きて噴出せる花崗岩より成り、其の山麓に於ては第三紀層此等を蔽ひて低き丘陵地を作り、南方加太越以南伊賀大和と伊勢との間に於ては重もに花崗岩片麻岩より成り、火山岩之れを貫きて噴出し、第三紀層亦諸所に之れを蔽へるを見る。今此の山脈に屬する諸山嶽を北より次第に列擧すべし。

國の西北隅勢濃江の境上には三國嶽(八百餘米)及び烏帽子山(八百九十三米)あり。揖斐川(美濃)の上流なる多良川は川は之れより北に流れ、町屋川は東南に走る。此等の南方には町屋川の沿岸地方より近江彦根方面に至る大君ヶ畑嶽(七百六十九米)を経て、御池ヶ嶽及び藤原ヶ嶽(千四百四十二米)等あり。其の南には治田越(七百四十一米)を隔て、龍ヶ嶽(千八百八十二米)編笠嶽(千米)等の秀峯あり。何れも花崗岩より成り、編笠嶽の東麓には、福王山(五百六十四米)の小丘あり、

南麓には八風越（三百八十五米）を通ず。之れより以南には尙ほ花崗岩より成れる山嶽相連なり、千草越（七百七十二米）の北には釋迦ヶ嶽（千百〇五米）、水晶嶽（千百二十米）等を起し、南には御在所山（千百五十二米）、千草山（鎌ヶ嶽千二百五十四米）等の高峯聳立し、其の山中に鶯の湯湯の山等の温泉場あり。鎌ヶ嶽の南麓にある水澤嶺（六百餘米）以南に於ては、山脈は西南に向つて走り、多少高峻の度を減ぜり。入道ヶ嶽（九百八十一米）は水澤嶺の南に起り、仙ヶ嶽（千〇九十三米）、鶏足山（九百四十一米）は其の西南に聳ゆ。是等の南方は山勢大に低くなり、鈴鹿川支流の安樂川溪谷より近江土山町に至る安樂越（四百八十三米）を通じ、其の南方は稍隆起すと雖ども、三見山（七百米）、白木山（六百九十六米）、南引山（四百六十二米）に於て僅かに六七百米を保てるに過ぎず。三見山の西南麓には鈴鹿嶺（三百七十三米）あり。これ即ち鈴鹿川沿岸の龜山、關等より近江横田川畔にある土山、水口等に通ずるものにして伊勢近江二國の連絡に甚だ重要なものとす。此の嶺の西南には高島山（八百五十一米）を起し、次て伊勢近江伊賀の界なる三國嶽（八百米）及び其の南に接せる箆山（七百二十米）となり、遂に加太越

（三百十八米）に盡く。加太越は鈴鹿山脈の主脈中最も低き山路にして、伊勢鈴鹿川沿岸地方と伊賀柘植川地方近江柳川地方とを連絡するに最も重要なものにして、伊勢方面と伊賀、近江地方との間の主要なる交通路たる鐵道も、其の南方一軒弱の所高距（三百二十米）を通過す。加太越以南の鈴鹿山脈は多くは片麻岩花崗岩より成り鈴鹿川の水源地に靈山寺山（八百九十九米）、其の東方に錫杖ヶ嶽（七百六十八米）等を起し、錫杖ヶ嶽の南方には塔世川上流の溪谷を隔て、經ヶ嶽（八百五十一米）の高峯を生じ、其の西南麓には長野嶺（四百一十一米）を通ず。これ即ち伊勢北辰野より伊賀の平田地方に至る峠にして、雲出川の支流なる長野川と伊賀川の支流なる服部川との分水界をなす。之れより以南は山脈西南南に至り、笠取山（八百七十九米）、布引山（八百二十一米）等となり、大嶺（五百二十三米）を経て後は埴見嶽（七百米）、巖嶽（八百三十二米）を生じ、櫻嶺に至りて六百五十四米に低夷す。

櫻嶺の南方には伊勢伊賀大和の地に亘りて火山岩噴出し、尼ヶ嶽（九百九十八米）、三國嶽（八百米）、大洞山（千〇五十二米）等の秀峯を起せり。大洞山の南方には

八手俣川の溪谷を隔て、能樂堂山(千〇廿四米)三畝山(千五百四十四米)等の峻嶽相連なり、大和國吉野川の北方を東西に走る三畝山脈の東縁をなせり。能樂堂山より是一支脈東北に分岐して、雲出川と其の支流なる中村川との間に蜿蜒し、飼阪嶺五百〇四米、白口嶽五百〇五米、矢頭山七百二十四米等を生じ、之れより東北に至りては次第に低くなり、遂に第三紀層より成る二百米内外の丘陵地となる。中村川の南方櫛田川の北方にも、亦三畝山より東北東に走れる一山脈あり。三畝山の東方、櫛田川の北岸には、障子嶽(千三百米)局嶽(千〇四十四米)等を起し、其の東北には概阪嶺四百餘米を経て後白猪山(七百九十一米)堀阪山(七百六十八米)等を生じ、遂に鉢峯(四百四十米)袖岡山(三百二十八米)等の丘陵となる。

以上記述したる鈴鹿山脈に屬する諸山嶽の東方は、次第に低くなりて丘陵状をなし、其の縁邊に於ては第三紀層及び第四紀古層發達し、極めて低く且つ緩慢なる丘陵となる。此の丘陵地中に於て町屋川と朝明川との間にあるものは第三紀新層及び第四紀古層より成り、數多の小池沼を有せり。又三畝川

紀伊山系に屬する山嶽

と鈴鹿川との間にあるものは第三紀層より成り、其の海拔高距は百米内外にして、其周縁の平野に臨む所は多少急傾斜をなし、頂上扁平にして廣く、寧ろ臺地形をなし、殊に石薬師町の西方に於て著るしく卑濕不毛の草原を生じ、能養野及び廣瀬野の稱あり。又廣瀬野の西北、入道嶽の東南麓にも鞠ヶ野と稱する荒野あり。鈴鹿川の南方塔世川の北方にも第三紀層より成りて、海拔高距八十米内外に過ぎざる臺地あり。中の川志登茂川等其の間を流れ、塔世川と雲出川との間には笠取山、布引山等の東麓を蔽へる第三紀層の丘陵稍廣く發達せり。雲出川の支流中村川以南にありては鈴鹿山脈に屬する山嶽次第に陵夷して二百米内外の丘陵となり、直ちに海岸の平野に臨み、北部に於て見

るが如き臺地状をなせる所甚だ少なし。

國の南部にある山嶽は紀伊山脈に屬するものにして、西南西より東北東に連亘し、主として古生層に屬する諸岩より成る。此の山脈に屬するものには西方大和との界に池木屋山、白倉山、國見山等あり。何れも千二百乃至千三百米にして、國見山の南方には大臺ヶ原山(千六百八十五米)の高峯あり。池木屋山

よりは山脈東北東に延びて櫛田川宮川の間に蜿蜒し、古ヶ丸山迷ヶ塚大熊山等何れも千乃至千三百米の間に出入し、これより以東は大に低くなりて、六百米内外の高距を有する馬背状連嶺となり、宮川河畔なる上三瀬の北方にある三尾塚山に於ては、稍隆起して七百〇七米となると雖ども、其の東方は愈々低夷して三百米内外の丘陵となり、遂に海岸の平原に臨む。其の東端には國桑山(三百餘米)の小丘ありて、其の附近には五桂池其の他多くの小池沼あり。宮川の南方にも亦多くの山嶽丘巒重疊すれども、北方にある如き明瞭なる山脈をなさずして、寧ろ山地たるの觀を呈し、海拔高距も千米を超ゆるものなし。而して其の西方紀伊と界を接する地方には、桑の木嶺(七百十八米)檜原嶺(六百五十米)荷阪嶺(二百六十五米)等あり。檜原嶺の東北は稍隆起して龍登山(八百餘米)總門山(九百餘米)等を起し、阿曾野後附近に於て大に陵夷すと雖も、其の東方には又富山(八百米)白岩峯(八百五十八米)等を生ず。白岩峯よりは一脈南北に延亘し、其の南方海に濱する所に東宮山(六百餘米)あり。此の山脈の東方にも亦西南南の方榎柄浦附近に起り、東北北の方山田附近に至るまで蜿蜒せ

平原

る巒丘の連嶺ありて、中に龍仙山(四百餘米)三坪塚(六百餘米)鼓ヶ嶽(五百十米)等を有し、其の東方志摩との境上には神路山(三百餘米)島路山(三百餘米)朝熊山(六百米)等あり。

已に述べたるが如く、國の西部及び南北地方は山嶽重疊して地甚だ高峻なれども、東方に至るに従ひ、次第に陵夷して二百米内外の丘陵地となり、遂に平原に臨む。此の平原は伊勢海の西岸に沿ひ、彎形をなして南北に細長く延び、南は紀伊山系に屬する山嶽丘陵によりて限られ、北は木曾川を越えて遠く濃尾の平原に連なる。南北の長さは海岸に沿うて八十料に達し、幅は海岸より内地に向つて六料乃至十五料を有し、重もに第四紀層より成れども、又所々に第三紀層の露出せるあり。其の海拔高距は概ね四十米以下にして、西方は直ちに丘陵地に接し、或は此の平原と丘陵との間に第三紀新層より成りて海拔四十乃至八十米内外の高距を保てる臺地をなせること、四日市石薬師の西方に於て認むるが如き所あり。此の平原は西方鈴鹿山脈に發する諸流町屋川朝明川三嶽川鈴鹿川塔世川雲出川紀伊山中より流れ來る櫛田川宮川

水系

揖斐川

及び其の他の諸川によりて灌漑せられ、地勢最も平坦にして田園好く開け、國內主要なる都市亦多く此處に集る。即ち津市は略其の中央に位し、阿漕ヶ浦に臨みて塔世川の南岸に存し、其の他津市以北に於て桑名町は北方に偏在して揖斐河口に位し、四日市は三嶽川に跨りて霞ヶ浦に濱し、石薬師・莊野龜山關等は鈴鹿川の沿岸に、神戸・白子上野・一身田等は海岸に近く其の位置を占む。又津市の南方に於て松阪町は阪内川の沿岸に、相可町は櫛田川に跨りて稍内地に、其の他小俣山田は宮川に臨みて存せり。

國內の河川は概ね西方にある鈴鹿山脈若しくは西南にある紀伊山脈の諸山嶽に發し、西南西より東北東に流れ伊勢海に注ぐを常とす。唯國の北部にある諸川は同じく伊勢海に朝するものなれども、西北より東南に向ひ、又國の南阪に於ては南に向ひて流走する細流あり。今北方より此等の河流に就いて記述せん。

揖斐川は美濃より來り(第三卷美濃百九十八頁參照)國內を西北より東南に流ること僅かに十軒、桑名町を過ぎて海に入る。又木曾川及び其の末流鍋田川は勢尾

町屋川

朝明川

の境を東南に流ること十二軒にして海に入る。木曾川の支流加路戸川も約六軒許國內を流る。(第三卷尾張參照)

町屋川は又員辨川といふ。源を國の西北隅にある三國嶽烏帽子嶽等の東麓に發し、養老山脈と鈴鹿山脈との間に發達せる第三紀層の丘陵地を東南に流れ、此の二山脈より發する數多の小流を合し、遂に第四紀層の平地に出て、西方附近より東南東に轉じ、桑名町の西に出て、之れより再び東南に向ひ、桑名の南約四軒の所に於て海に入る。長さ凡そ三十八軒あり。

朝明川は釋迦嶽福王山等の麓に發し、始め數軒の間は丘巒起伏の地を東方に流れ、遂に平地に出て、後は略員辨川に並行し三四軒を隔て、東南東に向ふ。長さ凡そ貳十三軒、其の河口は員辨川河口の西南二軒にあり。

四日市に於て海に注げる三嶽川(十五軒)は源を御在所山鎌ヶ嶽の東麓に發して東南東に流れ、其の南にある内田川は水澤嶺に發源し、鎌ヶ嶽と入道ヶ嶽との界をなし、是れより東南に走りて低き臺地を貫き、石薬師の北方より東に折れ、旭村に至りて海に入る。長さ凡そ二十四軒。其の河口には北に向ひ

鈴鹿川

て突出せる砂嘴を有す。
鈴鹿川は源を加太越靈山寺山近傍に發し、東方に流れ、關龜山等の南を過ぎて稍廣き平地に出て、之れより東北東に轉じ、莊野石藥師の南を過ぎ、北五味塚の海岸に盡く。長さ凡そ三十六軒あり。

雲出川

雲出川は源を大洞山の麓に發し、片麻岩より成れる山地を東北に流れ、竹原附近に於て南方櫃阪嶺飼阪嶺附近より來る八手俣川を容れ、二本木の南を過ぎてよりは兩岸の丘陵益々低くなり、是れより東に轉じ、高野に於て平原に出で、こゝに西北の方經ヶ嶽笠取山の麓より發する長野川を合す。之れより川は益々東に走り、新家に於ては西南の方白口嶺に發し、髯山矢頭山の東麓を流れ來る中村川を併はせ、雲出野江の間を過ぎ、其の海に注ぐ所は二分して其の間に標式的の三角洲を抱く。北なる支流を雲出古川と稱し、南なるを雲

櫛田川

出川と云ふ。川の全長凡そ四十餘軒あり。

松阪町を過ぎて海に入る阪内川は白猪山近傍に發し、長さ十八軒あり。
櫛田川は源を伊勢大和の界なる池木屋山に發し、東北に流れて、迷ヶ塚大熊山の北麓を過ぎ、七日市に至り、之れより東北東に轉じ、群山重疊の間を紆回曲折して、宮の前大石等を過ぎ、其の東に於て一大彎曲をなし、之れより兩岸の巒嶽漸く低く、遂に相可町に至りて平野に出づ。相可の東北三軒の地に於て川は二つに分れ、本流は北に向ひ豊原を過ぎて松名瀬に至り、支流は東北東に流れ、北藤原に至り遂に何れも海に入る。本流の河口には長さ砂嘴西北西に突出せり。川の長さ凡そ六十餘軒あり。

宮川

宮川は伊勢大和の界にある大臺ヶ原山の東麓に發し、紀伊山系に屬する山嶽の間を東北に流れ、大熊山の南麓なる瀧谷に至り、之れより東北東に折れて龍登山總門山の北麓を繞り、紆餘曲折して三尾塚山の南麓を過ぎ、益々東方に走り國來山の南麓に出て、より、兩岸稍開け、之れより東北に向ひ平野の間を緩流して、山田町と小俣との間を貫き、檜原附近に於て海に入る。長さ

湖沼

凡そ八十軒。其の兩岸は直ちに山に逼りて支流の大なるものなく、河口には數多の小三角洲あり。
宮川以南の山嶽に發源し南流して外海に注ぐものには、特に記述すべき大河なし。

國內湖沼の大なるもの絶えてなし。されど員辨川朝明川の流域なる丘陵地方には、數多の小池沼ありて、何れも周圍一軒内外に過ぎず。其の他石薬師の西方なる廣瀬野能褒野地方、相可町の南方なる丘陵地方にも數多の小湖あれども、特に記すべきものなし。

海岸の形相は伊勢海に濱する地方と、外海に面せる所とにより大に差異あり。伊勢海に臨める海岸は甚だ低平にして、南北に亘れる凹灣をなし、其の間大河の河口によりて破らるゝの外著るしき出入なけれど、外海は志摩紀伊と共に著るしき小灣入に富むを見る。(後章海岸及び海岸線の陸巻照)

海岸

近江國

近江國

總説

近江國は本巻地誌區域の最北部にありて南は伊賀山城、西は山城丹波若狹、北は若狹越前、東は美濃伊勢等に圍まれ毫も海岸を有せず。土地南北に延び其の長さは九十軒に達し、東西の幅は五十五軒を有し、面積總べて千六百六十一平方軒餘、其の中七百四十平方軒は琵琶湖の占むる所とす。全部滋賀縣の所管なり。

國の地勢概して四方に山を背ひ、内に向ひ次第に低くなり、丘陵平地を生じ、遂に本邦第一の湖水琵琶湖を湛ふ。而して國の山嶽は、之れを分ちて笠置山脈・鈴鹿山脈・伊吹山脈・比叡山脈に屬するもの及び丹波山地の餘波に屬するものとなすを得べし。笠置山脈は國の南部を占めて野洲川以南、大津以東の諸山嶽を含み、鈴鹿山脈は國の東南部に於て伊勢美濃との國境に連なり、南は近江伊勢伊賀の界なる三國嶽より北は京神間鐵道の横斷する所に至るものにして、其の以北即ち國の東北境上にあるものは伊吹山脈に屬す。比叡山脈は琵琶湖の西岸南部に於て西南南より東北北に連り、又國の西北境上に蟠屈せる諸山嶽は丹波山地の餘波なりとす。今此れ等の諸山脈につきて更に詳記

笠置山脈

する所あるべし。

笠置山脈は大和伊賀山城及び近江等の諸國に跨り周圍の地が陥没せし爲めに生ぜし所謂地壘と稱すべきものにして、重に古生層花崗岩片麻岩等より成り、其の大部分は大和伊賀に在りて、本國內には僅かに其の一小部分を見るに過ぎず。今國內にあるものを見るに、其の南端は近江山城伊賀の界なる三國嶽五百八十米に起り、二脈に分れ、一は東北に至り近江伊賀の界をなして横田川の岸に至り、一は西北に連亘して近江山城を界す。而して之れ等の餘脈は延いて横田川勢多川間の山地をなし、大戸川此の間を貫流す。其の西北に走れるものは四五百米の高距を保ちて國境を劃し、宇治田原越禪定寺越等に於て大に低くなり、遂に勢多川によりて横斷せらる。之れより以北は再び隆起して五百米内外の連嶺となり、袴腰山牛尾山逢阪山等を起し、遂に追分驛に至りて盡き、其の北方なる比叡山脈と相對す。此の主脈より岐れて國內に蟠屈せる山嶽の著るしきものは、大戸川下流の南岸にある不動山(六百十四米)矢筈山(六百三十二米)笹間ヶ嶽(四百八十米)田上山(四百二十米)等とし、又勢多

鈴鹿山脈

川の右岸、琵琶湖畔に近く石山二百六十五米あり。山甚だ高からずと雖も山上に有名なる石山寺あるにより、其の名普ねく世に知らる。

三國嶽より東北に向ふものは前者よりも稍高く高島山(七百〇六米)笹ヶ嶽(八百二十一米)龍王山(五百〇八米)等ありて、之れ等の間に御齋峠(五百七十三米)梅峠五位の木峠等を通ず。龍王山より山脈は西北に延びて横田川及び大戸川の分水嶺をなし、飯道寺山(七百二十九米)阿星山(七百四十九米)鷄冠山(五百三十九米)等を隆起せるも、龍王山の東方は大に陵夷して第三紀層の低き丘陵となり、遂に鈴鹿山脈に及ぶ。

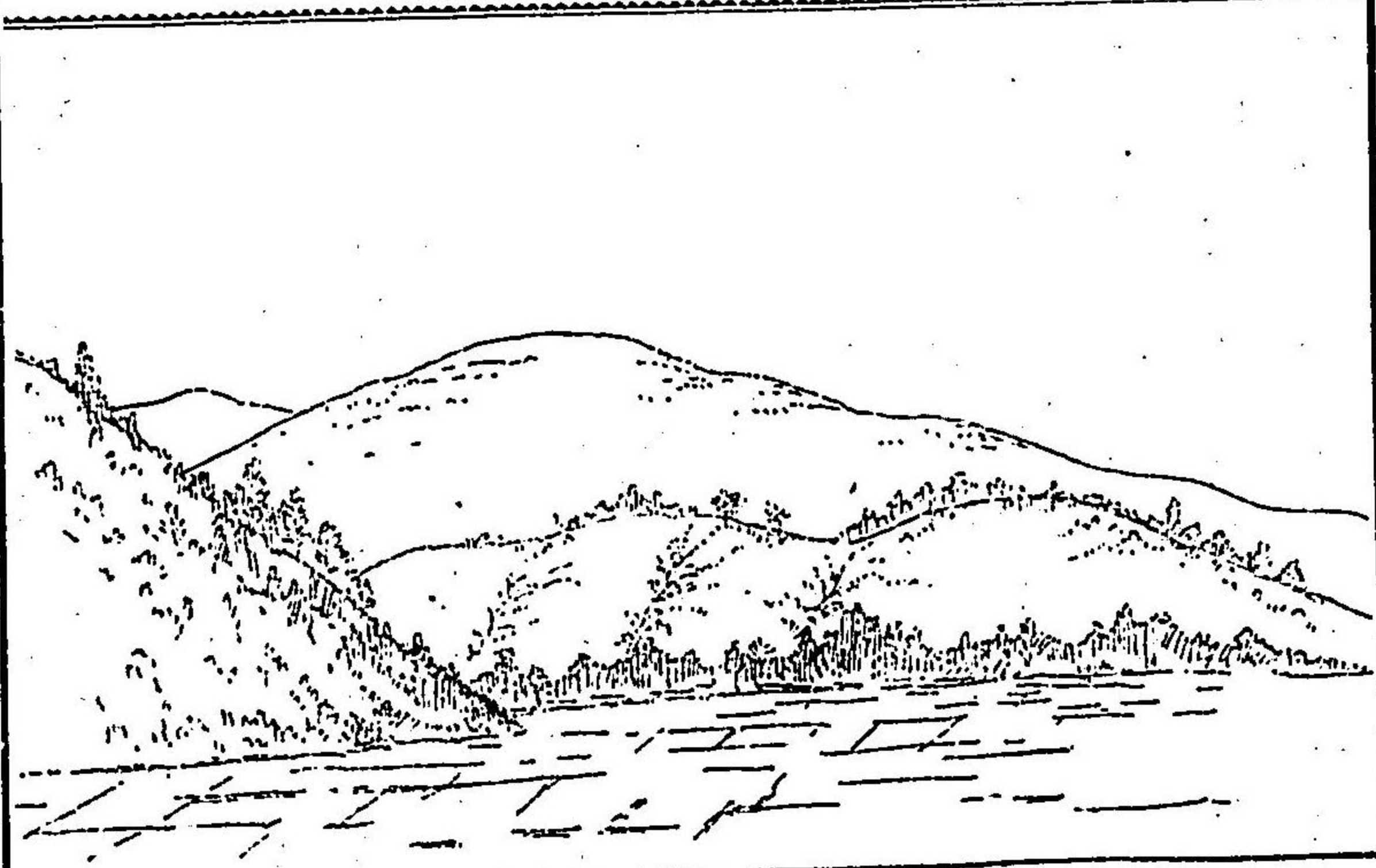
鈴鹿山脈は近江伊賀と伊勢との界に南北に連亘するものにして、主として古生層片麻岩及び花崗岩より成る。而して其の本國に屬するものは南方油日嶽(七百五十八米)及び近江伊賀伊勢の界なる三國嶽に起り、東北に走りて高島山(八百五十一米)仙ヶ嶽(千〇九十三米)鎌ヶ嶽(千二百五十四米)等を隆起し、之より北に連なり、釋迦ヶ嶽(千百〇五米)龍ヶ嶽(千八百八十二米)藤原ヶ嶽(千四百二十米)等を経て近江伊勢美濃の界なる三國ヶ嶽に至れる間は已に伊勢の部に於て

記述せるが如し。三國ヶ嶽以北は近江・美濃の界をなし、靈仙山リョウセンヤマ千百十五米に於て最も高く、其の北は次第に陵夷して低き丘陵となり、遂に鐵道の通ずる一狹隘地に盡き、之れより以北は伊吹山脈と稱せらる。

鈴鹿山脈の主脈より岐れて國內に重疊起伏せる山嶽を見るに、横田川・日野川間には東南より西北に走れる低き丘陵性の連嶺あり。重もに第三紀層より成れども其の西北部には花崗岩より成れる甲賀山四百五十二米、鏡山約四百米及び野洲川に臨みて古生層より成れる菩提寺山ハツツツツ三百六十七米、三上山ミノノ四百五十八米等あり。之れ等は寧ろ笠置山脈の連続と見るべきものなるべし。又御在所山より西方には雨乞嶽アメノイ千〇三米、綿向山ワタムカ千二百五十七米及び龍王山リウオウ九百〇五米等ありて、之れより以西は第三紀層の低き丘陵となる。龍平山の北方には玢岩より成れる日本コバニッポンコバ八百餘米及び高取山タカトリ六百六十八米あり。其の他鈴ヶ嶽千〇五十九米は三國嶽の南方に、鞍懸山アサケ七百七十七米、杉山スギ六百十九米は西方に、鍋尻山ナベシラ七百八十六米は西北にある高峯なり。

琵琶湖東岸に於ける日野川・犬上川間の平地には所々に玢岩より成れる山岳

伊吹山脈



醒ヶ井より伊吹山を望む

あり。其の高距は敢て大なるにあらざれど、急に隆起せるを以て頗る人目を惹くに足る。其の著るしきものは、日野川畔の雪野山ユキノ二百九十八米、八幡町の北に在る八幡山ハチマン三百餘米其の東方にある衣織山ウオリ五百〇五米及び宇曾川河口に近き荒神山アラカミ二百九十米等なり。琵琶湖中の奥島にある長命寺山ナゲノミヤ四百米も亦之れ等と成因を同じうせるものなり。

伊吹山脈は近江・美濃の界に於て東南南より西北に連亘するものにして、古生層中生層及び花崗岩・玢岩等より成り、平均の高距千米内外にし

比叡山脈

て、其の南端にある伊吹山千三百七十一米に於て最も高く、之れより北方に國見山・金鷲ヶ嶽・大尾山・横山ヶ嶽・土藏ヶ嶽及び近江美濃越前の界なる三國ヶ嶽等あり。其の他伊吹山の西南にある彌高山、伊部の北方にある小谷山(五百一十米)・巨高山(八百四十九米)等も稍著るしきものとす。

比叡山脈は琵琶湖の西岸にありて、西は高野川(山城)及び安曇川(近江)を其の界とし、南は追分驛附近に盡き、安曇川の東折する所に終る。山脈の方向は湖岸及び高野・安曇二川の方向と一致し、西南南より東北北に走り、其の南部は近江山城の界をなし、北部は全く本國內に屬す。所謂丹波山地の東縁をなすものにして、古生層及び之れを貫ける花崗岩によりて構成せらる。其の南部國境に聳ゆるものには大文字山(如意ヶ嶽)・比叡山大原山等あり(山城の條參照)。大原山以北は即ち國內に入り、比良山(千二百三十二米)・武奈ヶ嶽(千三百餘米)に於て最も高峻を極め、蛇谷ヶ峯(九百餘米)となり、遂に阿彌陀山(五百餘米)に終る。國の西北境上にある山嶽は即ち丹波山地の餘波と見做すべき者にして、本國と山城丹波若狹越前との界に蜿蜒起伏し、主として古生層より成れども其

平野

の北部近江若狹越前の境上には花崗岩の噴出あり。

今此の山嶽中著るしきものを擧ぐれば、西南部には近江山城丹波の界に三國嶽(千三百餘米)、近江若狹の界に木地山(九百米)あり。又石田川の北方には羽子建山(六百二十米)・武奈嶽(七百餘米)・大御影山(千〇十二米)・三十三間山(七百餘米)等あり。尙ほ其の東北越前と界を接する地方には三國嶽及び乗鞍ヶ嶽等八百米以上に聳え、又海津の東方には峯山(六百二十八米)と稱する一小峯湖に臨んで峙立せり。

以上記述せし諸山嶽は國の内方に向つて次第に陵夷し、遂に琵琶湖畔に於ける一大平野となる。此の平野は西岸に於ては、山脈湖に接して起れるを以て概して甚だ狭く、且つ卑濕の地多けれども安曇川下流沿岸に於ては稍廣く其の北に饗庭野、西に泰産寺野と稱する荒野あり。湖の東岸に於けるものは甚だ廣く幅は四乃至二十餘軒にして、野洲川・日野川・愛知川・宇會川・犬上川・天の川・姉川等の諸水此の間を流れて、農桑の業大に開け、鐵道は之れを南北に縦貫し、國內に於て主要なる都會長濱・彦根・八幡草津等は此の平野の中に在り。

水系

野洲川

日野川

國の地勢概して四方に隆きを以て國內の河流は概ね皆内方に向つて集中し、遂に何れも琵琶湖に注ぎ、湖水は其の南端膳所附近より溢れ、勢多川となり山城に入りて淀川となる。而して湖の東岸に注ぐものは野洲川日野川愛知川姉川等にして、西岸には安曇川あり。

野洲川は上流を横田川といふ。鈴鹿山脈中の水澤峠に發する松尾川及び鈴鹿峠附近に發する諸細流土山町の西方に於て相合して成れるものにして、低き丘陵間を西北西に流れて水口町を過ぎ、其の西方約三軒の地に於て東南の方近江伊賀伊勢の境なる三國嶽に發する杣川を合す。之れより川は西北に流れて琵琶湖岸の平地に出て、野洲町を過ぎ、末流二分して吉川なる一支流を北方に分派し、湖に注ぐ。長さ凡そ五十五軒あり。

日野川は源を蒲生郡の東境なる綿向山の麓に發す。始め西方に流れて日野町の南一軒許の地を過ぎり、之れより西北に轉じ、平野の間を流れて雪野山の南麓に出て、此所に東方龍玉山より發する佐久良川を合し、山の西麓を繞り、益西北流して十王町をすぎ、遂に湖に入る。長さ僅に三十五軒に過ぎず。

愛知川

姉川

安曇川

愛知川は鈴鹿山脈中の龍ヶ嶽釋迦ヶ嶽等の西麓に發する諸溪流の相合して成れるものにして、山巒重疊の間を迂回曲折して西方に走り、宇相谷近傍より丘陵地に出て、西北に折れ愛知川驛を過ぎ、流路凡そ四十餘軒にして宇栗見の濱に盡く。

愛知川の河口より湖岸に沿うて北に進めば、彦根に至る間に宇曾川犬上川等あり。彦根の北方には天の川あり。何れも長さ十數軒に過ぎざる小流あり。

姉川は源を江濃の界なる金糞ヶ嶽の麓に發し、花崗岩及び古生層等より成れる山地を南流して國見山伊吹山等の西麓を繞り、宇伊吹近傍より平野に出て、之れより西方に轉じ、宇大路に於て北方より來る草野川を容れ、更に西流すること約四軒にして北方近江越前の界なる柄木峠より發する一大支流タカトキ川を合し、西南に折れ、南濱に於て湖に入る。長さ凡そ三十軒に過ぎず。

安曇川は源を山城國神踏山の北麓に發し、東北流して直ちに近江國に入り、丹波山地の東縁比叡山脈の西麓に生ぜる一大裂線に沿うて東北北に流れ、數

勢多川

琵琶湖

多の細溪を合し、市場を過ぎ宇荒川に至り、俄に東南東に轉じて、湖岸の平地に出て、船木崎に至りて盡く。長さ凡そ四十餘軒あり。

勢多川は即ち琵琶湖水の排水路にして、橋本鳥居川の間より南流して、石山の東麓を過ぎ、黒津に於て東方より來る大戸川を容れ、榜腰山の東南麓を繞り、西方に折れて山城に入り宇治川となる。國內を流るゝ僅かに十二軒とす。大戸川は近江山城伊賀の境なる三國嶽に發し、北流して宇黄瀬に至り、これより西方に向ひ、源より約三十五軒にして勢多川に入る。

琵琶湖(第九圖甲)は本邦第一の大湖にして、其の形の琵琶に似たるを以て名づけられたるもの、又鴉の海ともいふ。伊吹山脈鈴鹿山脈笠置山脈丹波山地の間にある一大盆地に湛へたるものにして、東北より西南に長く東西の幅最大二十三軒、長さは約六十軒、周圍二百四十軒にして、面積七百四十平方軒を占め、國の面積の約六分の一を占む。其の水面は海拔八十米にして、湖水の最も深き所は竹生島の附近にありて百十二尋に達し、概して北方より南方に移るに従ひ、次第に其の深さを減ず。蓋し此の湖は瀬戸内海大阪平原等と

同じく本邦の裏帯に起れる地體の陥落によりて生ぜしものにして、湖中の奥沖多景竹生等の諸島は其の殘址に外ならざるなり。此の四島は何れも古火成岩より成り、其中奥の島は八幡町の北方にありて最も大きく、東北より西南に長く、其の最高點は長命寺山と稱し四百米に達す。沖の島は奥の島の北二軒の所にある東西に細長き小島にして、多景島は更に之れよりも小さく、彦根町を離るゝ七軒の所にあり。竹生島は湖の北部に在りて葛籠尾崎を南方に距る二軒、其の大きいさ沖の島と多景島との間にありて、其の最高點は百二十餘米に達す。

本湖に注入する川は其の數甚だ多く、國內に於ける河流は殆んど全く此の湖によりて收容せられ、其の水遂に溢れて勢多川となり南流す。而して本湖に注入する諸川の水源は、森林濫伐のため禿山多きを以て、河流は俄かに洪水を起すこと多く、湖水亦屢に溢して沿岸の田園を害すること少なしとせず。湖岸は稍出入に富み、大津堅田能登川柳川彦根米原長濱今津等の港津ありて汽船は絶えず此の間を往復し交通を助くること少なからず。又魚類其の

余吾湖 紀伊國 總説 山嶽

他の水産物甚だ多く、其の産出年額三十餘萬圓に達し、沿岸の田畑に灌漑の利を與ふること亦鮮少ならず。

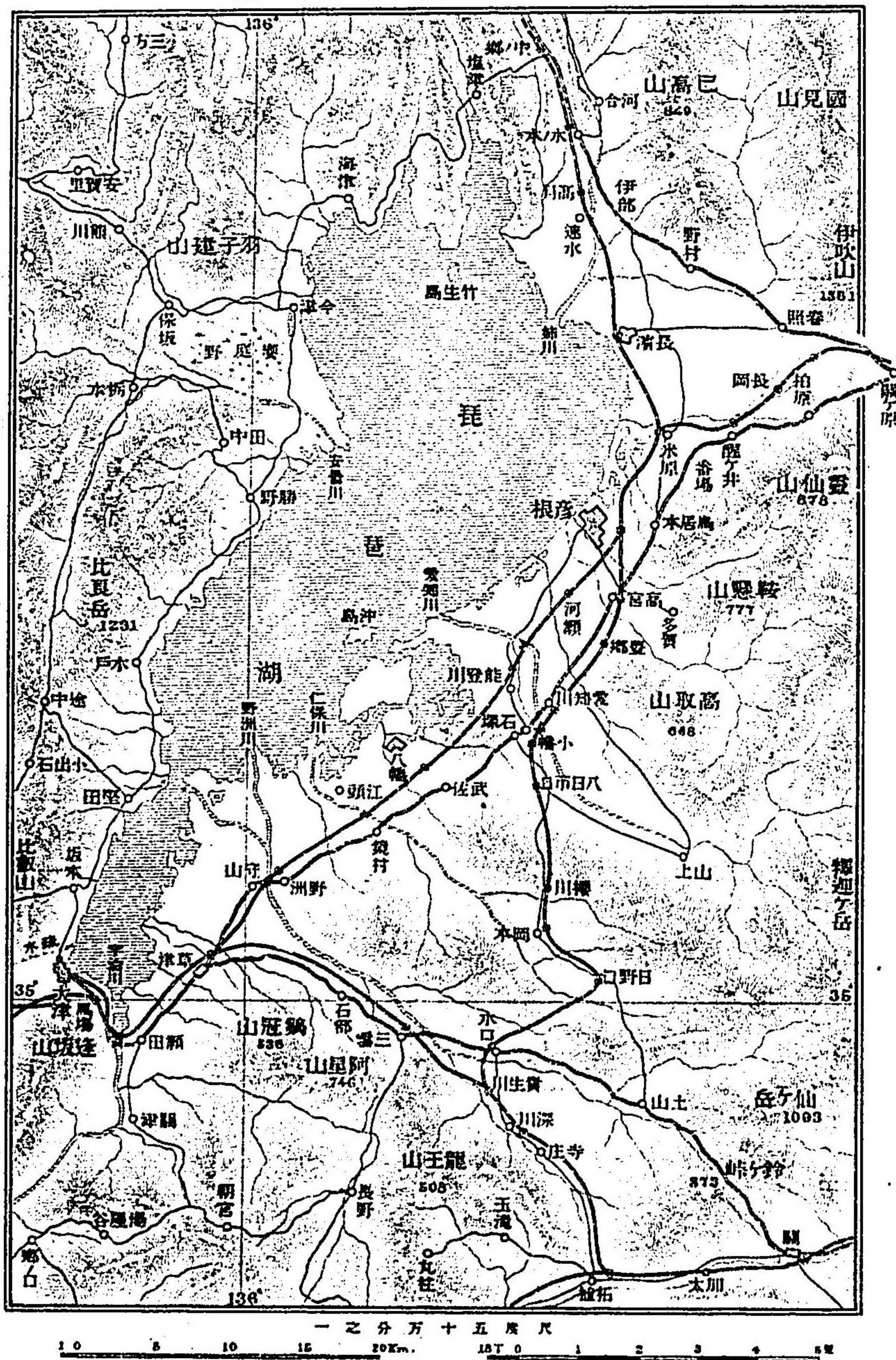
余吾湖は琵琶湖の北方にありて、木の本驛の西北四料の所に位す。南北に長く、面積二平方料に達せざる小湖なり。

紀伊國

紀伊は畿内の南を擁し、南に向つて突出せる彎形をなせる國にして、北は和泉河内大和伊勢と境を接し、東西南の三方は海に面す。面積總べて四千三百三十六平方料。其の大部分は和歌山縣に屬し、東北の一部即ち南北牟婁郡は、三重縣の所管たり。

紀伊國は殆んど其の全部紀伊山系に屬する諸山脈の蜿蜒連亘する地方にして、これ等の山脈は何れも褶曲より成り、西方四國山系と相連なり、東方は志摩半島弓張山脈及び赤石山系等と關聯して、南日本表帯の骨格を構造するものなり。而して其の連亘する方向は、何れも大體に於て西南西より東北東

琵琶湖附近之圖



第二版

和泉山脈

にして互に相並走し、其の間に數多の縦谷を挟む。然れども浸蝕作用の結果として略南北に走れる數多の側脈及び其の他の支脈を生じたるを以て、山嶽の趨勢は必ずしも一整然たるの状を呈するにあらず。従つて河流も縦谷を流下するもの多けれども、或は斜に走り、或は古座川の上流及び熊野川の如く、全く横谷をなせるものあり。而して山嶽は殆ど國の全部を占め、又海岸に逼りて起れるを以て、平地は僅かに大河の河口附近に僅少の地域を領するに過ぎず。今これ等の山脈水系等につき西北部より序を追ひて記述せんとす。

和泉山脈は紀伊川以北に於て紀伊と和泉河内との境をなし、西南西より東北東に連亘するものにして、其の西方は紀淡海峡の友ヶ島及び淡路島南部の山嶽を経て、遙に四國島の讃岐山脈と連絡せるものなり。主として和泉砂岩層より成り、其の層向は山脈の走向と略一致せるを見る。西方は加太の岬角に起りて東方紀伊河内大和の界に至るまで凡そ五十五軒の間に亘り、山勢一般に高峻ならずして且つ西方に低く、東方に至るに従ひ稍其の高さを増すものゝ如し。此の山脈に屬する著名の峯頭は根來山(三百三十一米)犬鳴山(五百五

龍門山脈

十一米、葛城山(八百五十八米)、七越山、巖涌山(九百餘米)等にして、孝子越(百十四米)、井關峠(三百米)、土佛峠(四百六十五米)、鍋谷峠(六百六十米)、藏王峠(五百四十七米)、紀見井峠(三百八十一米)等の山路此の間を貫きて以て北方、泉河二州の平野と南方、紀伊川沿岸地方との交通を連絡せり(和泉河内の條參照)。此の山脈の南面即ち本國に屬する部分は、北面に比して稍急傾斜をなし、以て紀伊川谷に臨み、其の麓には第四紀古層より成れる丘陵地紀伊川に沿うて東西に細長く附隨せるあり。此の丘陵は東方に高く西方に至るに従ひ次第に低く、附近の平地とは階段を以て境せられ、或は徐々に相移化せり。

紀伊川以南に於ても和泉山脈と略並行せる數條の山脈あり。

龍門山脈は紀伊川の南に接して起れるものにして、其の主峯たる龍門山が蛇紋岩より成れる外、他は何れも品質剝岩より成る。西方は和歌山市の東にある矢田峠(八十米)和佐山(二百四十米)に起り、東走して一旦野上川(ノノガハ)斷層谷の斷つ所となるも、其の東は再び隆起して門山(最初峯龍門山(七百五十六米))飯盛山(七百四十六米)等となり、其の東方麻生津峠(五百二十七米)を経て後は次第に低

梨子木山脈

くなり、宇九度山附近に於て紀伊川の沿岸に盡く。和歌山市の南方に於て、平野の中に孤立せる名草山(二百二十三米)も亦此の山脈に屬するものなり。

龍門山脈の南方に於て約八軒の距離を保ちて、全くこれと並走せる一山脈あり。これを梨子木山脈といふ。西方は日方灣の北背に起り、東走して雨山(四百七十九米)となり、高野山の西方なる梨子木峠(四百八十三米)に連なるものにして、全部古生層より成り、雨山の西方に於ては野上川の横斷する所となり、東方に於ても野上川の上流なる友淵川に破られ、従つて山脈は東西中の三部に分たる。

生石の峰山脈

生石の峰山脈は其の南に位し、又これと並行せる山脈にして、海草那賀二郡と有田郡との界に連なり、野上川有田川の分水嶺をなし、西は紀淡海峡の濱より東は高野山の西に至るまで蜿蜒四十餘軒に達し、全く古生層より成る。山脈の形勢概して東方に高く、西方に低きを常とす。即ち東端に於ては、天狗嶽後嶽大股嶽雨乞嶽等千米内外の高距を有し、中部に於ては生石の峰(九百十九米)黒澤山(五百〇七米)等の諸峯あり。西部海草那賀有田郡の境上に於て、

高野山

山脈は分れて二となり、一は有田海草二郡の界をなして西南西に向ひ紀明神山(三百三十九米)を起し、箕島村の北背に至りて盡き、一は西北西に走り藤白峠及び鹽津附近の丘巒となり、大崎に至りて海に没す。其の海岸にある地島沖島の二島も亦生石の峯山脈の一部をなすものなり。

高野山は生石の峰山脈の東方に於ける山地を總稱するものにして、所謂高野山の靈場は、紀伊川沿岸の學文路の南方十二軒の所に在りて、高距は七百餘米に達すれども稍平坦にして東方の一部を除くの外他は此の平地よりも百乃至二百米高き峯嶺を環らし、有田川の水源地をなす。天狗山南嶽奥の院峠(八百六十八米等即ち是れにして、奥の院より東南南に向へる一嶺は紀伊大和の國境なる陳ヶ峯千七百七米に於て更に二三の支脈に岐れ、其の國境に沿うて西南南に走れるものは水ヶ峰千二百二十四米となり、遂に笹の茶屋千〇五十八米附近に至る。

有田川の南方に於て有田日高二郡の界を西南西より東北東に連亘して、有田日高二川の分水嶺をなせるものあり。これを鹿ヶ瀬山脈といふ。概ね砂岩

鹿ヶ瀬山脈

泥板岩の累層より成り、其東部に於ては稍高峯に富み、白馬嶽(九百四十三米)城ヶ森(千三百〇七米等)ありて城ヶ峯の東北は笹の茶屋となり、益、東方に延びて大和に入り、十津川谷に及ぶ。又笹の茶屋より東南南に向ひ千米以上の峻嶺紀伊大和の境をなせるあり。山脈の西部は高距大に減じて、六百以下となり、波状の連嶺をなし、湯淺町より御坊町に通ずる鹿ヶ瀬峠(三百二十三米)附近より益低くなり、數條の小山脈に分れ、遂に海に盡く。

果無山脈

更に日高川の南方を顧みれば日高西牟婁二郡の境上及び紀伊大和の境に於て西南西より東北東に連亘すること約三十六軒に及べる果無山脈あり。概して砂岩泥板岩等より成り、西方虎ヶ峯七百三十八米に起りて笠塔峯八百六十三米(安塔峯七百四十四米)等を経、紀和の境なる和田森(千二百二十二米)果無山(千二百八十九米)等の高峯となり、これより千米内外の連嶺屏障の如く東に連なり、遂に十津川谷に終る。

果無山脈の側

果無山脈は其の南方に數多の側脈を支出す。虎ヶ峯よりは一小連嶺東南に向ひて富田川の岸に達し、此の連嶺の西方には、秋津川(田邊川)の流域地に於

那智山脈

て多少獨立の山塊状をなせる槇山(八百六十八米)高尾山(六百〇九米)龍神山(五百五十米)等あり。又和田森より西南南に向つて支出せるものは、富田川日置川の分水嶺をなして延長實に三十六軒に達し、此の間に大阪峠(五百五十六米)太尾峰分龍山(七百七十七米)麥粉森(六百〇二米)宇津木阪(四百七十二米)富田阪(三百八十八米)等あり。果無山より南走せるものは東西牟婁郡の界をなして、二十四軒の間に延び、紀伊山脈の大塔峯に及べるものにして、其の間に高尾峰(千二百〇一米)小廣峠(五百五十九米)笠塔森(九百七十五米)野竹帽子(九百八十五米)嶽の森(八百五十一米)等あり。

那智山脈は日置川の中流なる廣見川の東邊に起り、東に走りて法師の森大塔峯(千二百三十七米)大河山(八百六十八米)等となり、これより東南東に向ひ、檜原附近に於て山脈の趨勢多少錯亂すと雖も、再び東方に延亘し、熊野川の岸に盡くるものなり。檜原の東方に於て山脈彎曲し多少S字形をなせる部分を總稱して那智山といふ。檜原以西の部分は概ね全く砂岩泥板岩より成れるに反し、此の地全く石英粗面岩より成り、崎嶇たる峻峯多く、山貌大に他の

那智山脈の側

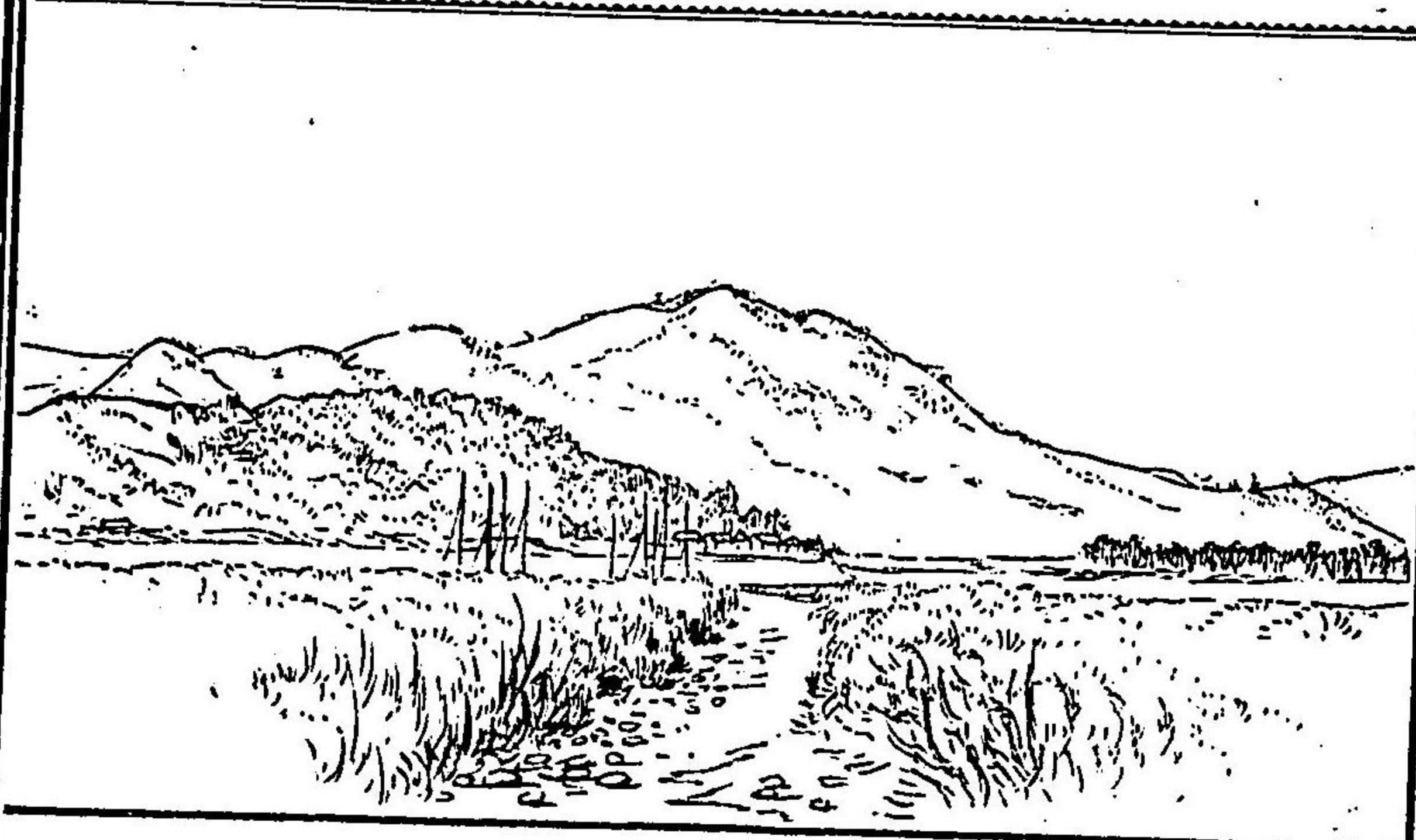
峯山脈

諸山と異なるを認むべく、帽子山(八百十六米)大雲取山(八百八十三米)妙法山(七百八十七米)等の諸峯、此の中にあり。

那智山脈は亦多くの側脈を生ず。即ち大塔峯より南微西に向へるものは、東西牟婁郡の境に連亘すること三十軒、日置川古座川の分水嶺をなし、大森山(八百九十米)の秀峯あり。かくて果無山脈の側脈にして果無山より大塔峯に至れるものと紀伊山脈の支脈にして大塔峯より南方に延亘せる側脈とは相連絡して、國の中部を南北に縦貫する一條の山脈となり、これを特に大塔山脈といふ。又大河山の東に起り、南下すること六軒に及べるものは古座川及び其の支流なる小川の分水嶺をなし、大雲取山より北方に向へるものは越前峠(八百二十七米)小雲取山(女法森(六百三十六米)等となる。

國の南隅に於ては東西牟婁郡の界に沿ひ、海岸に並行して西方周參見村より東方串本町の北方に至るまで約二十四軒の間略東西に連亘せる峯山脈あり。主として泥板岩砂岩及び礫岩等より成り、山勢概して甚だ低く、其の最高峯たる峯山と雖も僅に五百七十一米に過ぎず。山脈の南側は直ちに海に臨み、

熊野川以東の山嶽



龍殿川(三重縣)より神介山(和歌山縣)を望む

數多の側谷並行して南に走り、其間に多くの山枷を形成し、北側は古座川下流の縦谷に向へり。

次に熊野川横谷以東の部分を見るに、此の地方に於ては山嶽の趨勢に一定の規矩なく、稍獨立せる山塊の状を呈し、子の泊山(八百五十六米)藏光山(八百二十四米)一族山(八百八十米)等熊野川の東岸に聳え、何れも石英粗面岩より成る。一族山の東方には鷲巢山(五百九十米)あり。これより石英粗面岩より成れる山嶽東北に連亘し、其の海拔高距は何れも千米以下なれども奇峯峨々として聳立し、且つ森林鬱然たるもの多く、其主要なる高峯には妙見山

平原

水系

(七百七十八米)大蛇峯(七百四十九米)保色山(九百八十八米)鳥越山(九百四十七米)等あり。而してこれ等の主要山嶽の東南側に於て木本以南の地方には第三紀層より成れる丘陵あり、三百米以下の高距を保つ。又鳥越山以北に於て山嶽は雜然たる有様を呈し、著るしき秀峯なく、相賀峯(九百餘米)を起したるの後、次第に稍低くなり、遂に伊勢南邊の山嶽と相連絡す。

國內平地甚だ少なく、唯大河の沿岸若しくは海岸に於て多少平坦なる少許の地を開けるのみ。其中稍大なるは和歌山四近の平地にして、廣袤凡そ百二十一平方料を占め、紀伊川下流の灌域にして、和泉山脈と龍門山脈との間に在り。其の他御坊町附近に開けるものは約十九平方料を占め、尙ほ南部町田邊町新宮町等の附近には些少の平地あり。

國內の諸川其の西北部に於けるものは概ね山脈の趨勢に従ひ、縦谷をなして西流し紀伊水道に注ぎ、東北部に於けるものも、亦縦谷をなして東流海に入れども、南部に於けるものは横谷をなして、東南若しくは西南に流るゝを以て、諸川の流路輻射状をなせり。今西北部に於けるものより次第にこれを

紀伊川

記述せむ。

紀伊川は東方伊勢の櫛田川と共に紀伊半島を横断する一大斷層線に沿うて生じたる縦谷を流るゝものにして、其の上流は即ち大和の吉野川なり。隅田近傍より紀伊國內に入り、著るしき屈曲なく、略西南西に向つて和泉山脈龍門山脈の間を流れ、和歌山市の西方に於て海に入る。岩出町より以上の地に於て川の南岸は直ちに龍門山脈若しくは梨子木山脈に通りて平地少なければども、北岸には第四紀層より成れる臺地平地稍廣く發達し、岩出町以下は溪谷大に開け、川は數多の支流を分岐し、和歌山四近の沖積平地を作れり。河流の全長凡そ百十軒、其の中國内にあるもの約五十五軒とす。南海線鐵道は此溪谷に沿うて走るものにして、其の沿道には橋本名倉粉川岩出及び和歌山市等あり。

紀伊川の支流

紀伊川に注ぐ支流の中、本國內に在りて稍著るしきものを丹生川及び野上川とす。丹生川は高野山の東部北部に於ける諸溪流を合し、河根を過ぎ、名倉町の對岸に於て本流に合す。長さ凡そ二十餘軒あり。野上川は其の上流友

有田川

淵川及び長谷川の二に分る。友淵川は梨子木峠附近に發し、始め西流するこ
と十軒にして南に折れ、六軒の後再び西方に流れ、長谷川は高野山の西部に
發源し西南西に流る。二川は遂に宇福田附近に於て相合し、尙ほ西方に走り、
宇木津に於て急に東北北に轉ず。こゝに至るまで川は概ね縦谷を走るものな
れども、これより以下は龍門山脈を横断する斷層谷に沿うて流下するものと
す。川は遂に山崎に於て紀伊川に合す。長さ凡そ四十五軒あり。

有田川は生石の峯山脈と鹿ヶ瀬山脈との間にある縦谷を西南西に流るゝも
のにして、高野山の南部に發源し、峯巒圍繞の間を紆回曲折して流走し、金
谷より以下兩岸少しく開け、沖積平地を作りて西微北に向ひ、箕島に於て海
に入る。長さ凡そ六十五軒あり。

日高川

日高川は鹿ヶ瀬山脈と果無山脈との間に在りて、源を日高郡の北隅に發し、
始め南流して湯の又に至り、これより西南に轉じ、東方和田森の北麓より來
る丹生野川を容れ、幾多の彎曲をなして後北方に向ひ、小家附近より西方に
折れ、山巒重疊の間を縫ひて紆回屈折頗る甚だしく、船津近傍より西南に轉

富田川

日置川

古座川

じ、御坊町に於て海に朝す。河口には一條の砂洲西北より東南に突出せるあり。川の全長凡そ九十三軒に達すれども、終始の直距離僅かに四十二軒に過ぎず。盤旋紆曲の狀以て想ふべし。船津より以下約二十軒の間舟楫の便あり。切目川（南部川）秋津川（田邊川）等は日高川の東南にありて何れも東北より西南に流れ、長さ約二十軒に過ぎず。

富田川は源を和田森に發し、西南流すること約四十軒にして海に盡く。河流著るしき屈曲なく、又支流の大なるものなし。

日置川は略富田川に並行して流るゝものにして上流を廣見川といふ。源を和田森の南側に發し、横谷をなして西南南に流れ、字合川に於て東方大塔峯附近より來る前野川を容れ、これより西南に轉じ、數多の彎曲をなして後、日置町に於て海に注ぐ。長さ凡そ五十餘軒あり。

古座川は源を那智山脈中の大塔峯大河山附近に發し、横谷をなして南方に流れ、眞砂の南方に於て西方より來る佐本川を容る。これより川は峯山脈の北側なる縦谷を東に流れ、川口に於て北方より横谷をなして南下する小川を

太田川

熊野川
十津川

北山川

合し、尙ほ東流し、宇宇津木より以下再び横谷をなして、東南に流れ古座町に於て海に入る。長さ凡そ三十五軒。流れ急なりと雖も、眞砂以下二十軒の間舟楫の便あり。本流の縦谷は單に侵蝕谷と見做すべきものにあらずして、同走位に沿ひ石英粗面岩の帶狀噴出あり。又沿岸所々に鑛泉の湧出を認め、尙ほ其の延長線上に於て浦神の峽灣あるを以て考ふれば、蓋し南北の横歴に關係せる地弱線に該當するものなるべしといふ。

太田川は那智山の西麓に發し、始め南流し、後東南に轉じ、浦神灣に注ぐ。長さ二十軒に過ぎず。

熊野川は其の上流十津川及び北山川より成る。十津川は紀伊山系中に於ける一大横谷にして、大和の南部を北より南に流れ、遂に本國內に入り、曲折甚だしく、本宮附近より東方に轉じ、宇小船に於て北山川と合す。國內を流るゝこと凡そ十八軒に過ぎず。兩岸岩壁直立せる所多く、飛瀑これに懸り、沿岸の風光甚だ佳なり。然れども川は急湍少なきを以て、舟は遠く大和吉野郡小原より下すを得べし。北山川も亦著るしき横谷の一にして、大和國大壺

湖沼

海岸

ヶ原山に發し、大峯山脈の東麓を南流すると四十軒にして紀伊に入り、東方より來る桃崎川を合し、これより西南に轉じ、屈曲頗る甚しく、(第六圖乙) 約三十六軒の後十津川と合す。所謂瀨八町の勝地(第六圖甲) は其下流玉置口附近に於て峽谷をなせる部分を稱するものにして、兩岸絶壁高く聳え、河水瀟みて碧潭をなし頗る幽邃の趣に富む。十津川北山川の相合してより、川は熊野川と稱せられ、南牟婁東牟婁二郡の界をなして東南に流れ、新宮町を過ぎて後、熊野浦に注ぐ。其の熊野川と稱せらるゝ部分は僅かに二十五軒に過ぎざれども、十津川をも通算する時は、其の長さ凡そ百三十五軒に達す。

熊野川より以東の地に於ては河流の大なるものなし。國內湖沼の大なるもの絶えてなけれども、紀伊川南北兩岸の丘陵地及び生石の峯山脈の西部の北麓地方には數十の小池沼散在するあり。何れも甚だ小にして、多くは周圍一軒に達せず。

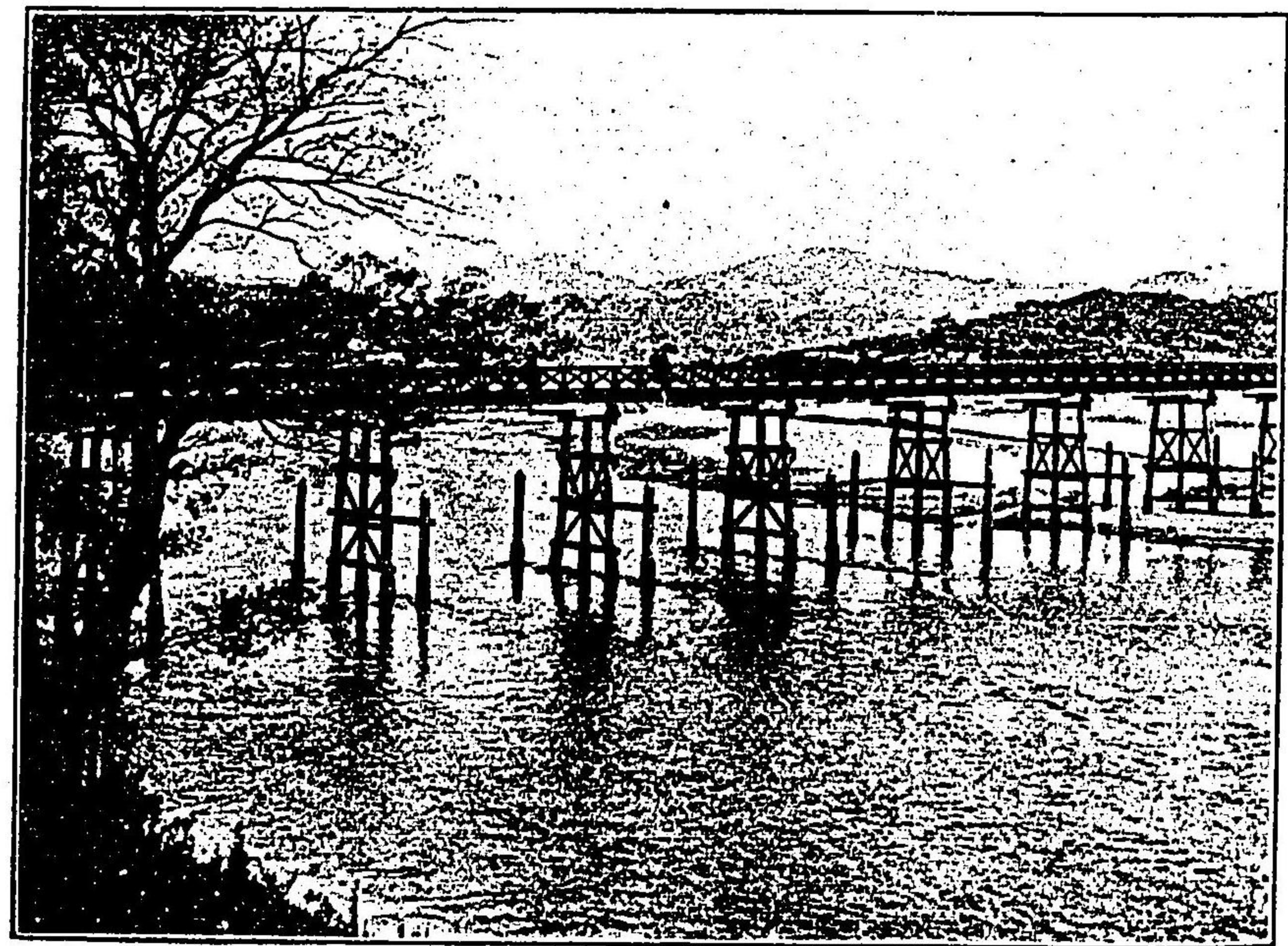
紀伊國は比較的長き海岸線を有し、岬灣の出入亦乏しからず。國の最南端なる潮岬以西に於ては日方灣湯淺灣由良灣田邊灣二色灣等あり。由良灣は所

島嶼

謂峽灣に屬し、田邊灣は其の海岸を作る第三紀層の岩石の軟弱なると所々層位の混亂せるを以て、侵蝕を蒙ること甚だしく、爲めに海岸線の出入錯雜を極めたり。潮岬以東熊野川の河口に至るまでは、海岸の出入甚だしく、浦神の峽灣及び勝浦灣宇久井灣等あり。熊野川河口以北木本浦に至るまで約二十軒の間は出入絶えて無き直線狀砂濱をなし、岸に沿ひて數多の潟湖横はれるを見る。木本以北は海岸の景象大に以南と異なりて屈曲出入甚だ多く、リアス式海岸の特色を具へたり。其の灣入の主要なるものを南より擧ぐれば、大泊灣大吹灣新鹿灣二木島灣賀田灣早田灣尾鷲灣長島灣等にして、其の中賀田灣及び尾鷲灣最も大きく、灣内更に二三の小灣に分岐せり。これ等の諸灣は、何れも水甚だ深く、其の岸邊多くは徒崖をなせり。

紀伊國の海岸には數多の小島嶼散在すれども、其の大なるものは友ヶ島浦初島及び大島とす。友ヶ島は和泉山脈の餘波が紀淡海峽に顯はれたるものにして、地島沖島の二島及び二三の小岩礁より成り、浦初島は有田川河口の西北に在りて、地島沖島の二島より成り、生石の峰山脈の餘波に屬す。大島は

山 剛 金 國 内 河 (甲)



む望を山上二に方東りよ橋和大新村原柏國內河 (乙)

(第一圖)

淡路國

總説

山嶽

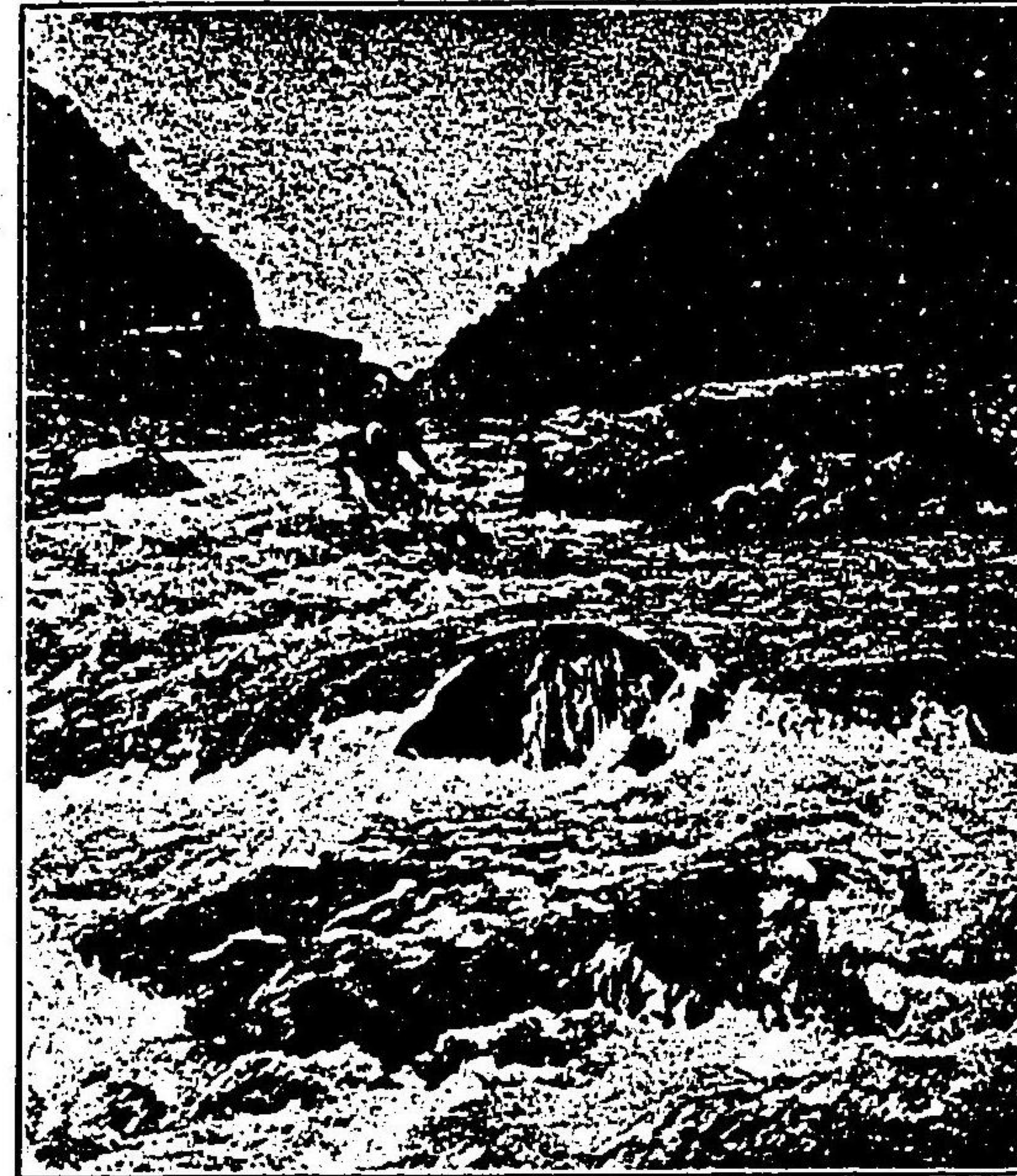
國の南隅に在りて串本町と海を隔つること僅かに二軒、古座川河口を距る四軒餘なり。島は概ね玢岩より成り、稍東西に長く、島上に大森山(百六十二米)、狼煙山(百四十四米)等あり。

淡路國

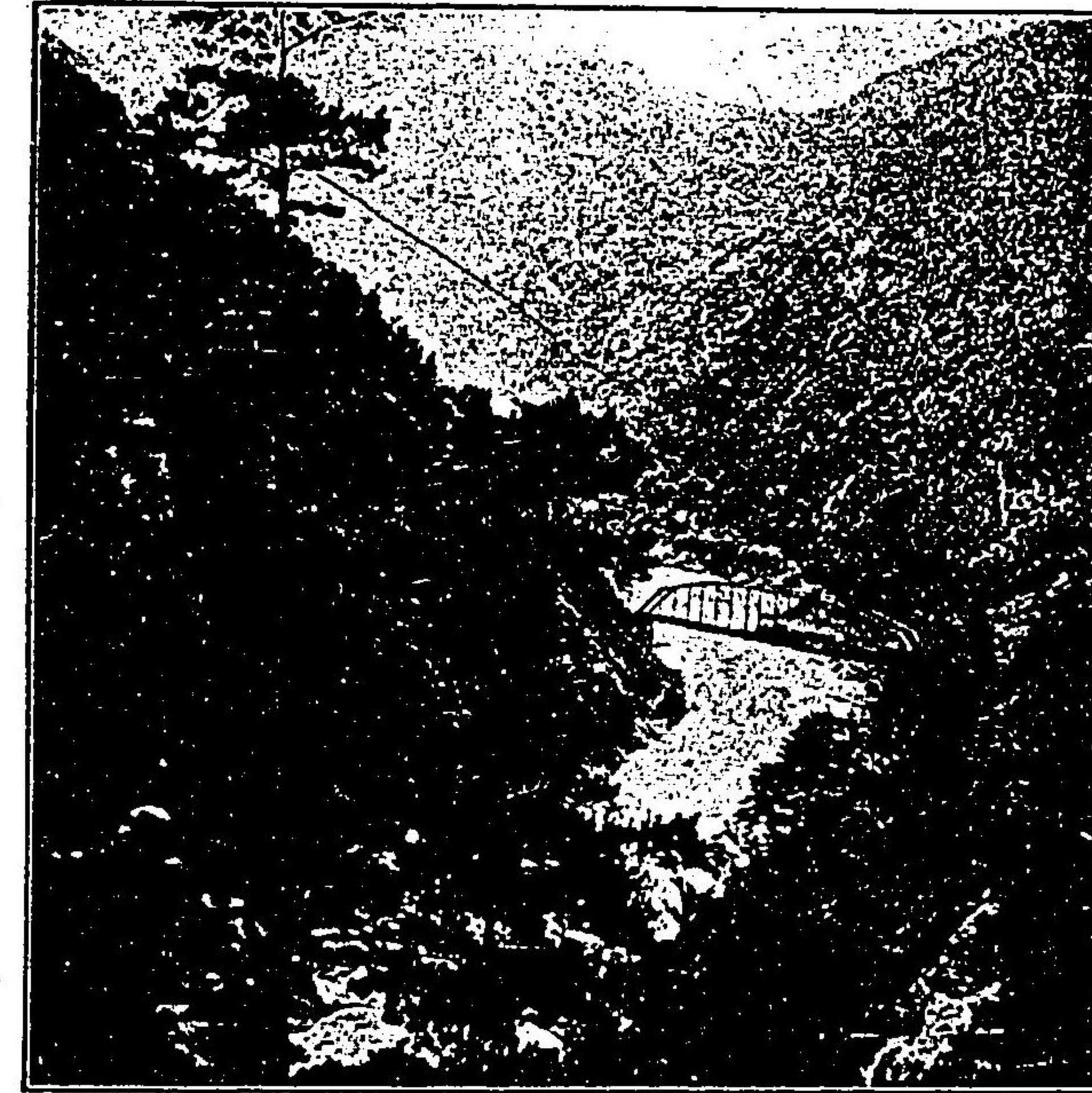
淡路國は瀬戸内海の東隅に横はれる一大島にして、北は明石海峡を隔て、播磨國に對し、東は大阪灣に、西は播磨洋に臨み、東南は由良海峡によりて紀伊と界し、西南は鳴戸海峡を以て阿波と隔てられ、南方は一帯紀伊水道に面す。(第十圖乙)島の形西南南より東北北に長く、其の長さは潮崎より松尾崎に至るまで略五十二軒に達し、東西の幅は北部に狭くして南部に廣く、五乃至廿八軒を有し、面積は沼島成山の二小屬島を合して約六百十平方軒を占め、兵庫縣に屬す。

島の地形は南部と北部とに於て大に其の趣を異にし、南部は主として中生層たる砂岩泥板岩等より成りて、西南西より東北東に走る山脈をなし、山麓

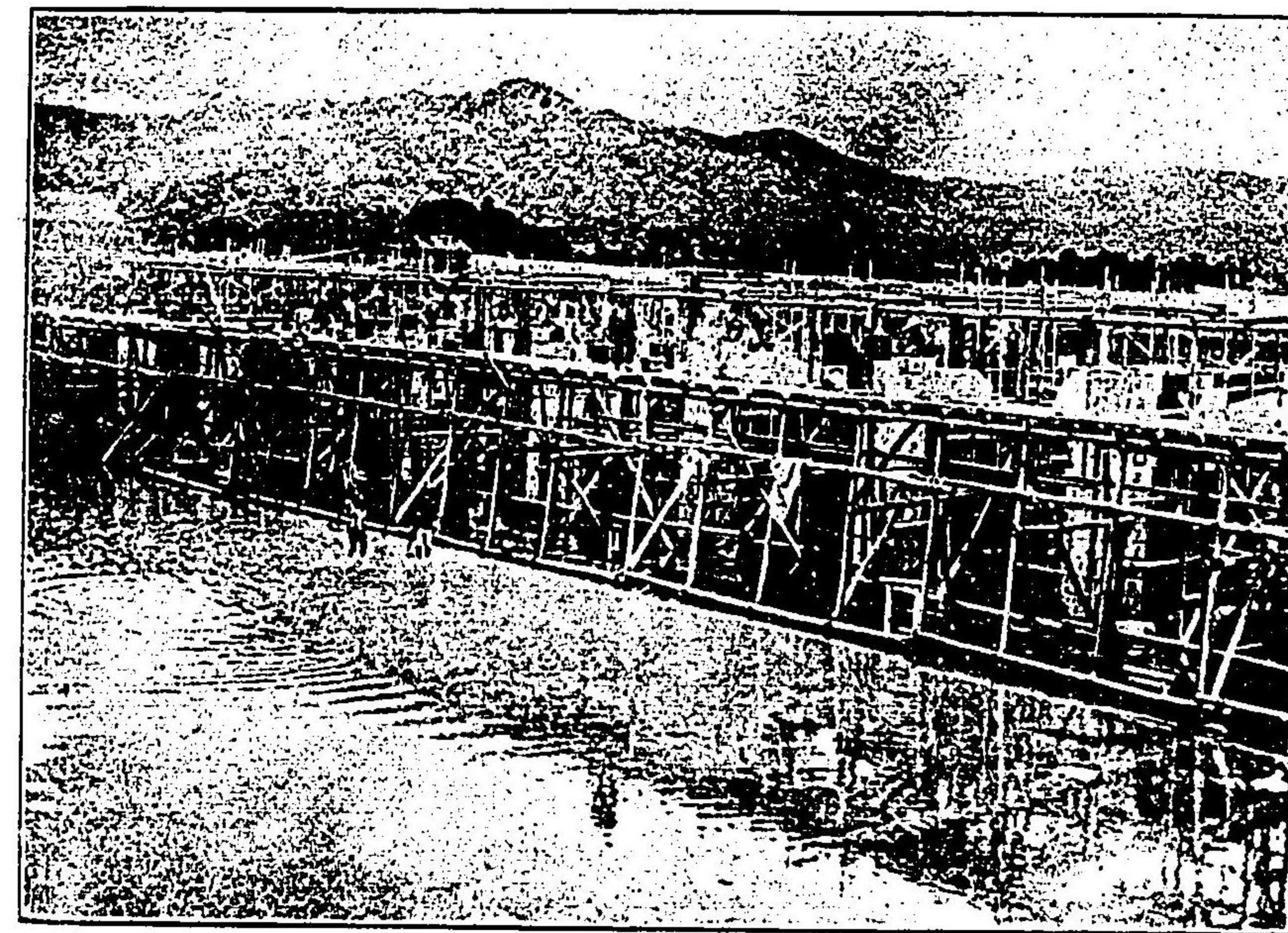
湍急川津保國波丹 (甲)



川津保國波丹 (甲)



流下の川津保 (乙)

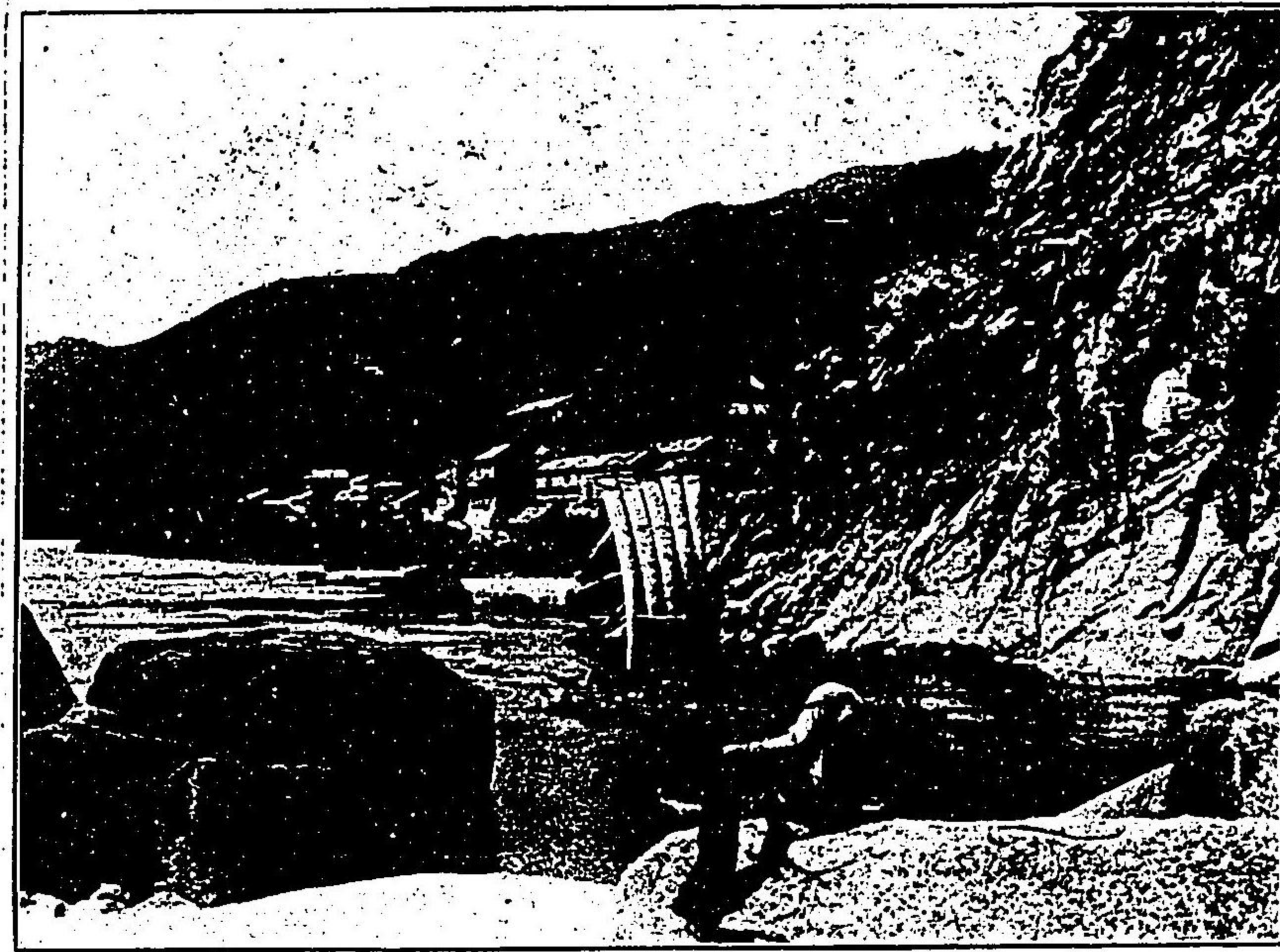


事工堰洗川多勢國江近 (乙)

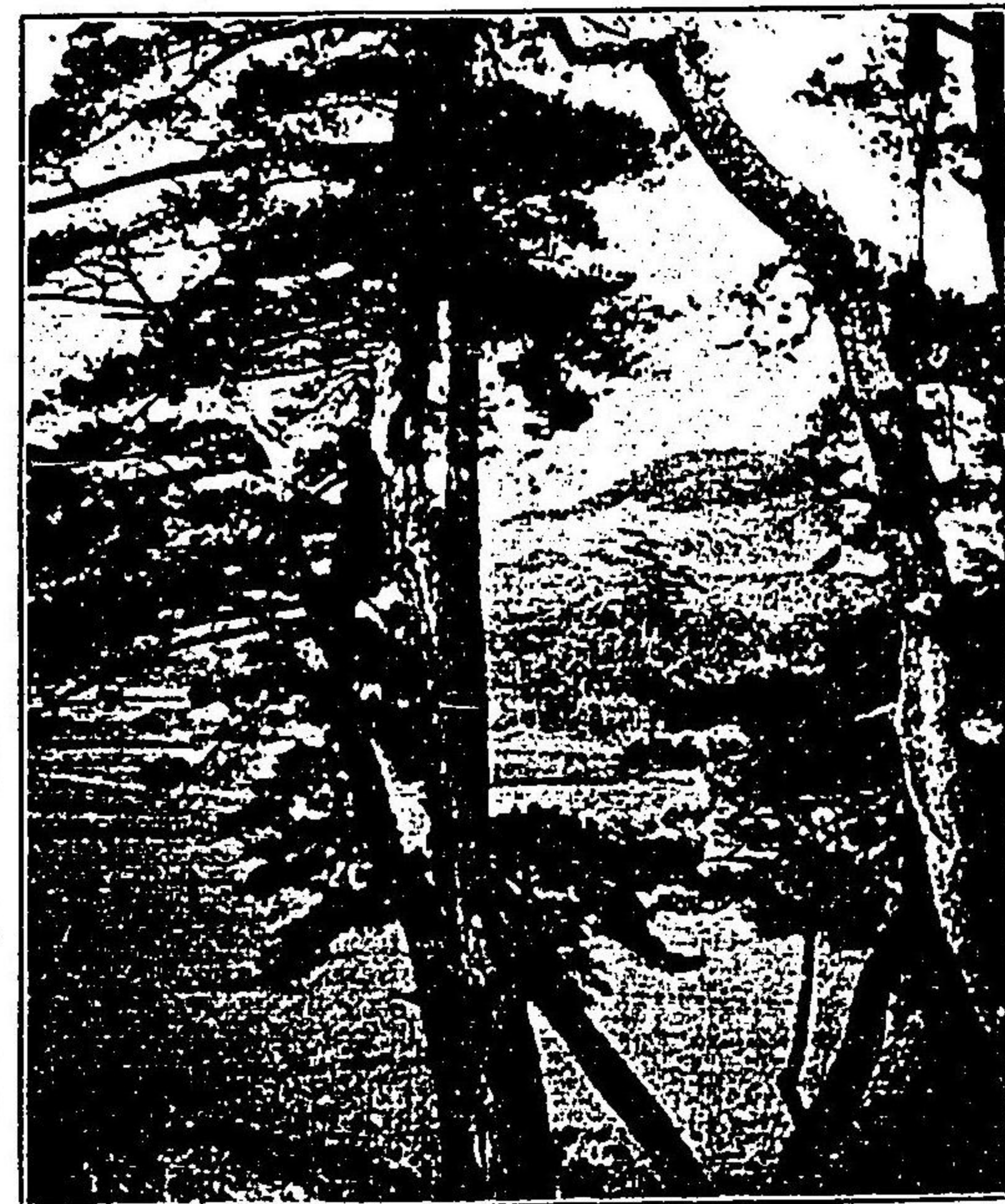
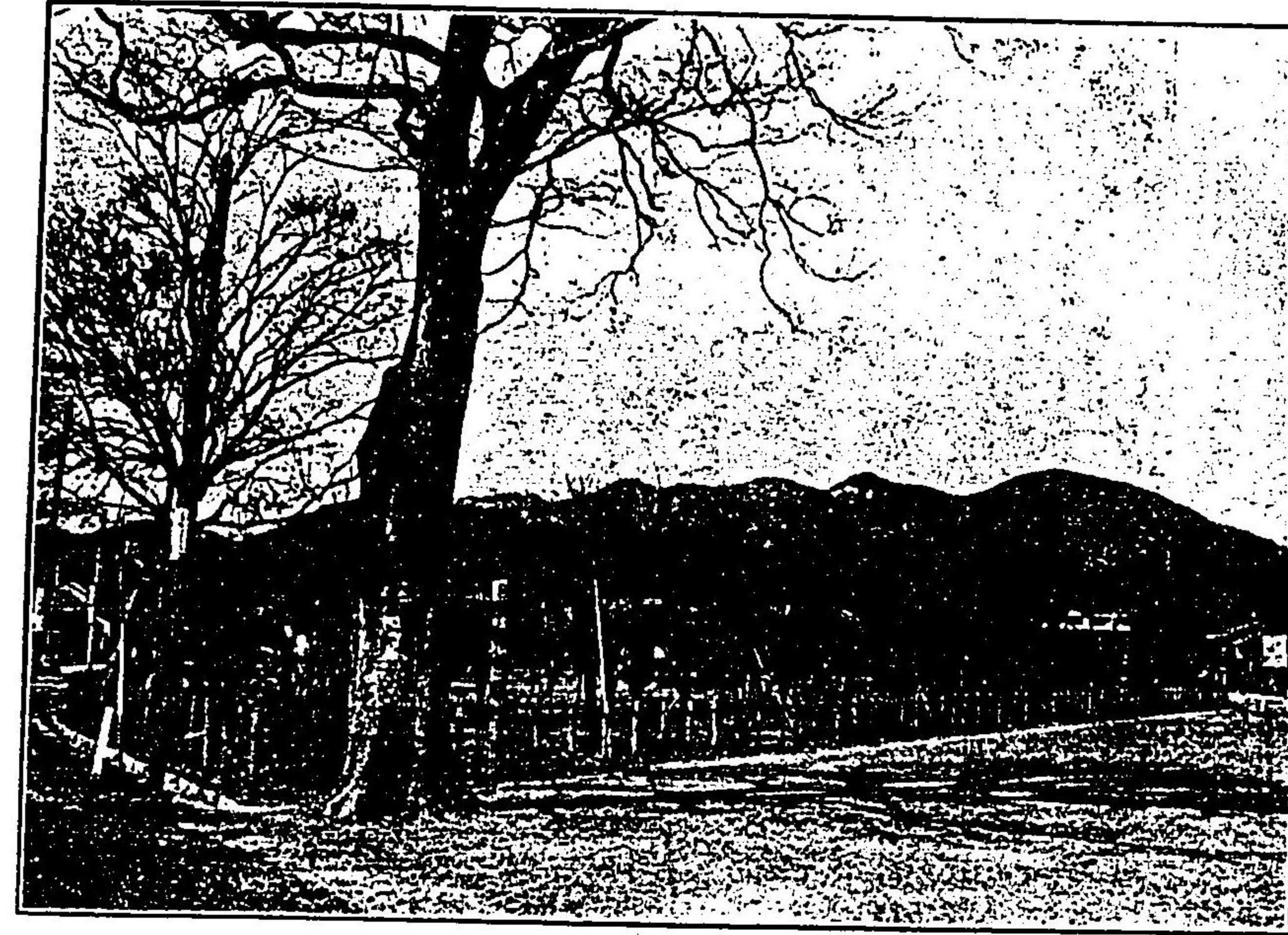
(第三圖)

(第三圖)

川津木國城山(甲)

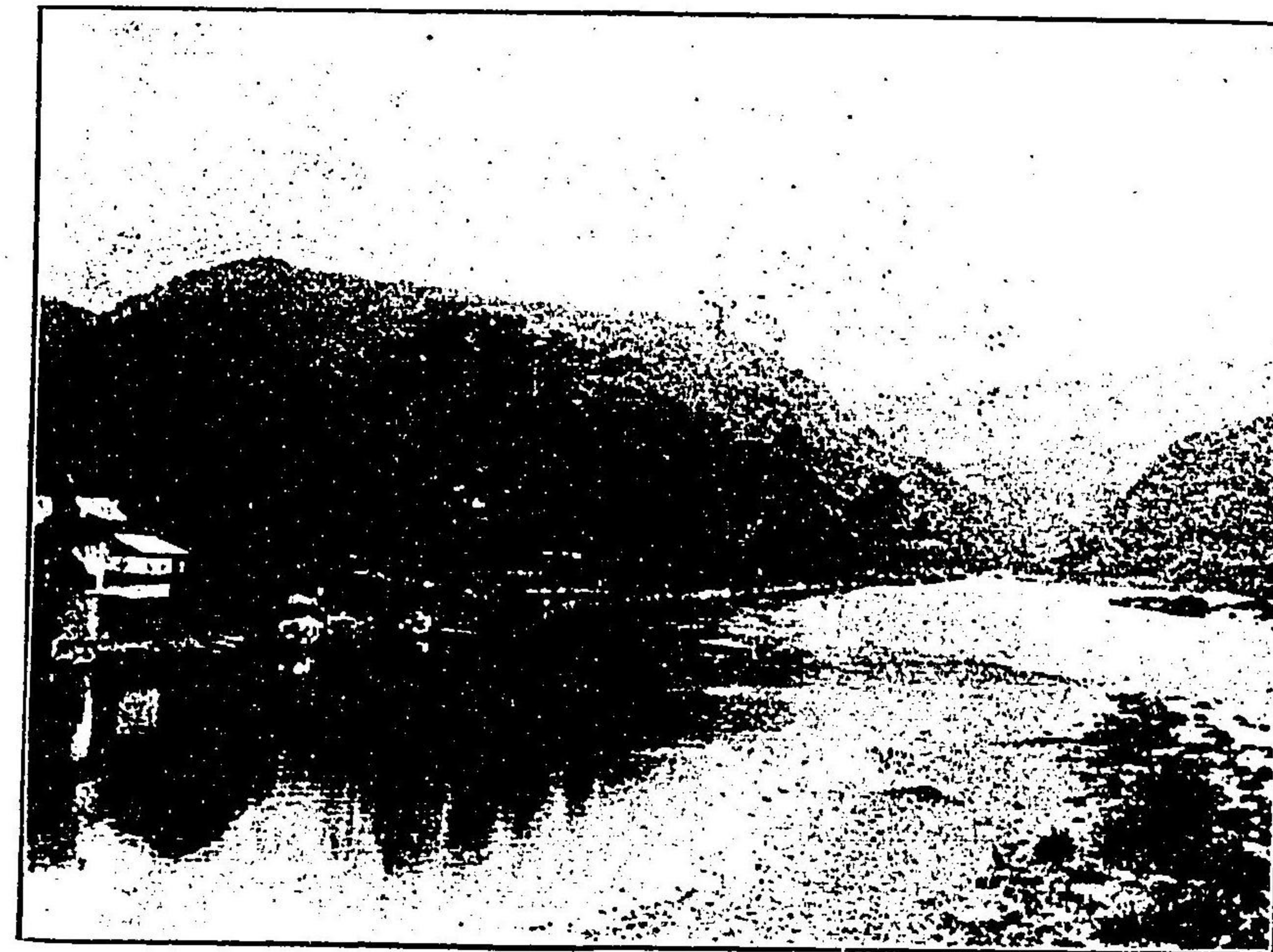


山北りよ苑神野北都京國城山(甲)



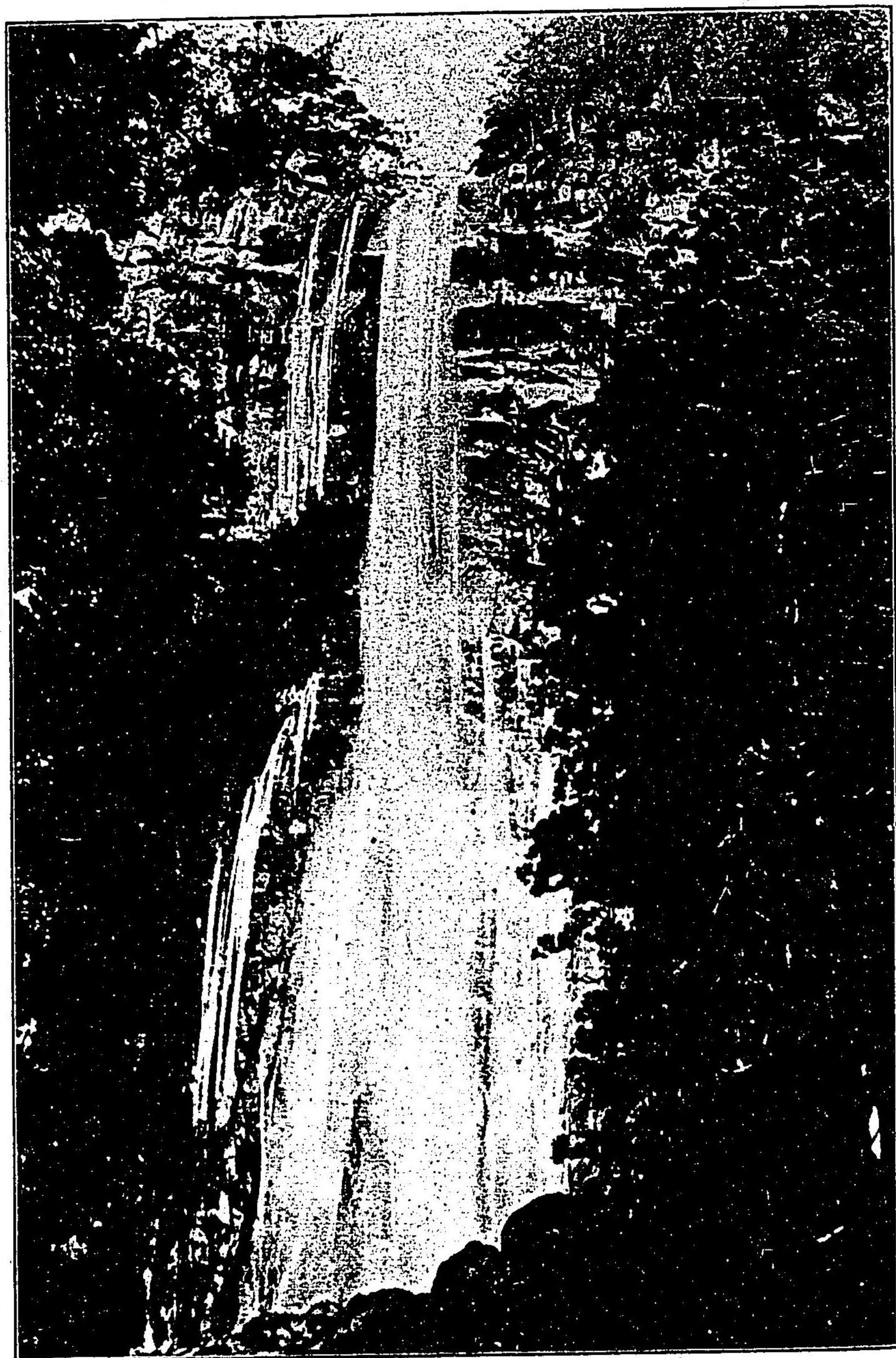
(第五圖)

山甲國津攝(乙)



(第四圖)

川治宇國城山(乙)



(第七圖)

紀伊國那智山の一瀧

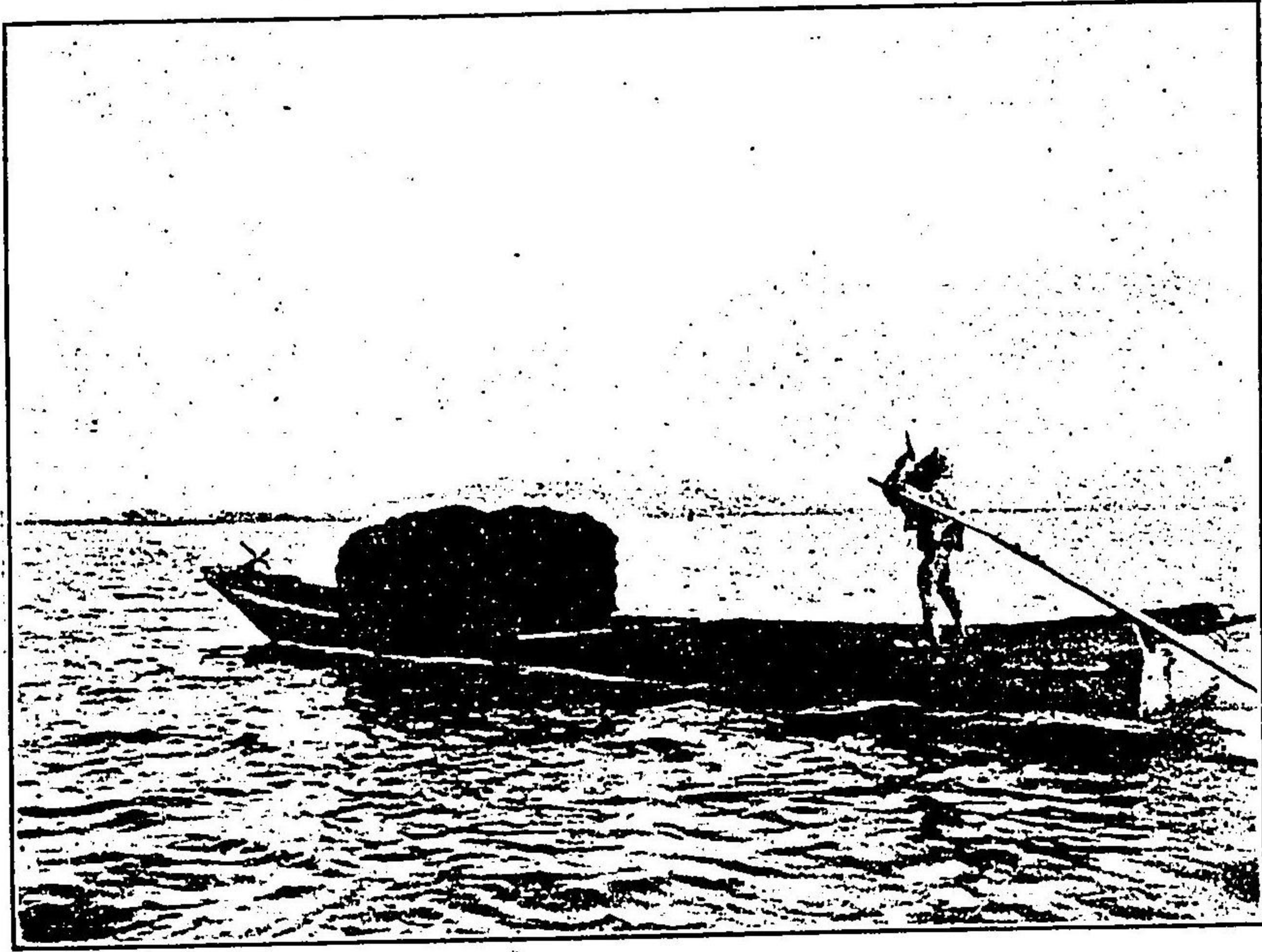
(甲) 紀伊國瀨八町(北山川上流)



(第六圖)

(乙) 紀伊國北山川(中流)

湖 琵琶 國 江 近 (甲)

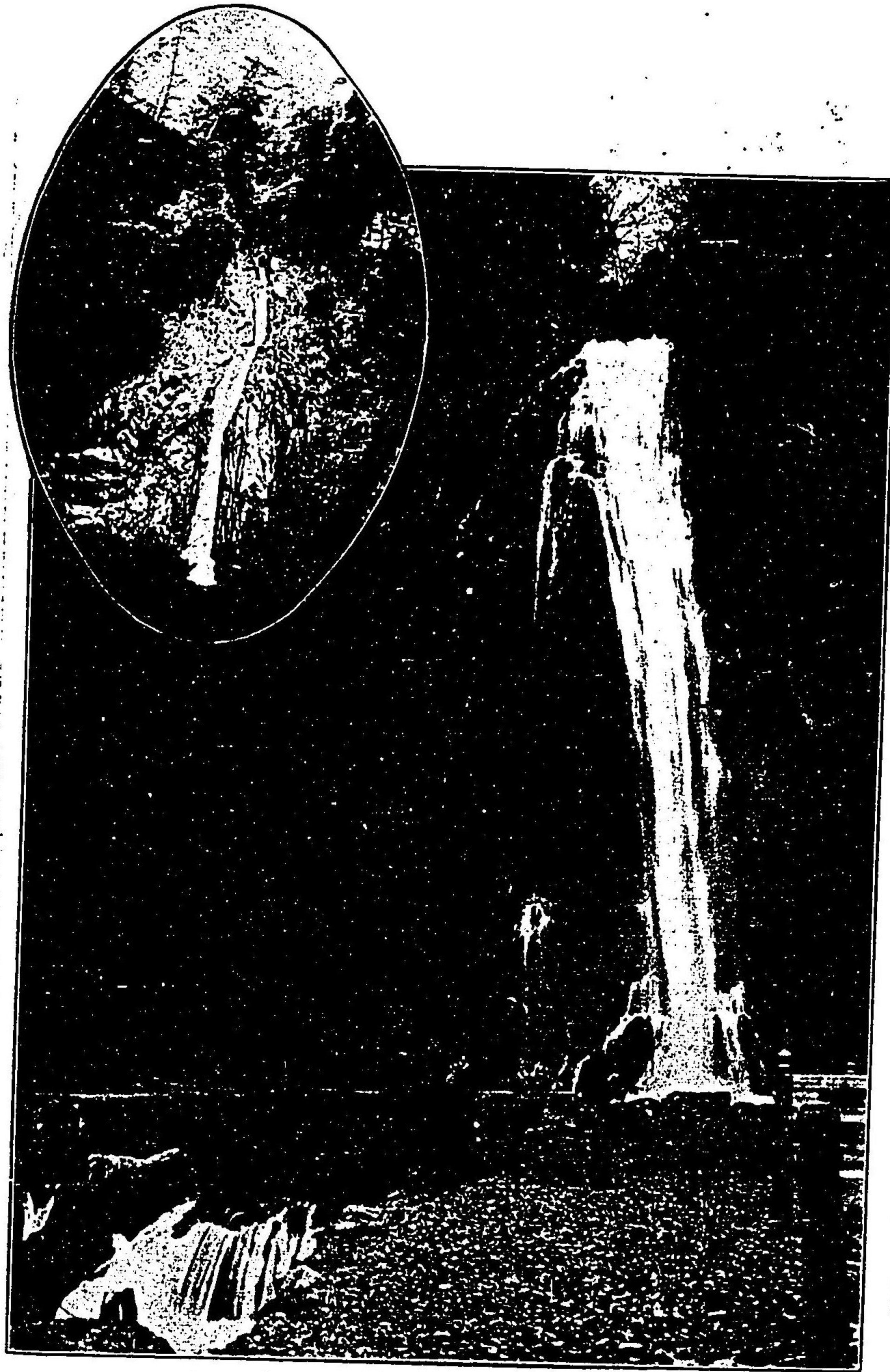


(第 九 圖)



池 椋 巨 國 城 山 (乙)

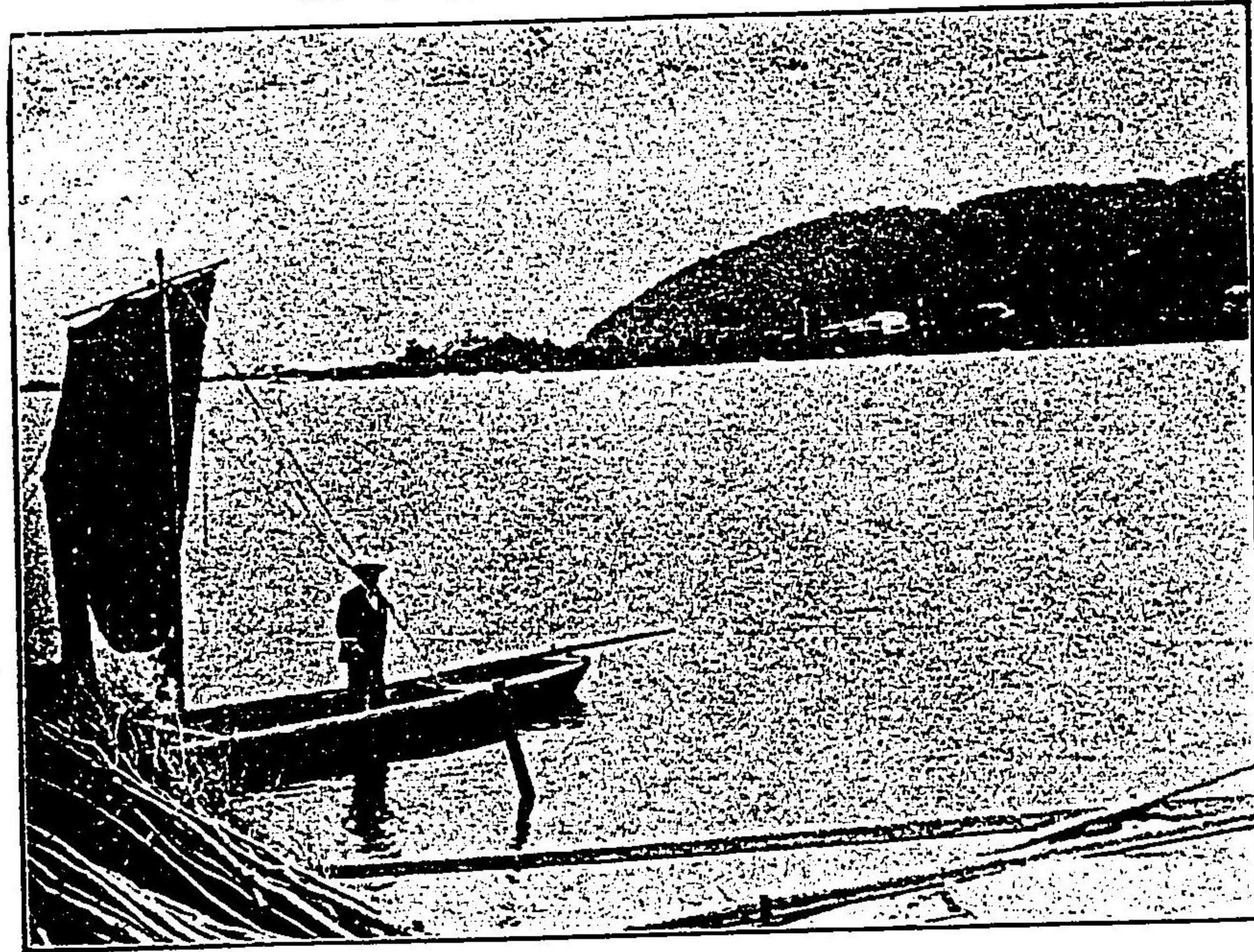
瀧 引 布 戶 神 國 津 攝 (乙)



(第 八 圖)

瀑 而 箕 山 而 美 國 津 攝 (甲)

渡本橋川淀國城山 (甲)



池ヶ蛇雄國泉和 (甲)

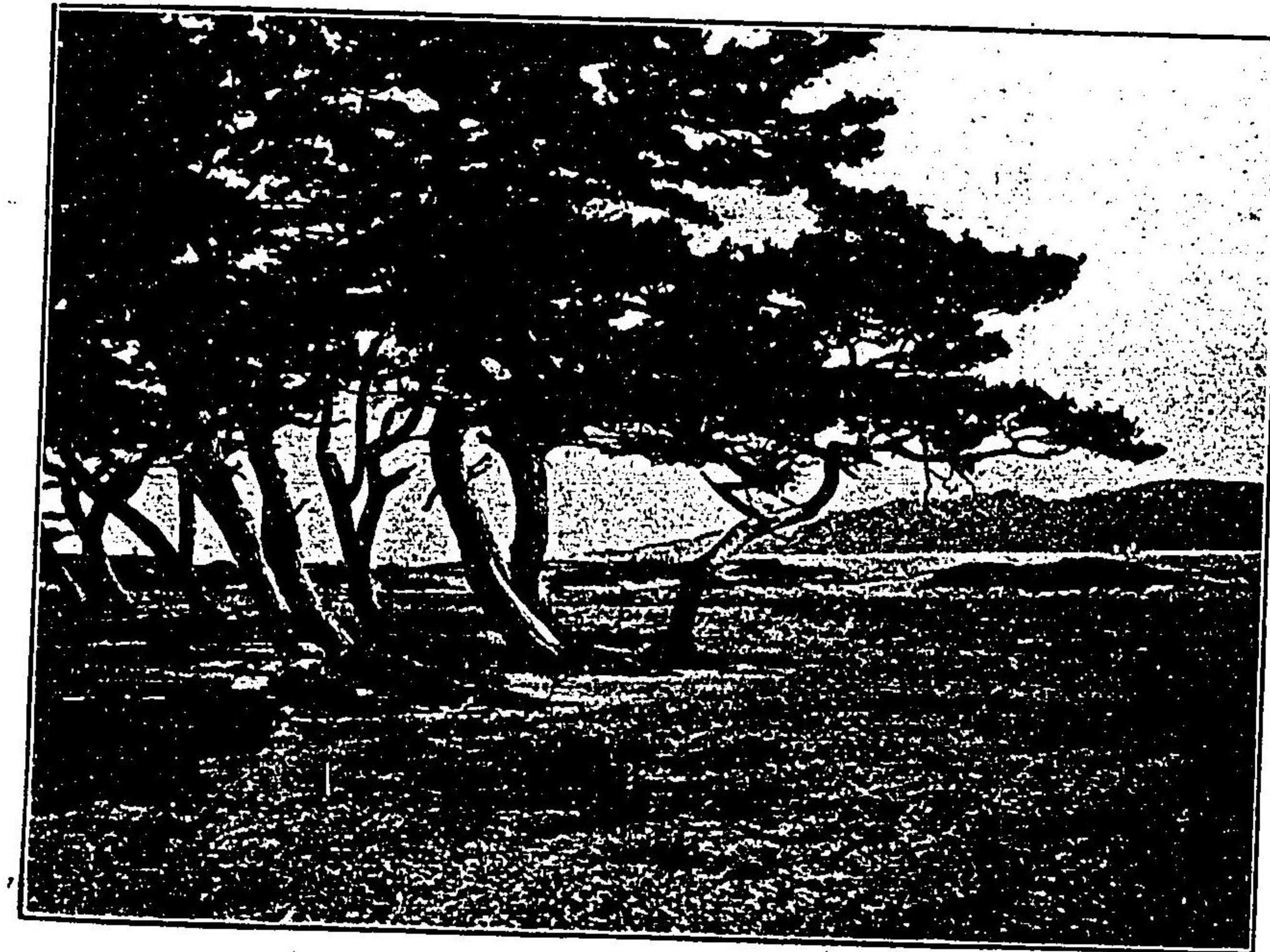


(第十一圖)



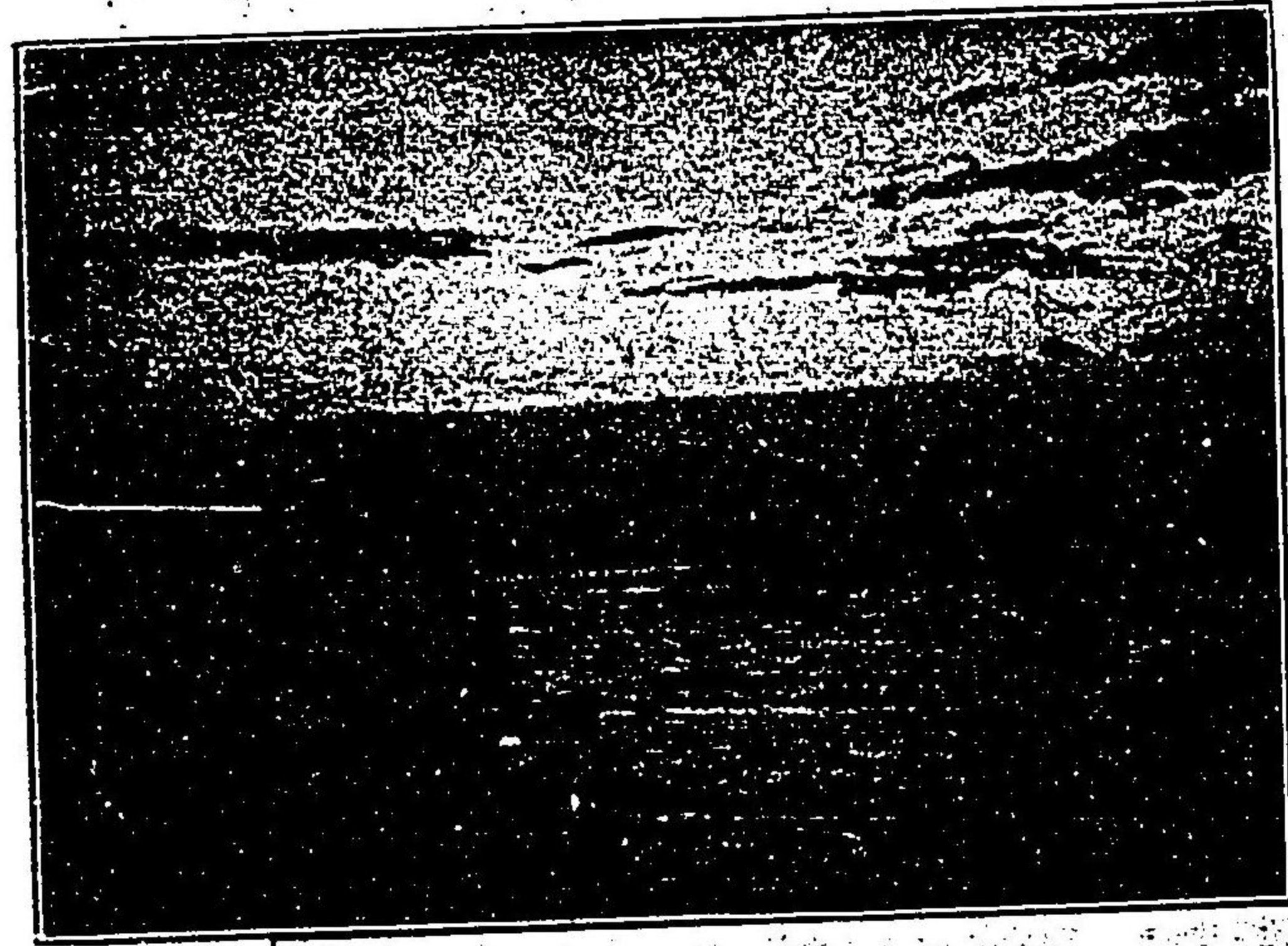
(近附阪大)川淀國津攝 (乙)

(第十圖)



む望を島路淡りよ子舞國曆播 (乙)

伊勢國四日市 (甲)



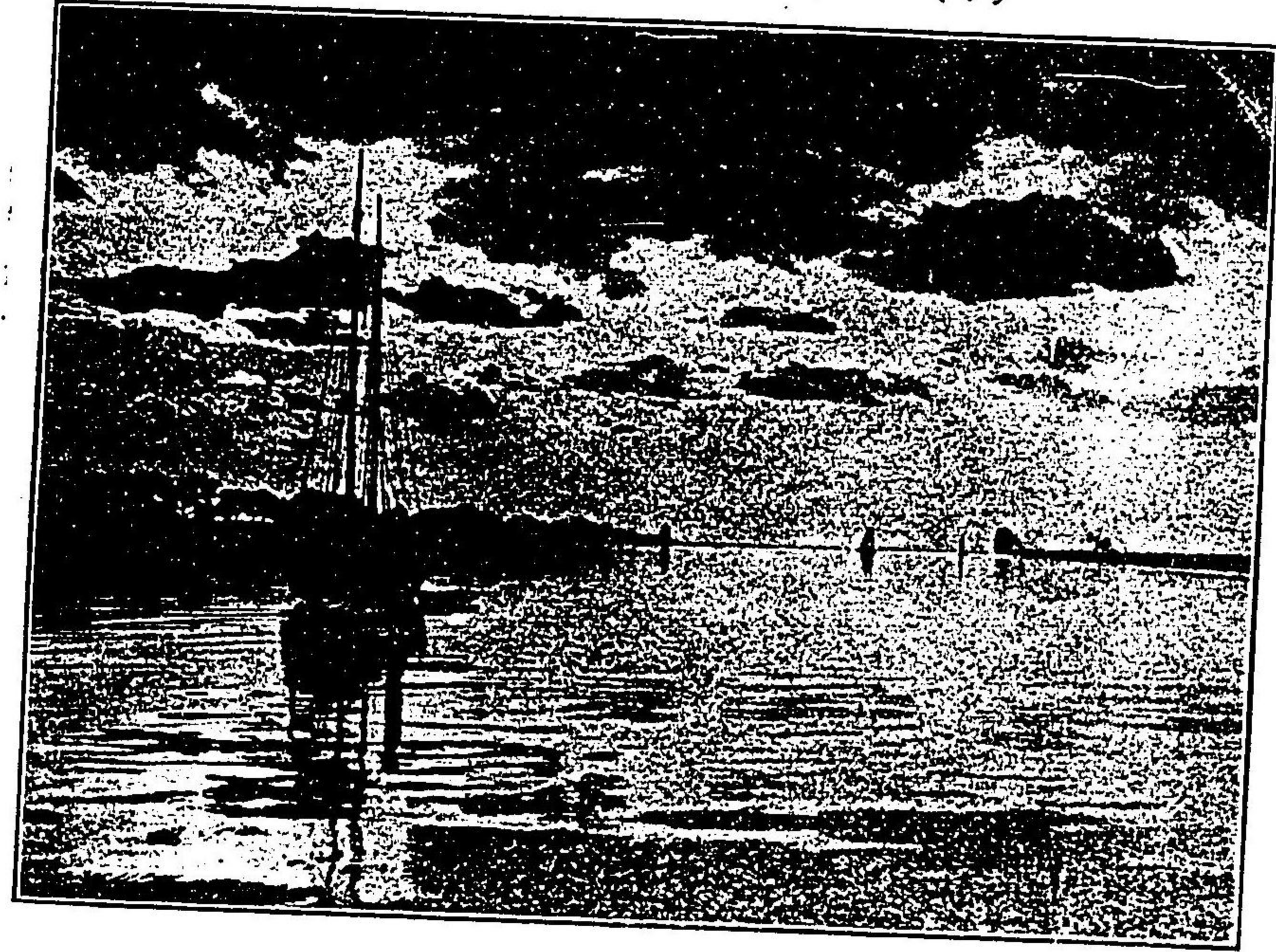
(乙) 伊勢國二見浦



(第十三圖)

志摩國海岸特色 (丙)

大阪木津河口 (甲)



(第十二圖)

攝津國神戶湊川舊觀 (乙)